

## 東海再処理施設の廃止措置計画変更認可申請対応等について

令和5年6月8日  
再処理廃止措置技術開発センター

### ○令和5年6月8日 面談の論点

- 東海再処理施設安全監視チーム第71回会合資料について
  - ・ 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所 再処理施設に係る廃止措置計画変更認可申請書（令和5年5月31日申請）の概要について（資料1）
  - ・ ガラス固化処理技術開発施設(TVF)における固化処理状況について（資料2）
  - ・ 低放射性廃棄物処理技術開発施設(LWTF)硝酸根分解設備に係る実証プラント規模試験に向けた取組状況について（資料3）
  - ・ 高放射性廃液を扱わない「高放射性廃液貯蔵場（HAW）及びガラス固化技術開発施設（TVF）ガラス固化技術開発棟以外の施設」（その他の施設）の火災防護対策に関するプラントウォークダウンの結果について（資料4）
- 火災防護に係るプラントウォークダウン結果の評価について（資料5）
- その他

以上

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所  
再処理施設に係る廃止措置計画変更認可申請書(令和5年5月31日申請)  
の概要について

【概要】

○ 東海再処理施設の廃止措置計画について、再処理施設の技術基準に関する規則を踏まえた安全対策等の設計及び工事の計画を追加するため、令和5年5月31日に廃止措置計画変更認可を申請した。それぞれの概要について別紙に示す。

(1) スラッジ貯蔵場の津波対策における止水弁の設置

スラッジ貯蔵場(LW)の廃溶媒貯蔵セル(R0 31 及び R0 32)への海水の流入を防止するためにセル給気系ダクトに止水弁を設置する。

(2) 焼却施設 空気圧縮機の更新

焼却施設(IF)の空気圧縮機(342K811 及び 342K812)について、高経年化の観点から既設と同等以上の性能(発生流量及び圧力)を有する同形式の空気圧縮機に更新する。

(3) クリプトン回収技術開発施設 空気圧縮機の制御系の改造

クリプトン回収技術開発施設(Kr)の2台の空気圧縮機(K86-K77 及び K86-K99)について、故障したとしても予備機へ速やかに切換え可能とするため、制御系の改造を行う。

令和5年6月●日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

再処理施設に係る廃止措置計画変更認可申請書(令和5年5月31日申請)の概要について

東海再処理施設の廃止措置計画について、再処理施設の技術基準に関する規則を踏まえた安全対策等の設計及び工事の計画を追加するため、令和5年5月31日に廃止措置計画変更認可を申請した。

1. スラッジ貯蔵場の津波対策における止水弁の設置

高放射性廃液貯蔵場（HAW）、ガラス固化技術開発施設（TVF）ガラス固化技術開発棟及びそれらに関連する施設以外で放射性物質を貯蔵・保管する分離精製工場（MP）等の施設のうち、スラッジ貯蔵場（LW）の廃溶媒貯槽については、廃止措置計画（原規規発第2110059号：令和3年10月5日認可）の津波影響評価において、セル内に流入した海水の圧力により廃溶媒貯槽（333V10, V11）が損傷し、貯槽内の溶液の一部が海水とともに建家外に流出する可能性が否定できない結果を得ており、セルへの海水の流入量低減の対策を行うこととしている。

このため、セルへの海水の流入を防止するための対策として、セルの給気系ダクトに止水弁（圧空作動式バタフライ弁）を設置するとともに、止水弁を遠隔で操作するための操作盤を運転員が常駐する廃棄物処理場（AAF）に設置する（図-1）。

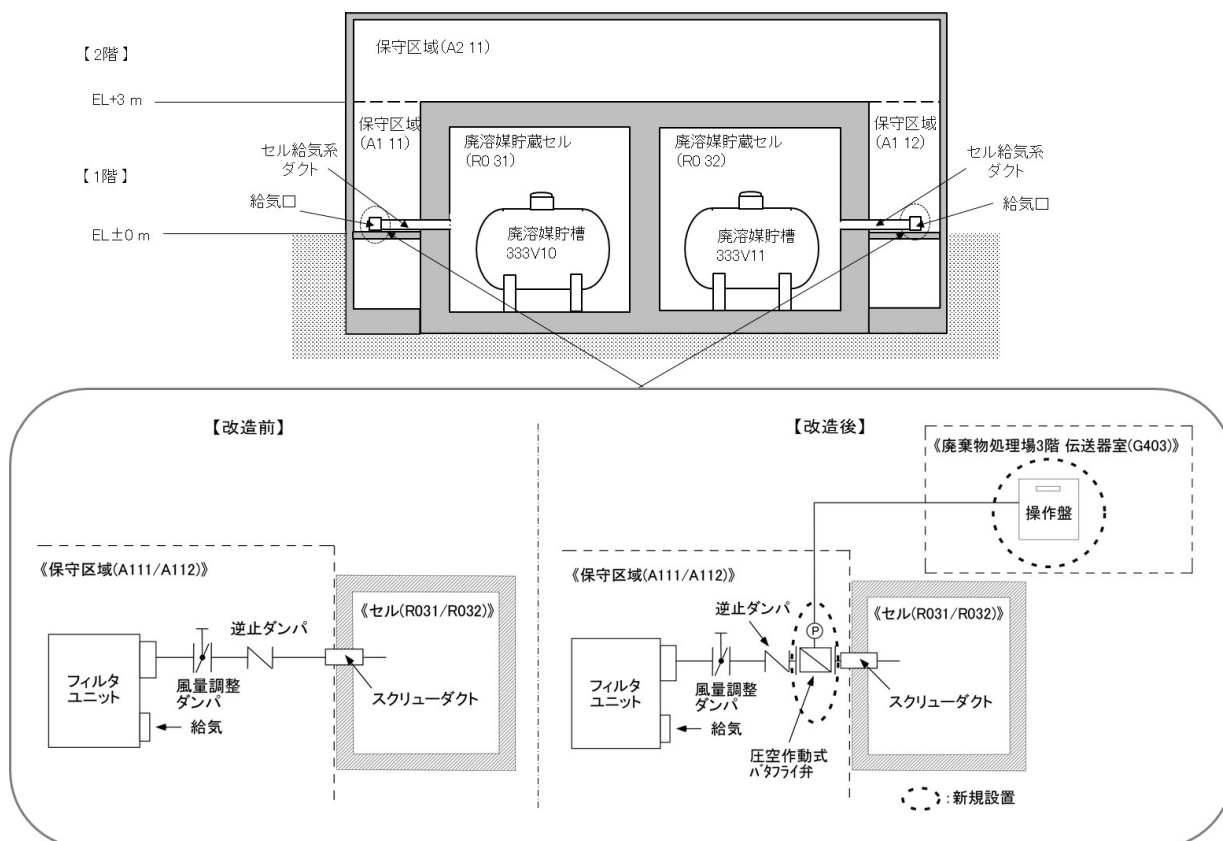


図-1 スラッジ貯蔵場の津波対策における止水弁の設置概要

## 2. 焼却施設 空気圧縮機の更新

焼却施設に設置されている空気圧縮機(342K811及び342K812)は、設置後30年以上が経過し、製造メーカーでの部品製造が中止され、定期的な部品交換や故障時の対応が困難となったことから、既設と形式、容量等が同等以上の空気圧縮機に更新を計画している(図-2)。耐震分類は、既設と同様にB類とする。

本更新は、焼却施設の処理運転停止中に実施し、更新期間中も圧縮空気の供給を維持するため、停止中の予備機の空気圧縮機から更新を実施し、更新後の試験・検査により問題がないことを確認後、他方の空気圧縮機の更新を実施する。なお、更新期間中に万一、運転中の空気圧縮機等に異常が確認された場合又は本更新で一時的に空気圧縮機を2台停止する必要がある場合は、再処理施設内のユーティリティ施設からの圧縮空気の供給に切り替えることで、圧縮空気の供給を維持する。

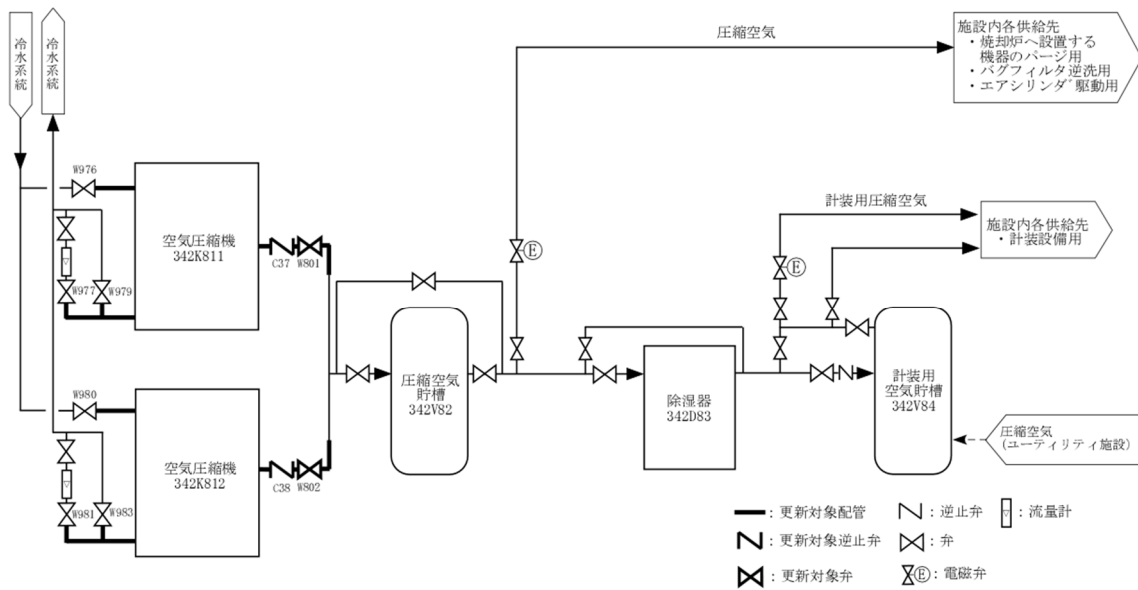


図-2 焼却施設 圧縮空気設備の系統概要図

### 3. クリプトン回収技術開発施設 空気圧縮機の制御系の改造

クリプトン回収技術開発施設では、クリプトンの回収運転及び管理放出を終了しており、今後、窒素を供給する液体窒素設備を維持する必要がないことから、津波漂流物対策として当該設備を撤去する計画である。

液体窒素設備の撤去に伴い、当該設備が有する空気圧縮機の自動バックアップ機能がなくなることから、運転操作時の利便性を向上させる目的で、その代替となる自動切換え機能を既存の空気圧縮機（2基）に付加するため、自動切換え制御盤の追加、弁の自動化及び配管の更新を行う（図-3）。

本工事により、空気圧縮機の故障停止時の対応及び通常の点検・月例切換えの対応について運転操作時の迅速性及び利便性が向上し、圧縮空気の連続供給が可能となる。

なお、圧縮空気の供給が停止した場合は、負圧指示調節計による負圧の監視及び調整機能が失われるものの、換気調整ダンパーが安全側（換気を維持する側）に働き、施設内の負圧（閉じ込め機能）は維持されるため安全上の問題はない（負圧は通常より深くなる）。

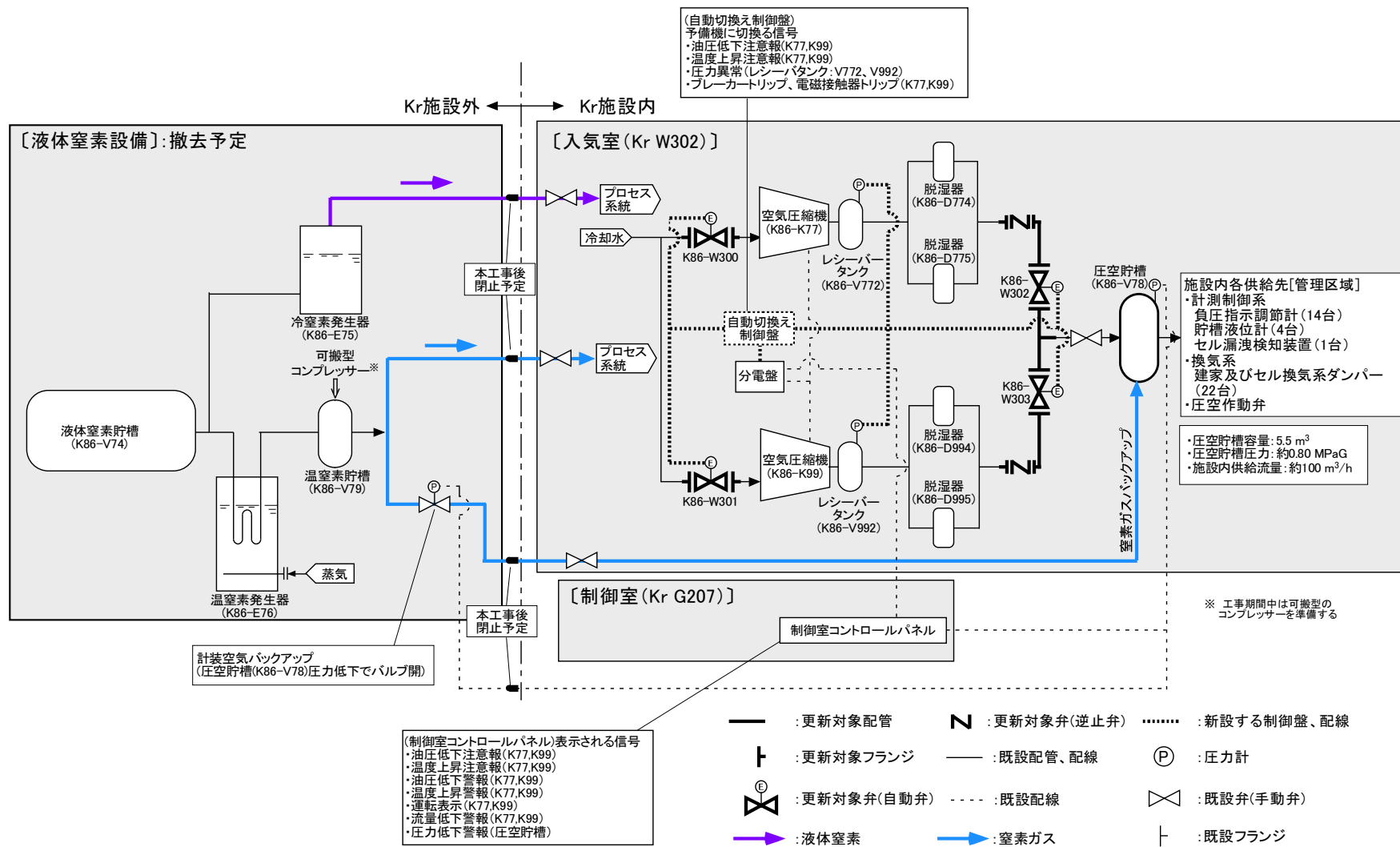


図-3 空気圧縮機 制御系の改造 概要図

## ガラス固化技術開発施設(TVF)における固化処理状況について

## 【概要】

## 1. TVF の状況

- 3号溶融炉への更新の準備作業として、解体場にて残留ガラス除去装置等の解体作業及び廃棄物の詰替え作業を継続中。
- 解体作業と併行して実施している高経年化対策のうち、両腕型マニプレータのコードリールの交換については、5月12日をもって完了した。その後、両腕型マニプレータのコードリールの交換に使用した治具等の搬出と、本年2月に停止したインセルクーラファンの電動機ユニットの交換作業を実施中。
- なお、交換した両腕型マニプレータのコードリールが高線量であることから人手でなく遠隔解体が必要なこと、交換するインセルクーラファンも解体が必要であることから、これら追加の遠隔解体に3～4ヵ月程度要する見込みであり、工程遅延の可能性が高い状況。工程組み換え等によりリカバリーに努めている。

## 2. 3号溶融炉の製作状況

- 3月6日から4月11日にかけて、溶融炉の基本性能(ガラスの加熱/溶融性、流下開始/停止性)の確認を目的に、モックアップ試験棟においてガラスカレットを用いた試験を実施し、加熱、溶融、流下に係る溶融炉の基本性能を満足していることを確認した。
- 4月10日～11日にかけて、ドレンアウト後の溶融炉内構造物(レンガ、電極)の健全性を確認するための炉内観察を実施した。炉内ガラスはほぼ全量抜き出され、炉底の底部電極が確認できている。また、電極や耐火レンガ等に有意な損傷は見られず、健全であることを確認している。
- 今後は、白金族元素を含有する模擬廃液により実際の運転を模擬した運転条件確認試験を令和5年11月～12月頃に行い、ガラスカレット試験において設定した運転パラメータを用いて、白金族元素の抜き出し性等を踏まえた堆積管理指標の見直しに係るデータの取得、シミュレーション解析の検証のための温度分布等のデータ取得を行う計画である。

令和 5年 6月 ●日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

## 1. TVF の状況

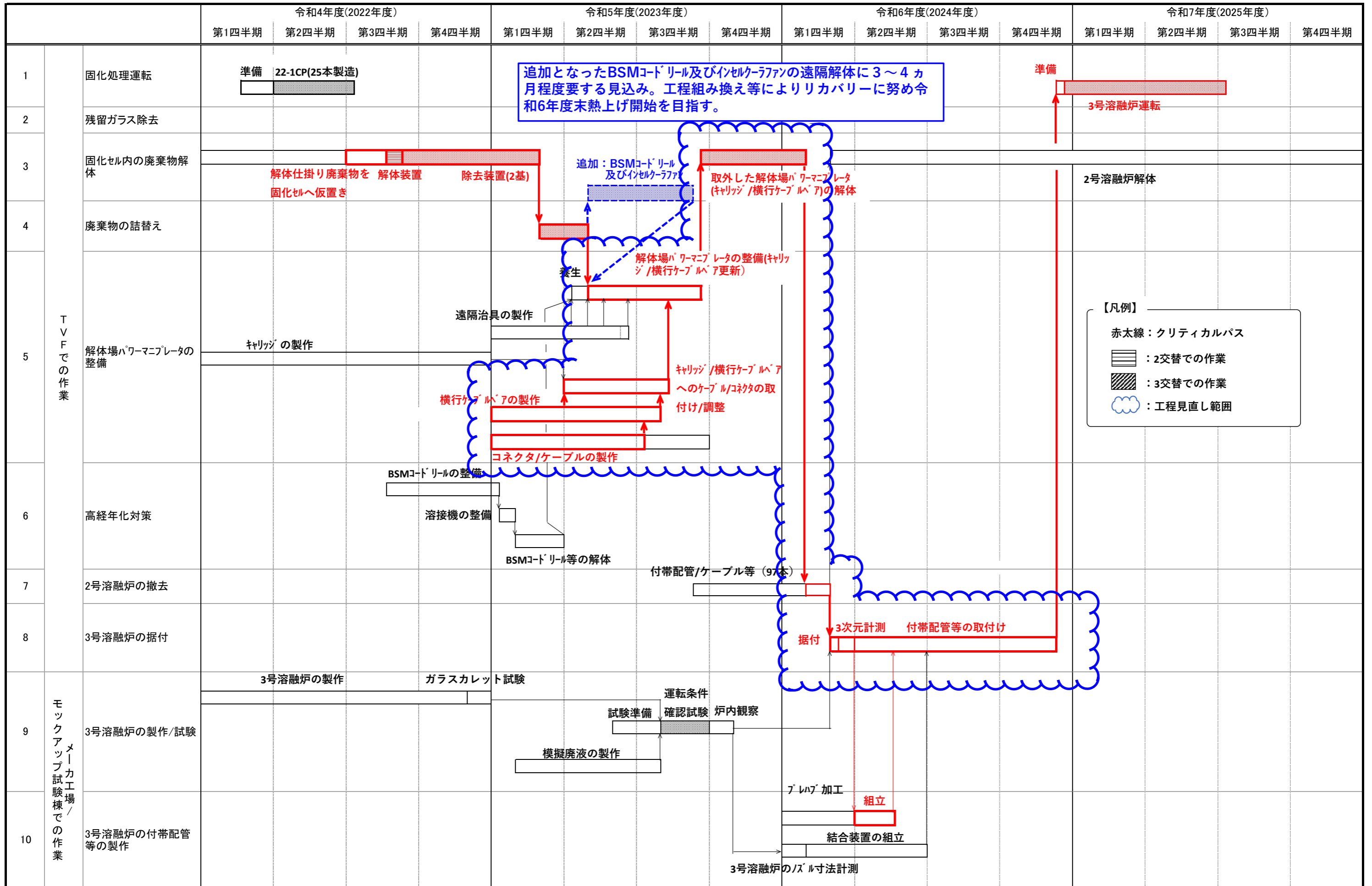
TVF は、令和 6 年度末熱上げ開始を目指し、現在、3 号溶融炉の固化セル内搬入に向け、固化セル内の高放射性固体廃棄物の解体作業、高経年化設備の更新作業を進めている。

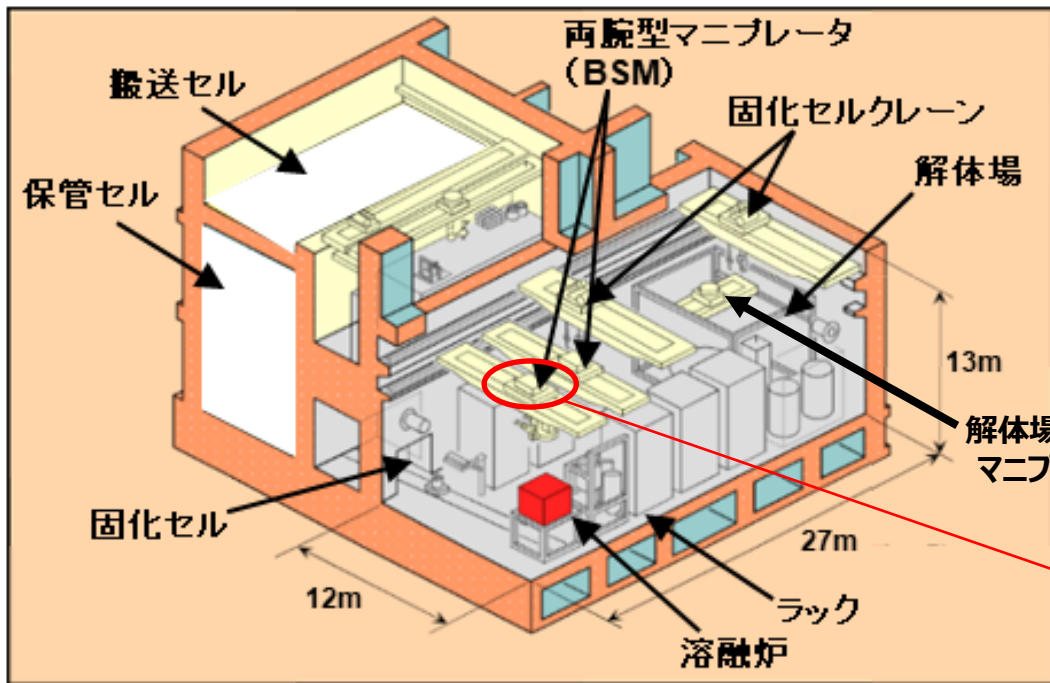
- (1) 3 号溶融炉への更新の準備作業として、解体場にて残留ガラス除去装置等の解体作業及び廃棄物の詰替え作業を継続中。
- (2) 解体作業と併行して実施している高経年化対策のうち、固化セル内に設置している両腕型マニプレータ(BSM)の部品交換(コードリール整備)を除染セルにて直接保守(人手)で行っているが、過去に実施した溶融炉内の残留ガラス除去作業等の影響により、交換予定のコードリール周辺が想定以上に汚染しており(過去の実績を上回る高線量)、被ばく低減、汚染拡大防止への追加の対策が必要となり、交換作業に時間を要したが、5 月 12 日をもって完了した。
- (3) その後、本年 2 月に停止したインセルクーラファンの電動機ユニットの交換作業を実施し、昨年度停止したインセルクーラファンの電動機ユニットの使用前自主検査も併せて受検し、合格をもって復旧予定(6 月中旬予定)。
- (4) 交換した BSM のコードリールが高線量であることから人手でなく遠隔解体が必要なこと、交換したインセルクーラファンも解体・廃棄が必要であること、3 号溶融炉への更新に向けて固化セル内に仮置きするスペースもないことから、これら追加の遠隔解体に 3~4 ヶ月程度要する見込みであり、工程遅延の可能性が高い状況。工程組み換え等によりリカバリーに努めている。
- (5) なお、クリティカルパスではないが、整備した BSM とは別の BSM 旋回台に設置している ITV カメラ映像に不調の兆候が認められ、ケーブル/コネクタ等の点検整備をインセルクーラファンの交換作業と併せて追加で実施する。



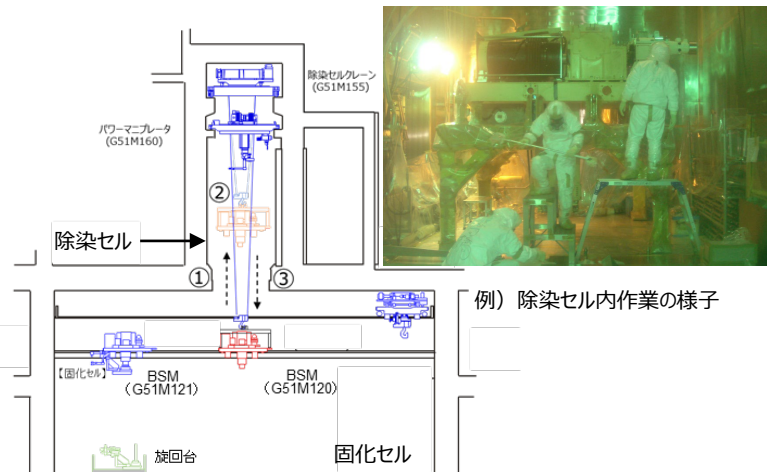
# 3号溶融炉への更新スケジュール

令和4年10月21日作成  
令和5年5月31日加筆修正

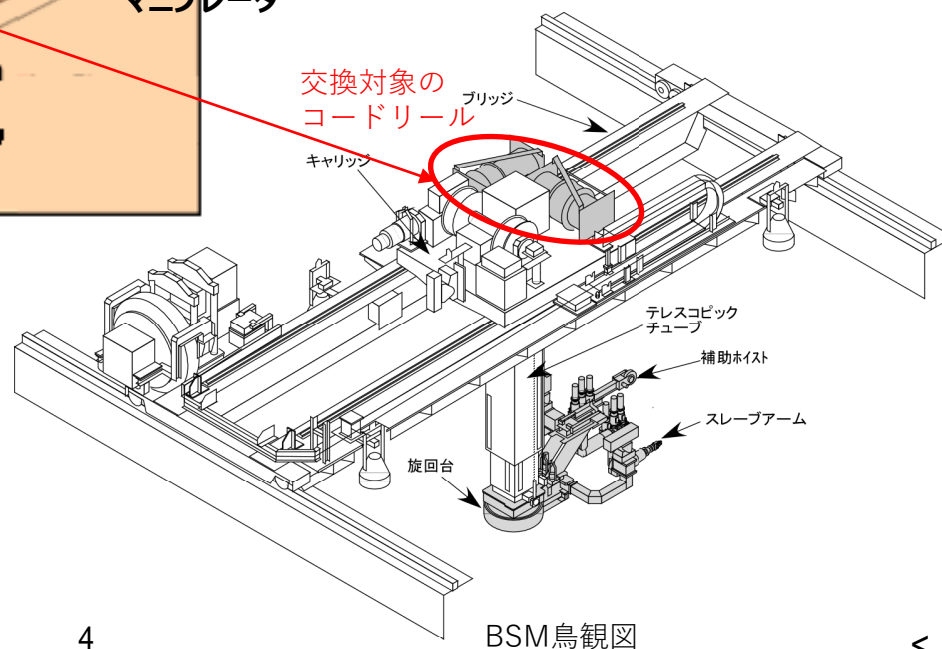




固化セル 鳥瞰図



更新手順 (固化セル→除染セル:直接保守)

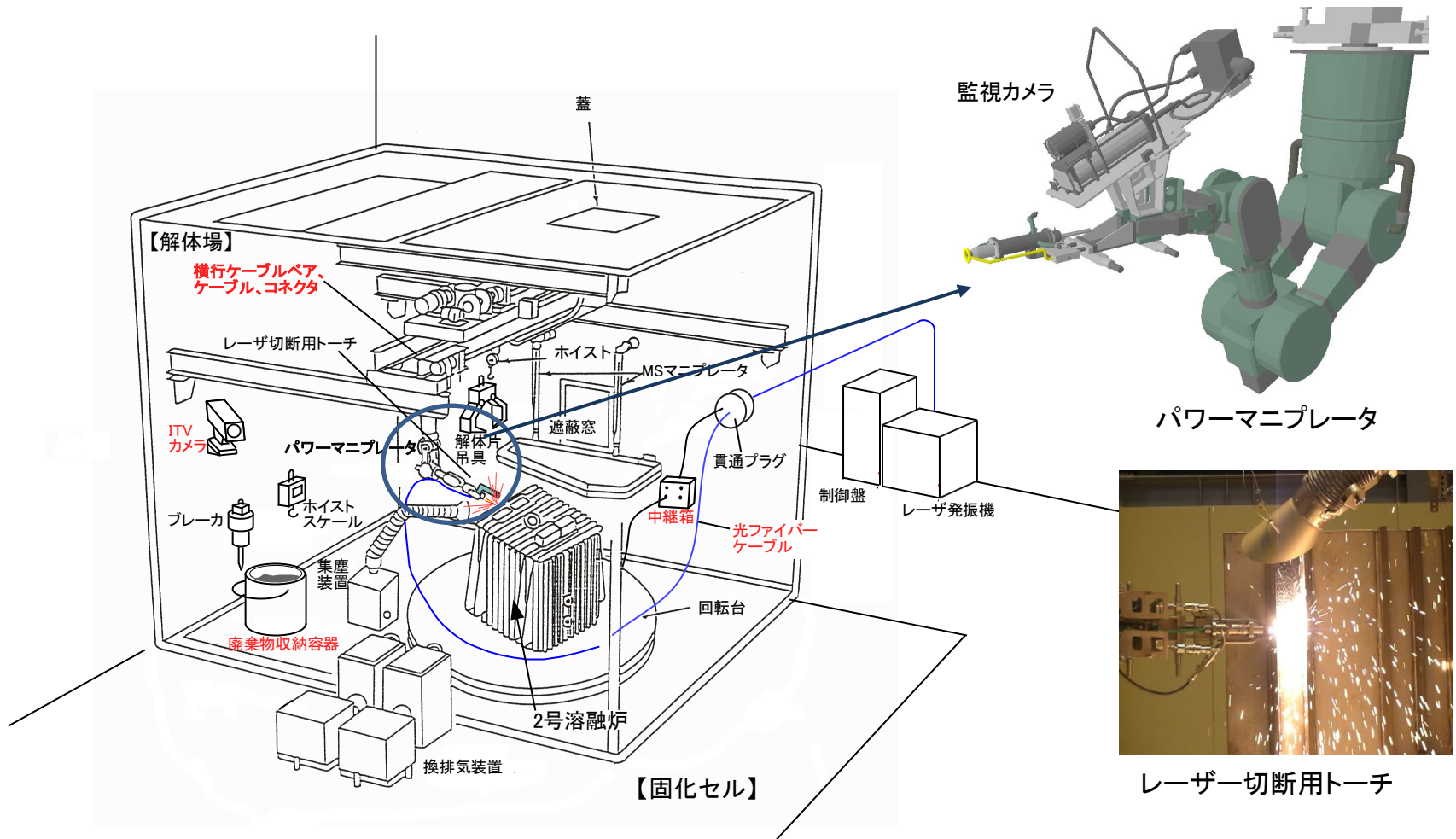


BSM鳥観図

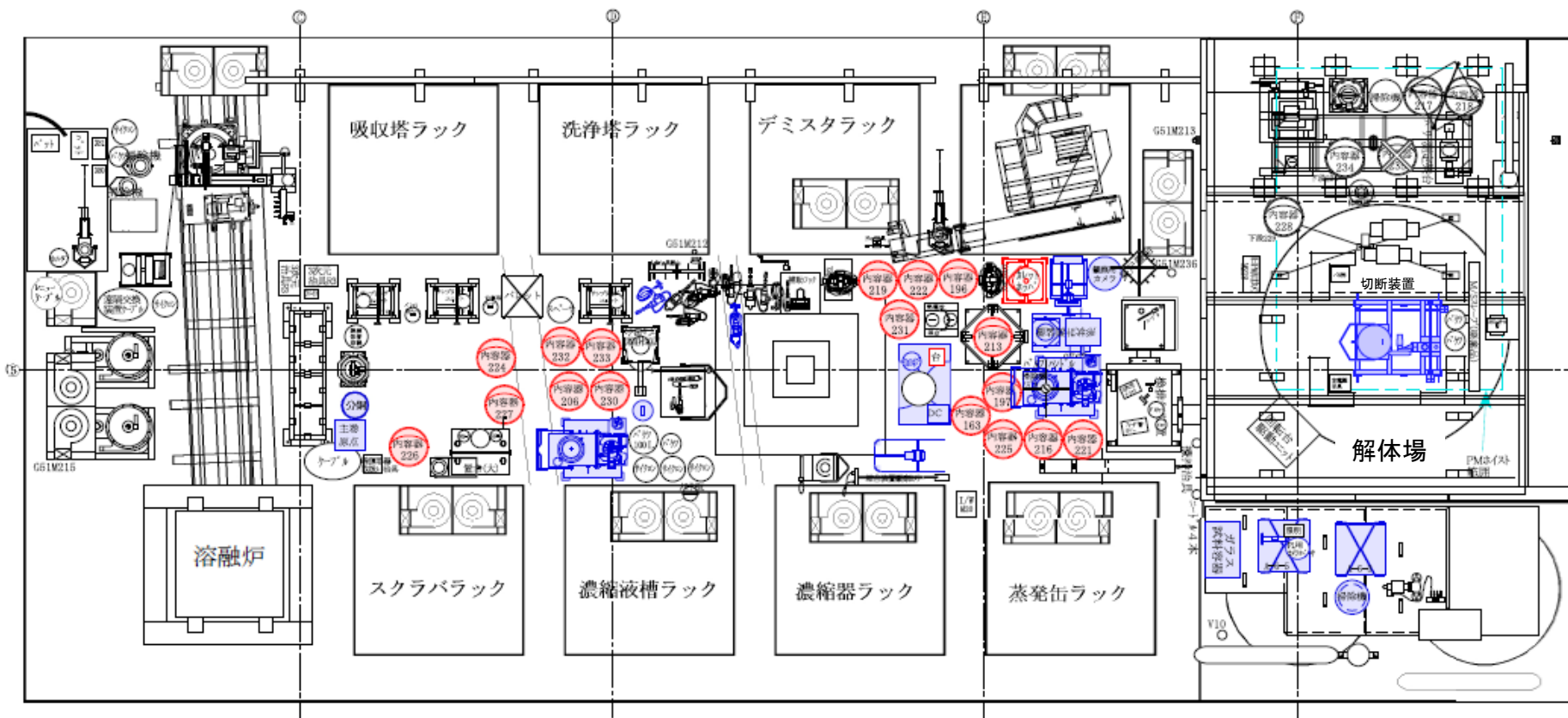
# 3号溶融炉更新の概要

## (2)解体場パワーマニプレータの整備

令和4年12月15日第68回東海再処理施設  
安全監視チーム会合資料に加筆修正

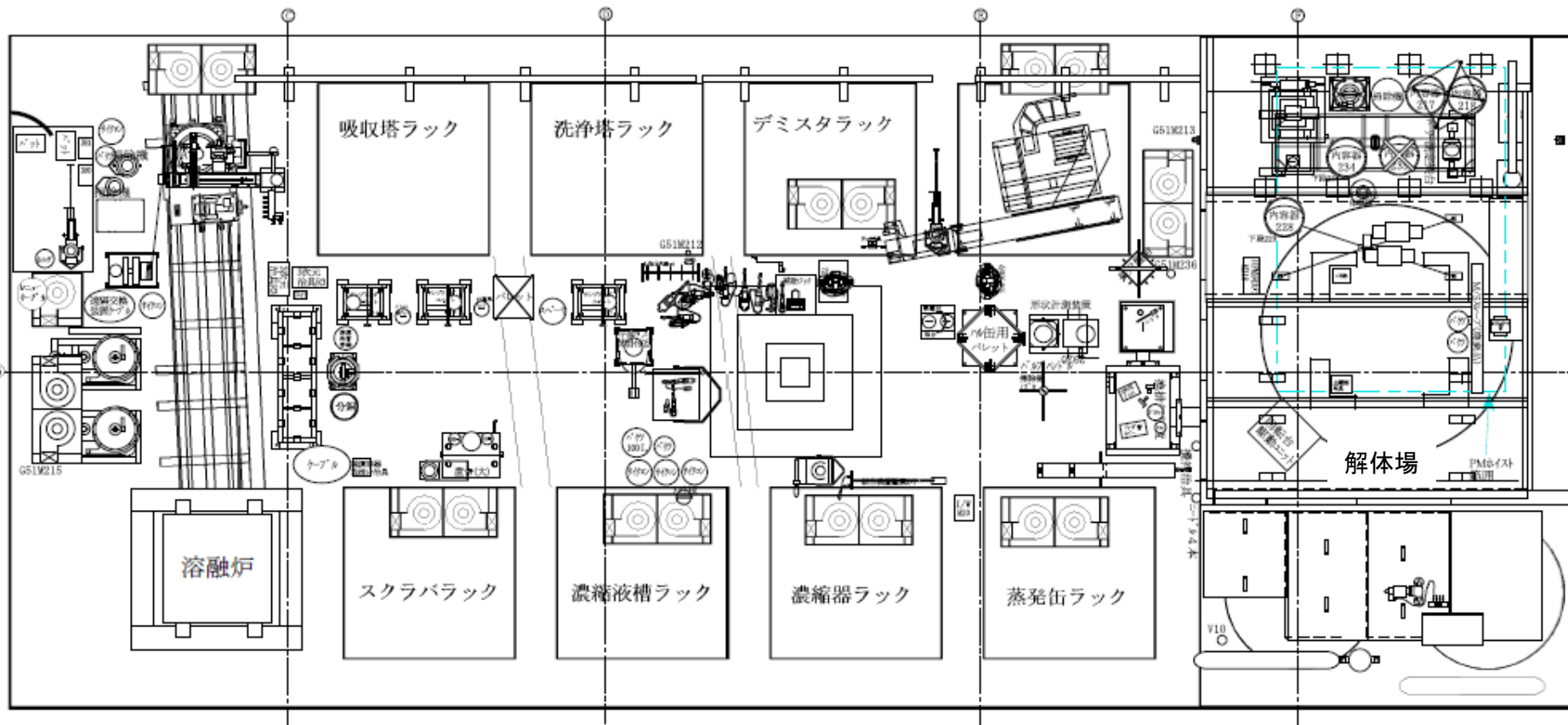


赤字箇所: 3号溶融炉への更新に伴い、整備が必要な  
解体場パワーマニプレータの部品類



青: 廃棄する装置等(解体して廃棄物容器に収納して搬出)  
赤: 廃棄物を収納済みの廃棄物容器(収納物を詰替えて搬出)

TVF固化セル内の配置(R4. 9. 2現在)



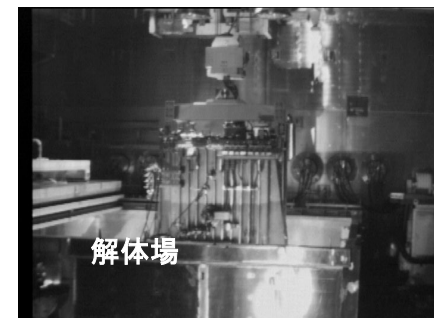
TVF固化セル内の配置(例)

溶融炉更新に必要なスペース確保後の固化セル内の状況

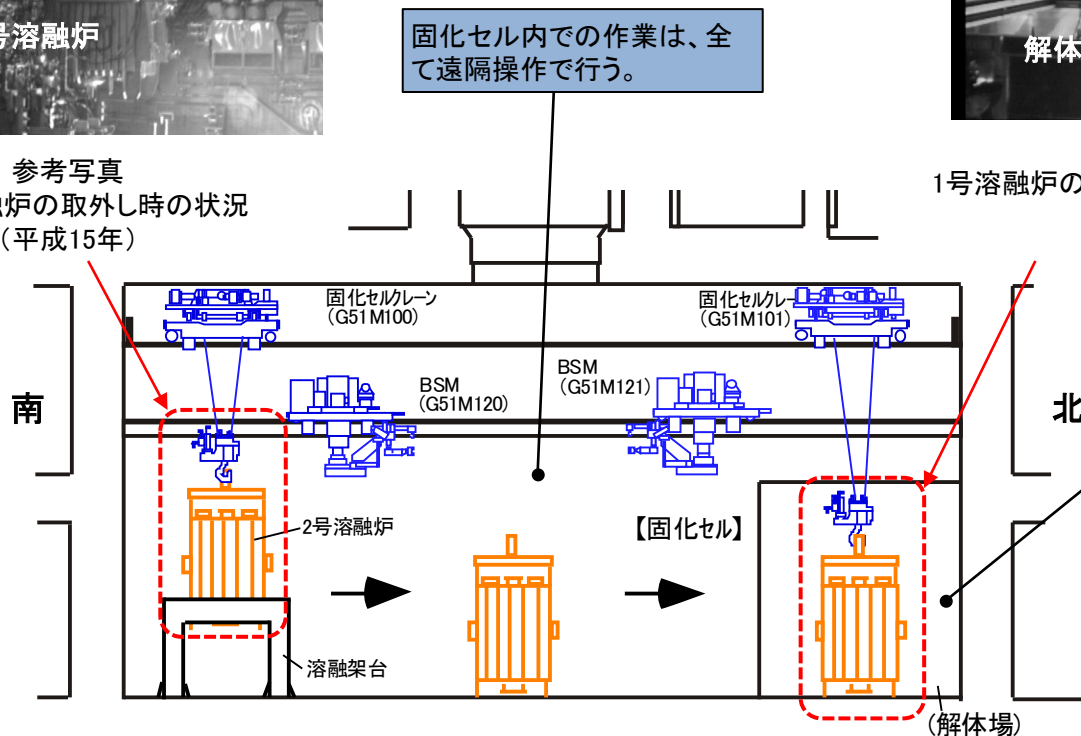
### ① 2号溶融炉の取外し ⇒ 固化セル内の解体場に移動



参考写真  
1号溶融炉の取外し時の状況  
(平成15年)



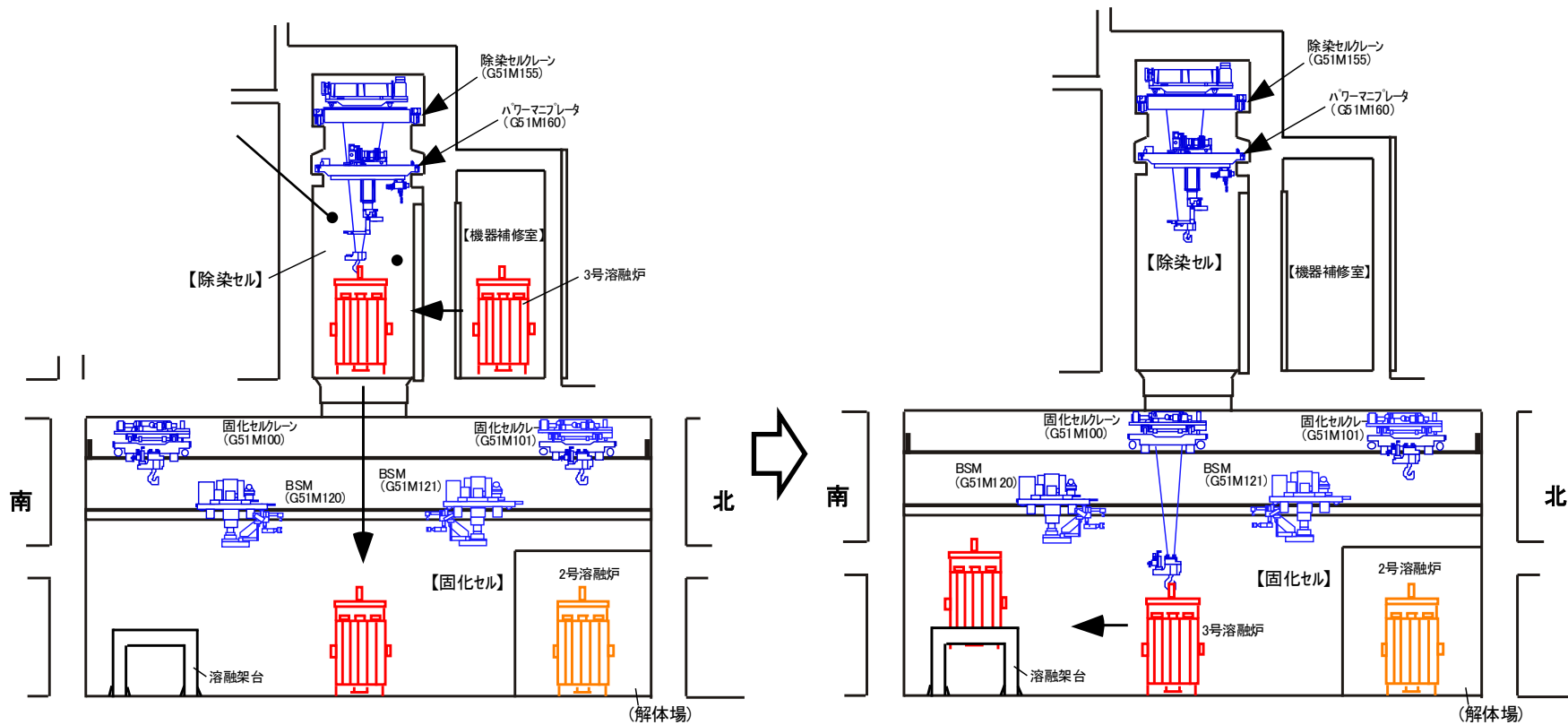
参考写真  
1号溶融炉の解体場への移動時の状況  
(平成15年)



解体場内で2号溶融炉を解体し、解体に伴い発生した高放射性固体廃棄物は、東海再処理施設内の第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設へ搬出する。

### ② 3号溶融炉を固化セル内に搬入

### ③ 3号溶融炉据付け



## 2. 3号溶融炉の製作状況

ガラス固化技術開発施設(TVF)では、令和6年度末からの熱上げ開始に向け、3号溶融炉の製作を進めてきた。

令和5年3月6日から4月11日にかけて、溶融炉の基本性能(ガラスの加熱/溶融性、流下開始/停止性)の確認を目的に、モックアップ試験棟においてガラスカレット\*1を用いた試験を実施した。

\*1 ガラス固化体中の放射性廃棄物成分を非放射性同位元素に置き換えることで、実際の廃棄物を含むガラスの物性を模擬したガラス(ただし、FP成分である白金族元素は非含有)

## 2.1 ガラスカレット試験の概要

### (1) 試験期間(表-1 参照)

令和5年3月6日 ~ 令和5年4月11日

※熱上げ開始から炉内観察までを試験期間とする。

### (2) 試験場所

核燃料サイクル工学研究所 モックアップ試験棟

### (3) 試験内容(表-2 参照)、主な確認項目

#### ① 熱上げ試験

溶融炉内にガラスカレットを供給し、間接加熱装置で熱上げを開始した後、電極間通電に移行しさらに加熱し、加熱時の状態を確認する。

確認項目:熱上げ時の昇温性、電極間通電確認や温度計の作動性

#### ② カレット溶融試験

約50kg\*2の部分流下を複数回行い、流下操作時の状態を確認する。

\*2 通常の流下1回当たりの流下重量:約300kg(ガラス固化体1本分)

確認項目:炉内温度分布(補助電極温度 $820^{\circ}\text{C}\pm 5^{\circ}\text{C}$ )、ガラス液位、炉底低温運転からの加熱条件(流下開始条件:底部電極温度 $745^{\circ}\text{C}$ 以上)、溶融機能(ガラス温度 $1100^{\circ}\text{C}\pm 50^{\circ}\text{C}$ 程度)、流下機能(流下開始から流速50kg/hまでの所要時間:10分以内目安)

#### ③ ドレンアウト(炉内ガラスの全量拔出し)試験

炉内のガラス(固化体3本分)を全量流下し、流下時の状態を確認する。

確認項目:ドレンアウトに伴う液位低下に対応した流下条件

#### ④ 炉内観察

炉を冷却後、炉内の状態を観察する。

確認項目:炉内構造物(レンガ、電極)の健全性



## 2.2 試験結果

本試験では、以下に示す通り、各確認項目の確認結果を評価し、2号溶融炉と同様の運転パラメータ(溶融条件、炉底低温運転からの加熱条件、流下条件等)により、設定した判定基準を満足した運転が可能であり、3号溶融炉の基本性能を満足していることを確認した。

### ① 熱上げ試験(図-1 参照)

- ✓ ガラス固化体約2本分<sup>\*3</sup>のガラスカレットを溶融炉内に投入し、3月6日15:01、間接加熱装置の起動を以って、熱上げを開始した。
  - \*3 炉内の溶融ガラス液位が、主電極上端となるガラス重量
- ✓ 間接加熱による炉内各部の昇温に伴い、各電極間の通電が行えることを順次確認、3月21日16:14に全ての通電確認完了を以って、熱上げを完了した。
  - ・主電極間通電 :3月18日10:11 通電確認完了
  - ・主電極-コモンプローブ間通電 :3月20日5:38 通電確認完了
  - ・補助電極間通電 :3月21日12:22 通電確認完了
  - ・主電極-流下ノズル間通電 :3月21日16:14 通電確認完了
- ✓ 熱上げ期間中において、各温度計(主電極、補助電極、底部電極、ガラス温度等)が正常に作動し、各部の温度上昇に異常がないことを確認した。
- ✓ 今回、熱上げ開始から主電極間通電確認完了までに要した期間は、約11.8日であり、現行溶融炉(2号溶融炉)の平成15年5月における築炉後の最初の熱上げ時の所要期間(約10.3日)に比較して期間を要しており、次回運転条件確認試験(令和5年第3四半期)の結果を踏まえて、熱上げ期間を設定する。

### ② カレット溶融試験

- ✓ 3月22日から3月26日にかけて、運転パラメータを調整しながら約50kg/回の部分流下を計5回実施した。
  - ・部分流下1回目:3月22日15:02~15:24(流下重量:56.7kg)
  - ・部分流下2回目:3月23日14:23~14:50(流下重量:51.4kg)
  - ・部分流下3回目:3月24日13:23~13:58(流下重量:47.3kg)
  - ・部分流下4回目:3月25日10:13~10:48(流下重量:46.6kg)
  - ・部分流下5回目:3月26日10:03~10:47(流下重量:56.8kg)
- ✓ 主電極間電力を39kWに一定に維持(2号溶融炉の運転条件)することで、ガラスの溶融状態(ガラス温度:1100°C±50°C程度)を維持できることを確認した。(図-2 参照)

- ✓ また、主電極、底部電極の強制空冷量、補助電極間電流を調整し、白金族元素の炉底への沈降・堆積を抑制するための炉底低温運転(補助電極温度:  $820^{\circ}\text{C} \pm 5^{\circ}\text{C}$ (補助電極中央の高さにおけるガラス温度  $850^{\circ}\text{C}$ 相当))が行えることを確認した。(図-2 参照)
- ✓ 流下操作については、炉底低温運転の状態から、流下開始予定の5時間前(2号溶融炉の作動試験の実績)から補助電極間通電及び主電極-流下ノズル間通電により炉底部を加熱し、2号溶融炉に適用している流下ノズルの加熱を開始するための温度条件(底部電極温度  $720^{\circ}\text{C}$ 以上)まで昇温できることを確認した。(図-3 参照)
- ✓ 上記の炉底部加熱後、流下ノズルの高周波加熱により、2号溶融炉に適用している流下を開始するための温度条件(底部電極温度  $745^{\circ}\text{C}$ 以上)まで昇温し、流下を開始することができた。流下においては、流下速度の立ち上がり<sup>\*5</sup>及び流下ノズル先端付近における流下ガラスの状況から安定した流下が行えていることを確認した。(図-3 参照)

\*5 流下開始から流下速度  $50\text{kg/h}$  までの所要時間  
: (10分以内の目安に対し)3~4分

- ✓ 通常の流下停止時操作として、流下ノズルの加熱を停止し、流下ノズルの強制空冷を行うことで、流下が停止することを確認した。また、流下ノズル加熱電力の調整により流下速度を制御し、流下停止操作を開始してから流下が停止するまでに流下するガラス重量を調整できることを確認した。
- ✓ 炉内へのガラスカレットの追加供給によるガラス液位の上昇に伴い、レベラー槽内に設置されたガラス液位計(電気抵抗式)が正常に作動し、流下操作に必要となるガラス液位が検知できることを確認した。

### ③ ドレンアウト試験(図-4 参照)

- ✓ 3月27日から3月29日にかけて、ドレンアウト(炉内ガラスの全量拔出し: ガラス固化体3本分の流下)を実施した。
  - ・1本目の流下: 3月27日 14:13~16:22 (流下重量:  $309.2\text{kg}$ )
  - ・2本目の流下: 3月28日 14:23~16:05 (流下重量:  $294.6\text{kg}$ )
  - ・3本目の流下: 3月29日 1:10~ 2:48 (流下重量:  $263.8\text{kg}$ )
- ✓ ドレンアウトにおいては、間接加熱装置を併用し、液位低下に伴うガラス温度の低下を抑制するとともに、主電極表面の露出に伴う通電面積の減少に応じて主電極間電力を下げることにより、電極の溶損を防止しつつ、炉内ガラスをほぼ全量、拔出せることを確認した。

#### ④ 炉内観察(図-5 参照)

- ✓ 3月29日のドレンアウト完了後、同日5:34に3号溶融炉の全ての加熱電源を停止し、放冷を行った後、4月10～11日に炉内観察を行った。
- ✓ 観察の結果、以下の通り、炉内構造物(レンガ、電極)の健全性に問題がないことを確認した。

・耐火レンガ(接液部、気相部、発熱体遮蔽レンガ)

有意な割れ、欠け\*6、ズレ、目地部の開きがないことを確認。

\*6 気相部耐火レンガに一部欠けが確認されたが、耐火レンガ使用初期の熱膨張・熱収縮により生じたものであり、今後の溶融炉の運転に伴い欠損が拡大するものではない。

・電極(主電極、補助電極、底部電極)

溶損等の損傷がないことを確認。

- ✓ 炉内観察と合わせて流下ノズルの位置計測を実施し、ガラスカレット試験前の位置に比べ、築炉後最初の運転に伴う耐火レンガの熱膨張・熱収縮により、主電極A側に1mm水平移動していることを確認した。また、流下ノズルの傾きについては、2号溶融炉における流下ノズルと加熱コイルの接触に伴う流下停止事象の対策として講じたインナーケーシングの対称構造化により、傾きが生じていないことを確認した。3号溶融炉用の加熱コイルの組立は、運転条件確認試験後の計測結果を踏まえて実施する。

### 2.3 今後の対応

今回のガラスカレット試験において2号溶融炉と同様の運転パラメータにより運転が可能であり、溶融炉の基本性能を満足していることを確認できたことから、今年度の第3四半期に予定している模擬廃液を用いた運転条件確認試験に向けて模擬廃液の手配等の準備を進める。

運転条件確認試験においては、白金族元素を含む模擬廃液を使用し、3号溶融炉の実際の運転に用いる炉底低温運転等の条件の確認を行うとともに、白金族元素の堆積管理指標や検知方法の改善に向けたデータ取得を行う。

また、TVFにおいては、2号溶融炉の撤去作業として、今年度の第3四半期より2号溶融炉の付帯配管等の撤去作業に着手する予定である。

以上

表-1 試験スケジュール(実績)

	令和5年3月														令和5年4月																											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
交替勤務期間	← 4班3交替 →																																									
(1) 熱上げ試験	—————																																									
(2) カレット熔融試験															—————																											
(3) ドレンアウト試験															—————																											
(4) 放冷															—————																											
(5) 炉内観察 (周辺機器取り外し含む)															—————																											



写真-1 3号熔融炉設置状況

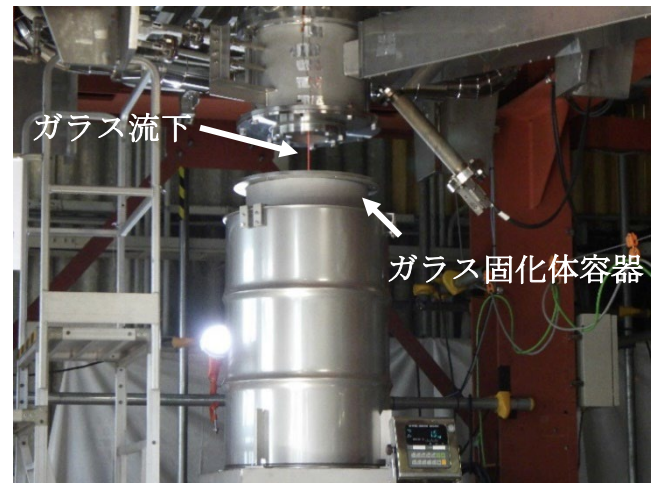
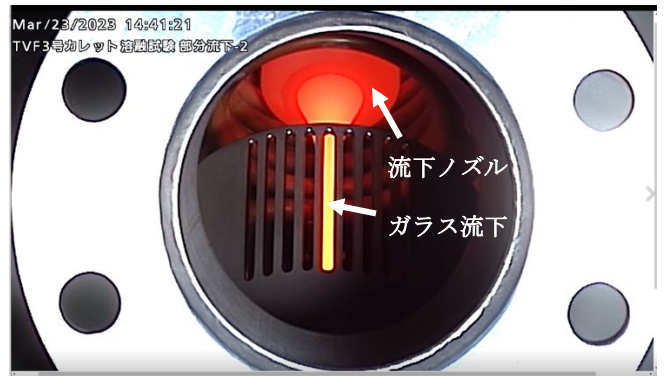
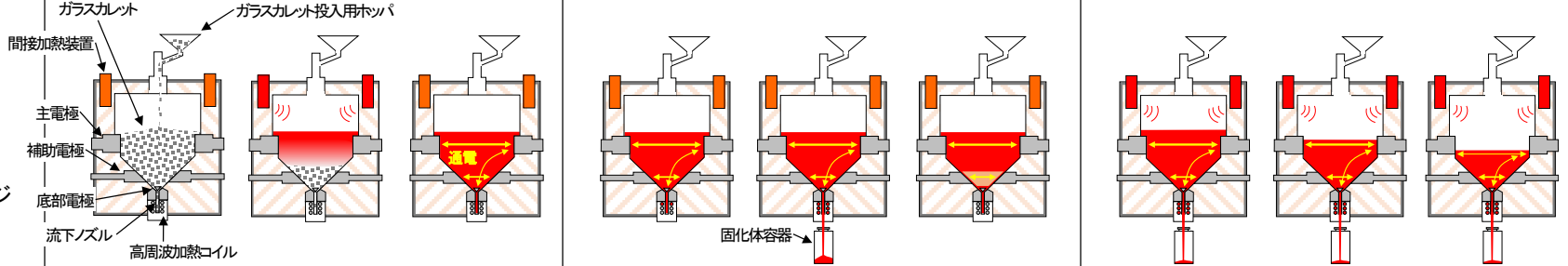


写真-2 カレット熔融試験の状況 (3/23)

表-2 試験内容

試験項目	(1) 熱上げ試験	(2) カレット熔融試験	(3) ドレンアウト試験
<p>試験イメージ</p> 	<p>炉内へガラスカレットを投入 → 間接加熱装置によりガラスを加熱・熔融 → 電極間通電確認</p>	<p>流下前の炉底加熱条件確認 → 流下条件確認 → 炉底低温運転条件確認</p> <p>(部分流下を複数回実施)</p>	<p>ドレンアウト1 (1本目流下開始時) → ドレンアウト2 (2本目流下開始時) → ドレンアウト3 (3本目流下開始時)</p>
<p>主な試験内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガラスカレット(固化体2本分)を炉内に投入した状態で間接加熱装置を起動し、徐々に炉内を昇温し通電可能な状態までガラスを熔融した後、各電力間通電の確認を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>炉内のガラス保有量が固化体3本分となるようにガラスカレットを追加投入した後、50 kg程度の部分流下を複数回実施し、炉底加熱条件、流下ノズル加熱条件、流下停止条件の確認、調整を行う。</li> <li>ガラスの加熱に必要な主電極間通電電力量を確認するとともに、炉底低温運転時の補助電極温度及び補助電極間電流を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>炉内ガラスを全量拔出す(ドレンアウト)ため、3バッチの流下を行う。</li> <li>流下に伴い電極が熔融ガラス面から露出するため、電極の電流密度制限を考慮しつつ各電極間通電電流を減少させ、最終的に通電を停止する。</li> </ul>



ガラスカレットの外観  
(粒径: 1~5 mm 程度)

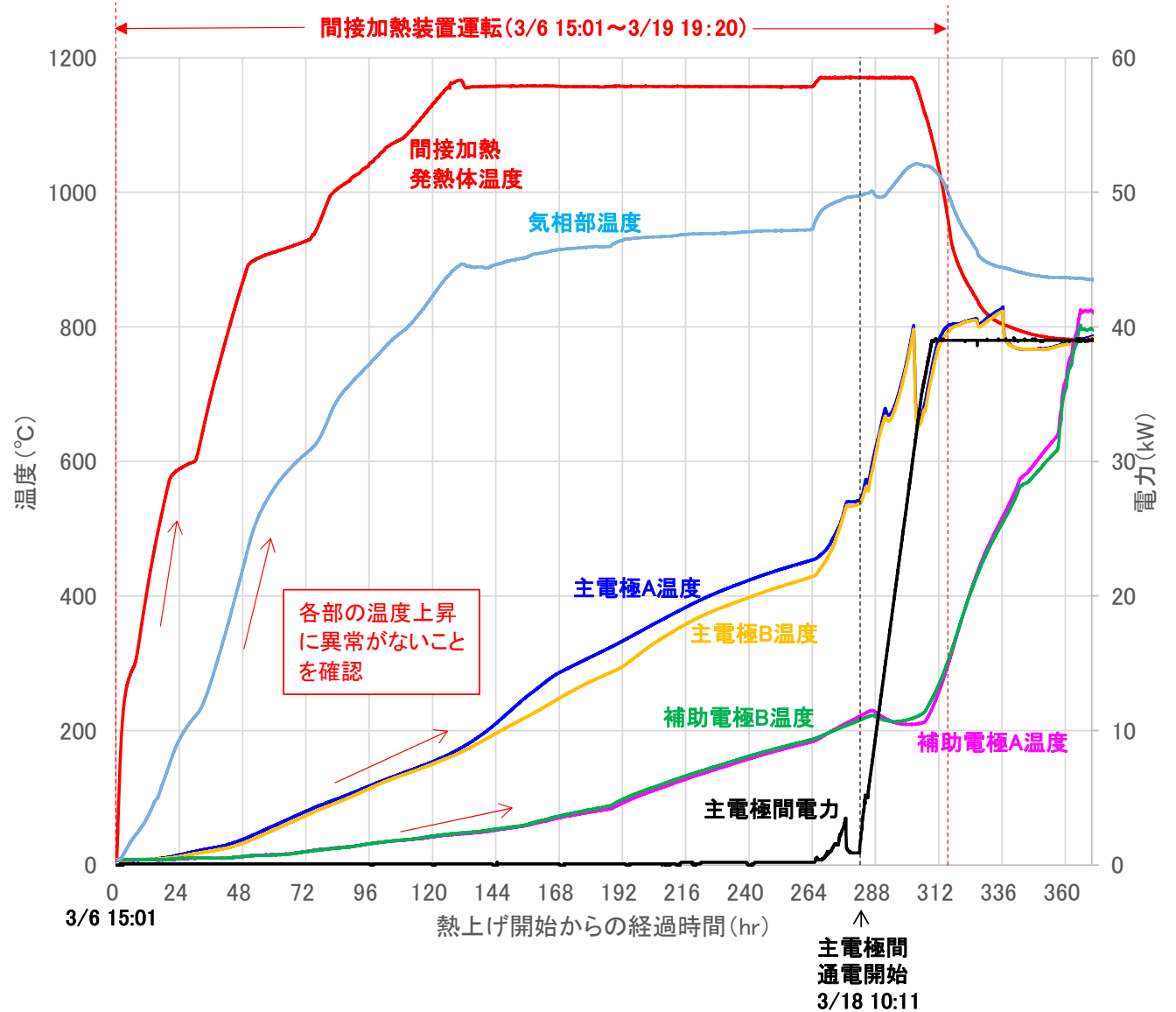
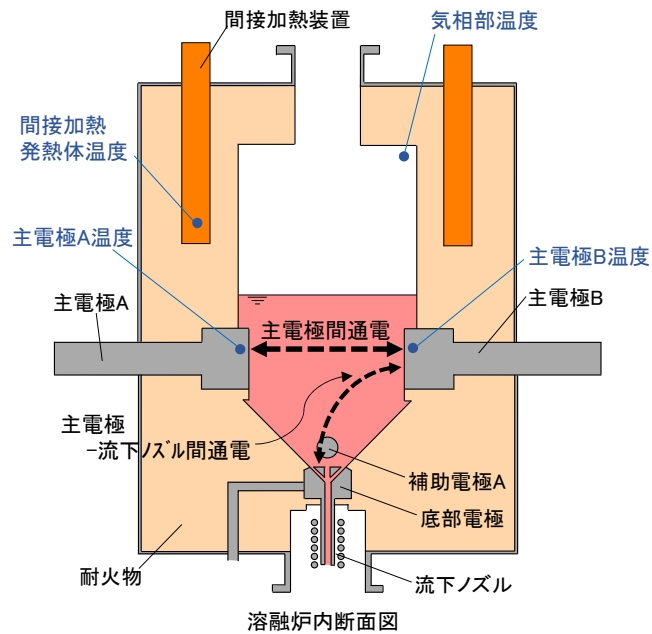
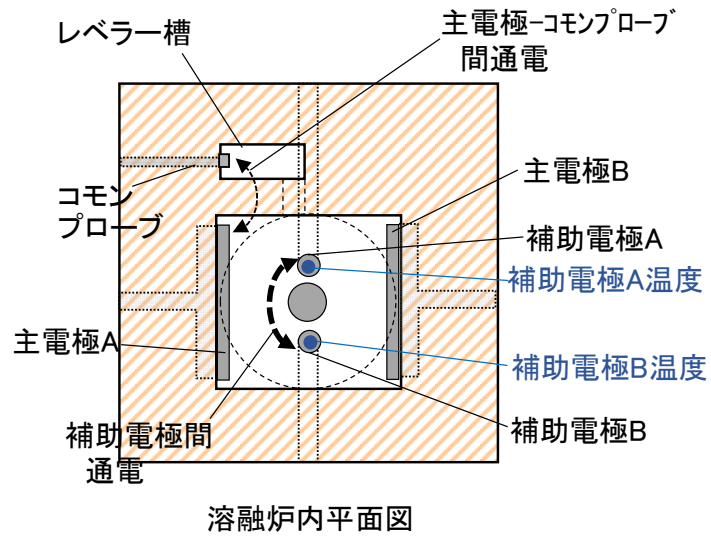
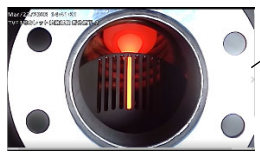
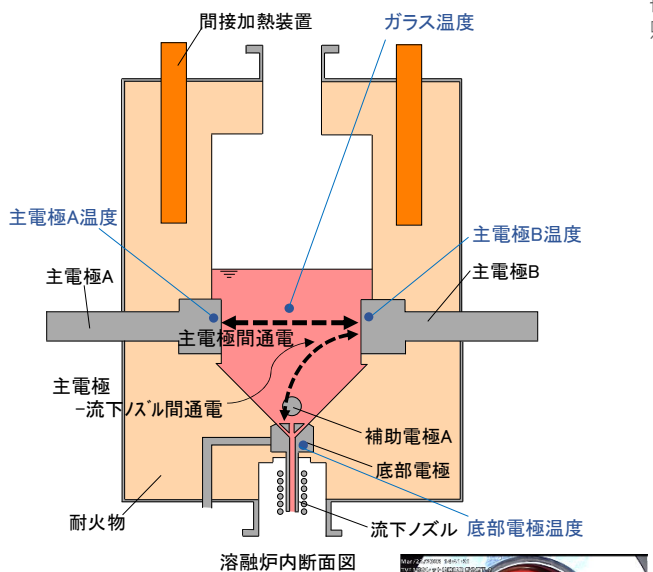
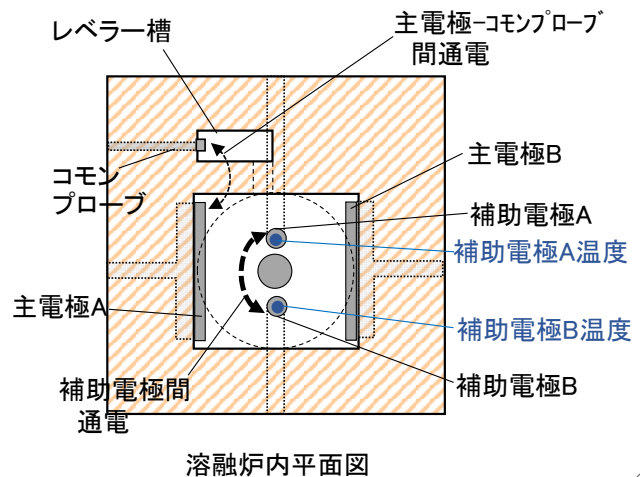
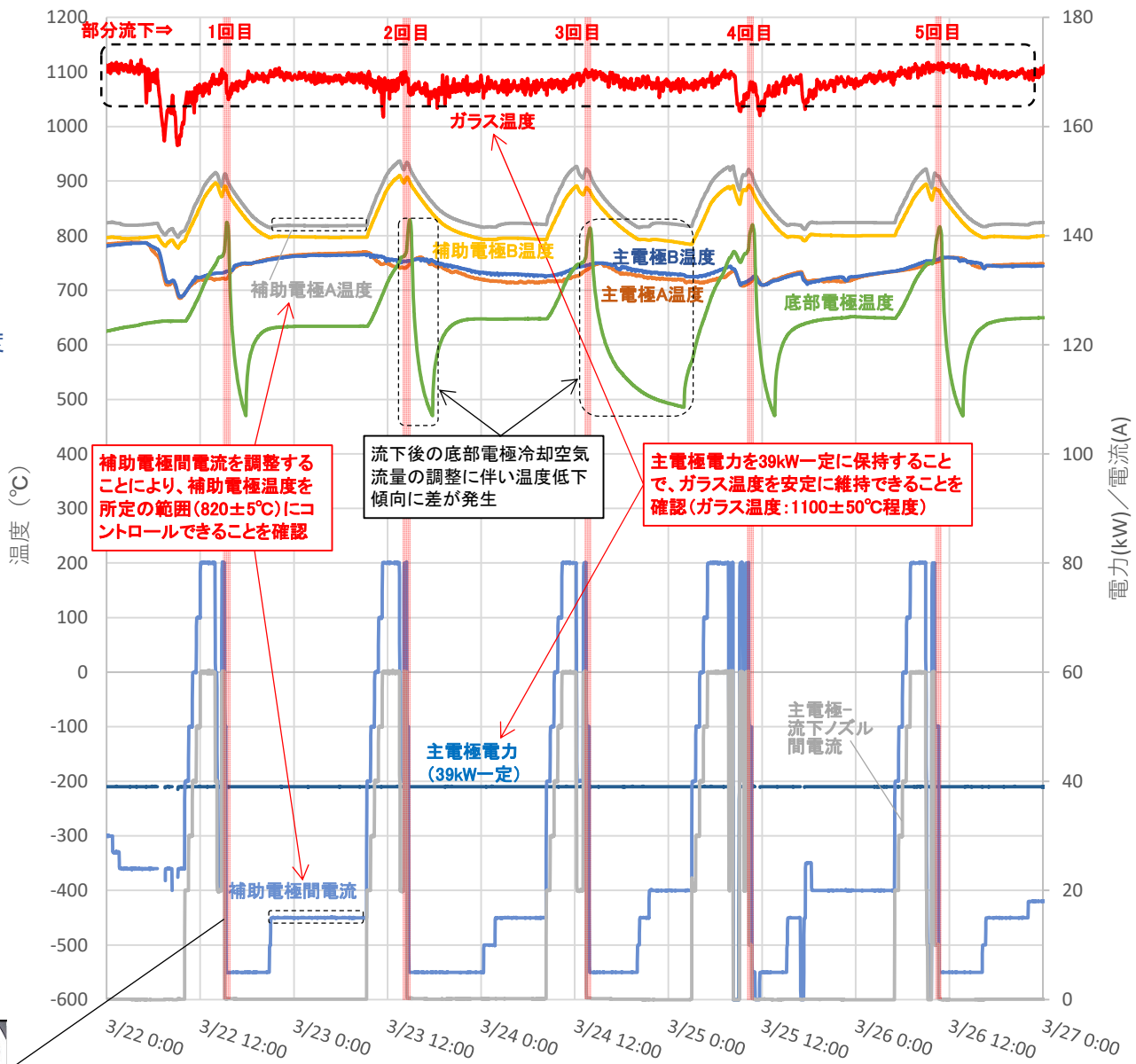


図-1 熱上げ試験における温度等の変化



部分流下中のガラスの流下状況



補助電極間電流を調整することにより、補助電極温度を所定の範囲(820±5°C)にコントロールできることを確認

流下後の底部電極冷却空気流量の調整に伴い温度低下傾向に差が発生

主電極電力を39kW一定に保持することで、ガラス温度を安定に維持できることを確認(ガラス温度:1100±50°C程度)

主電極電力(39kW一定)

図-2 カレット溶融試験における温度等の変化

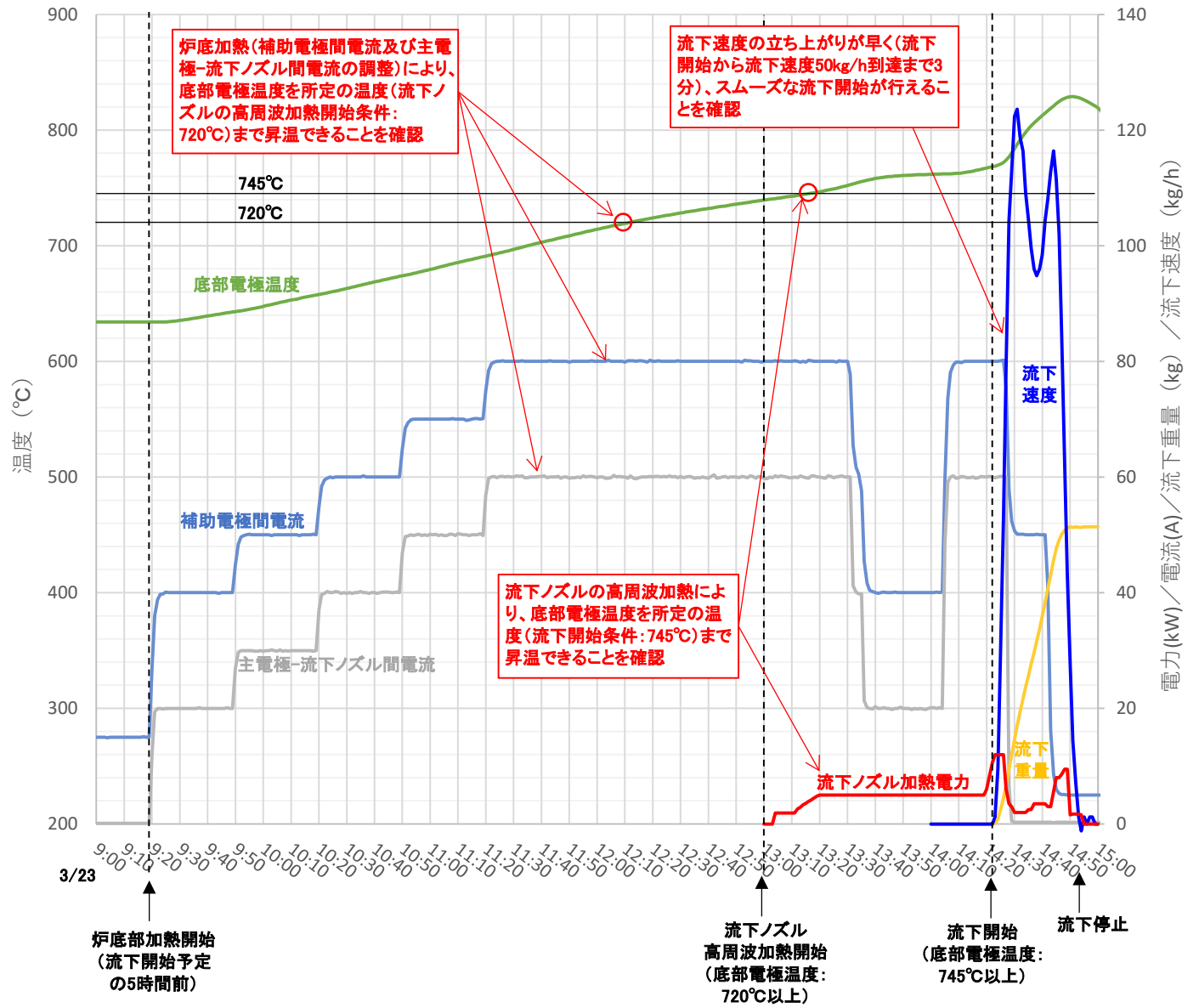
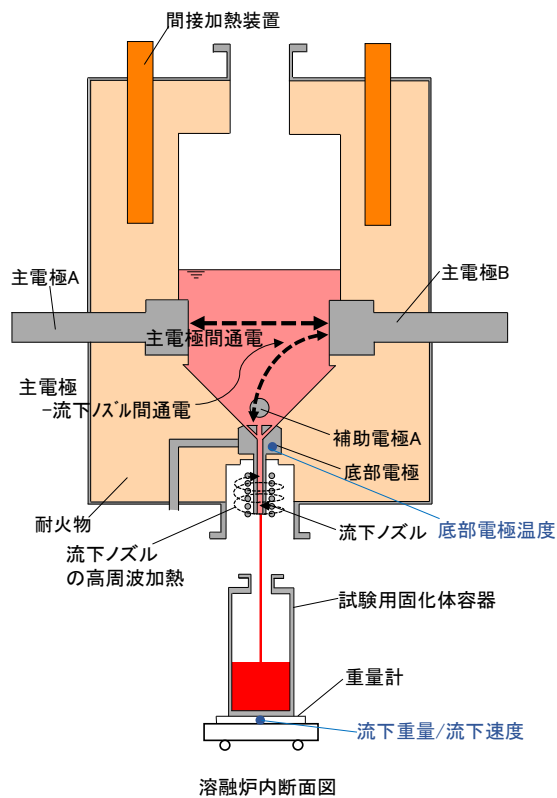
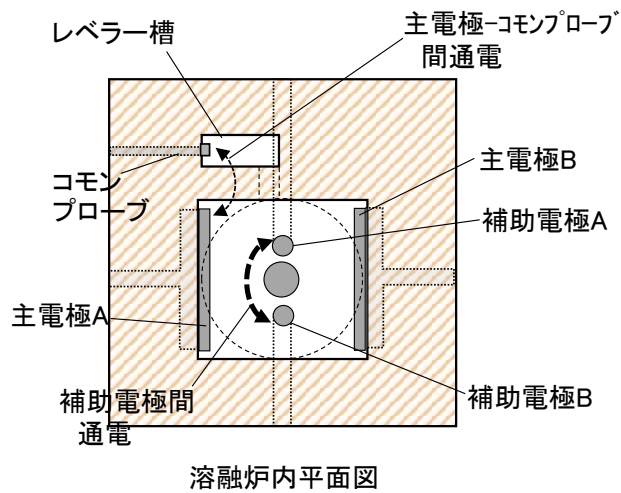
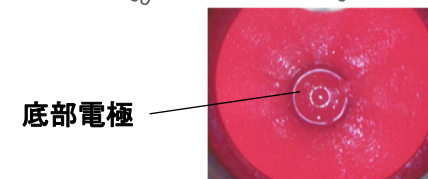
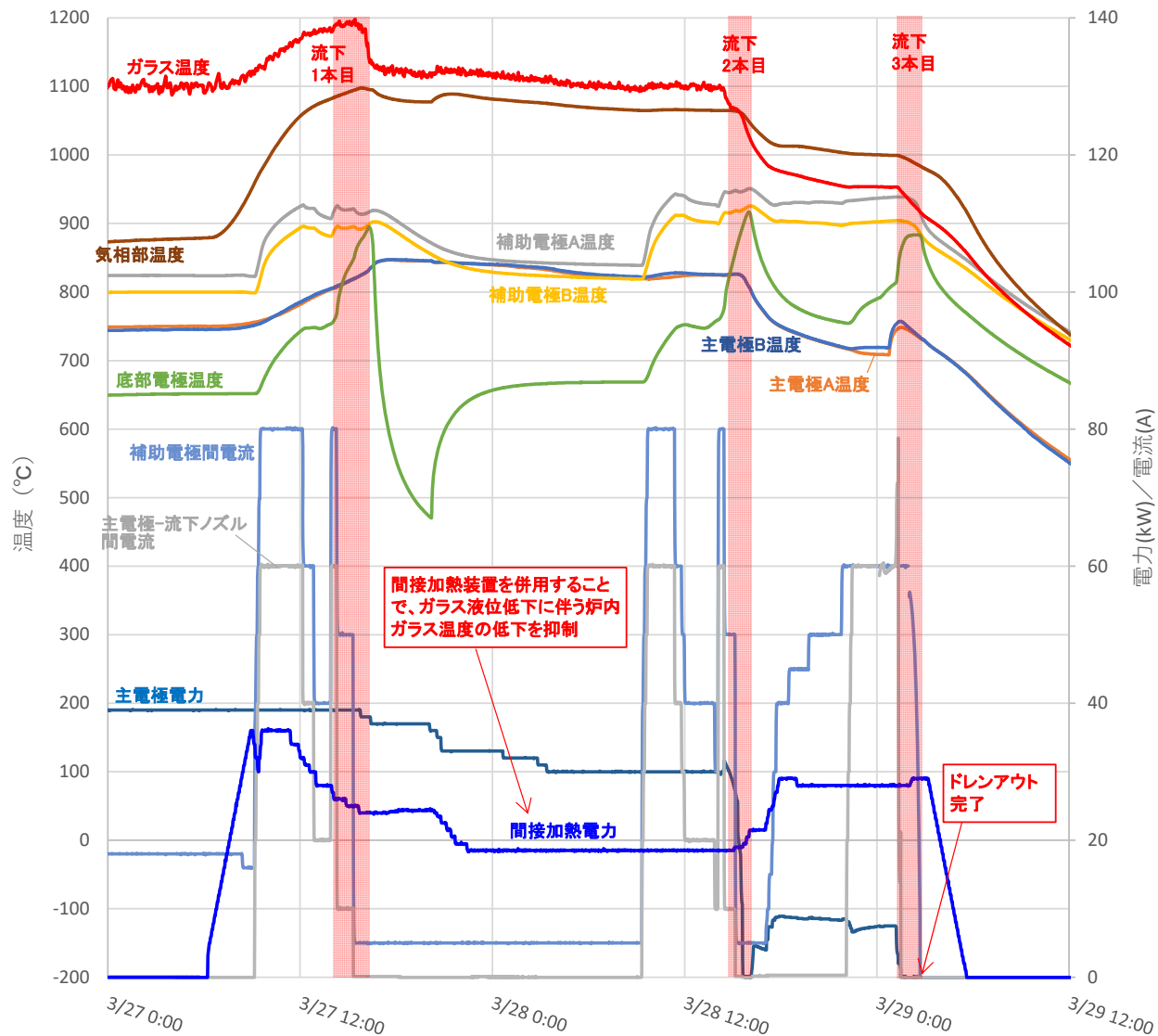
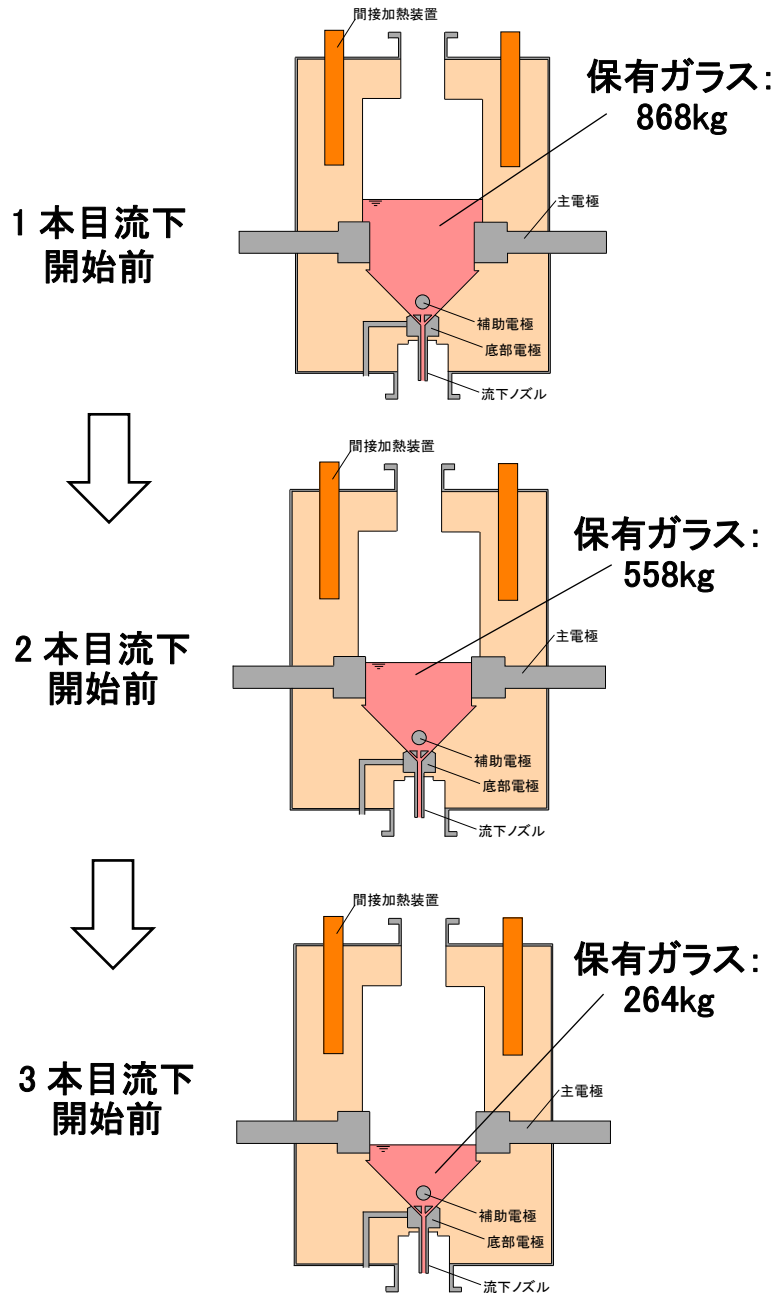


図-3 カレット溶融試験における部分流下(2回目)の実績





ドレンアウト完了時の炉内状況

図-4 ドレンアウト試験における温度等の変化

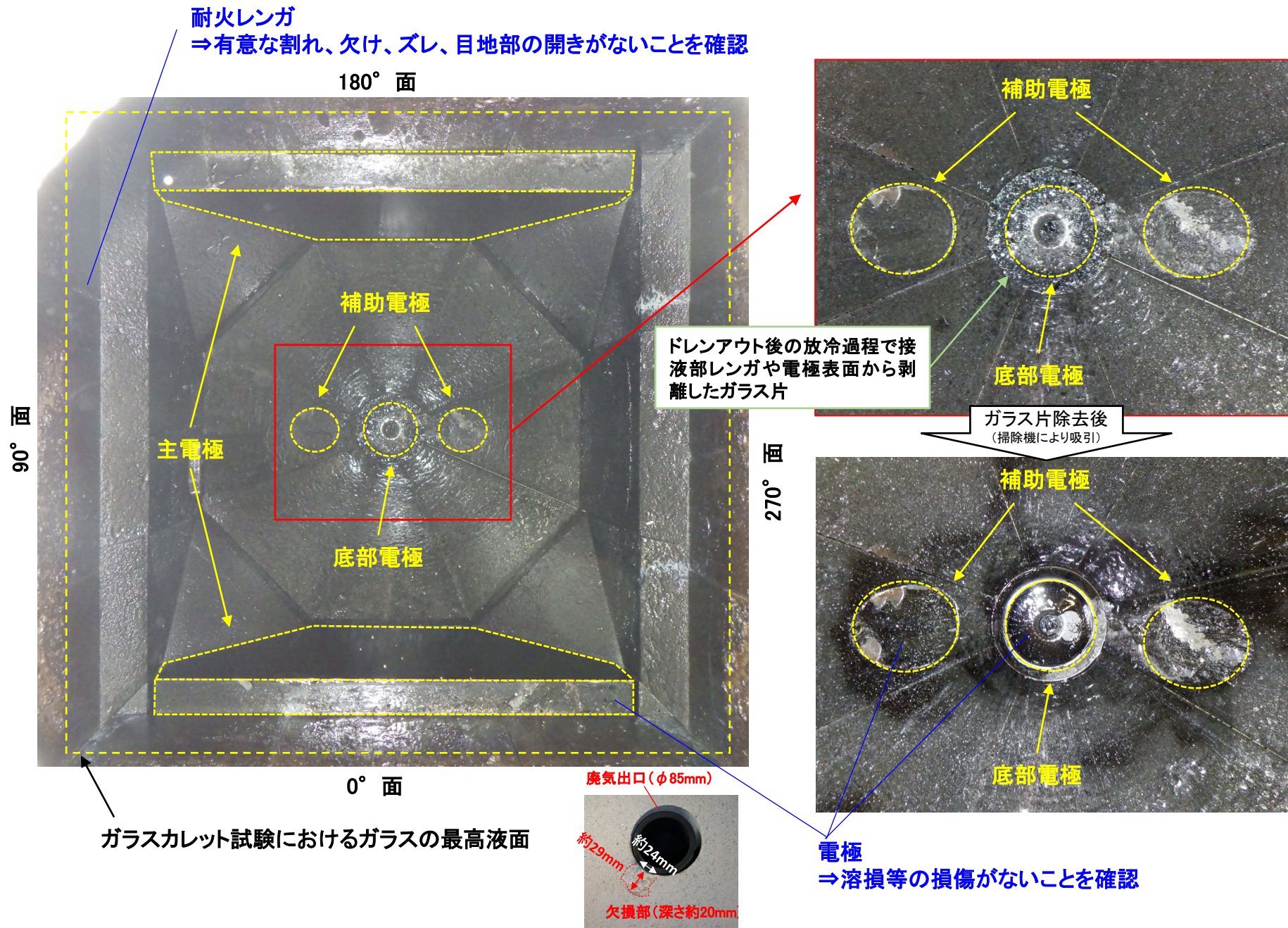
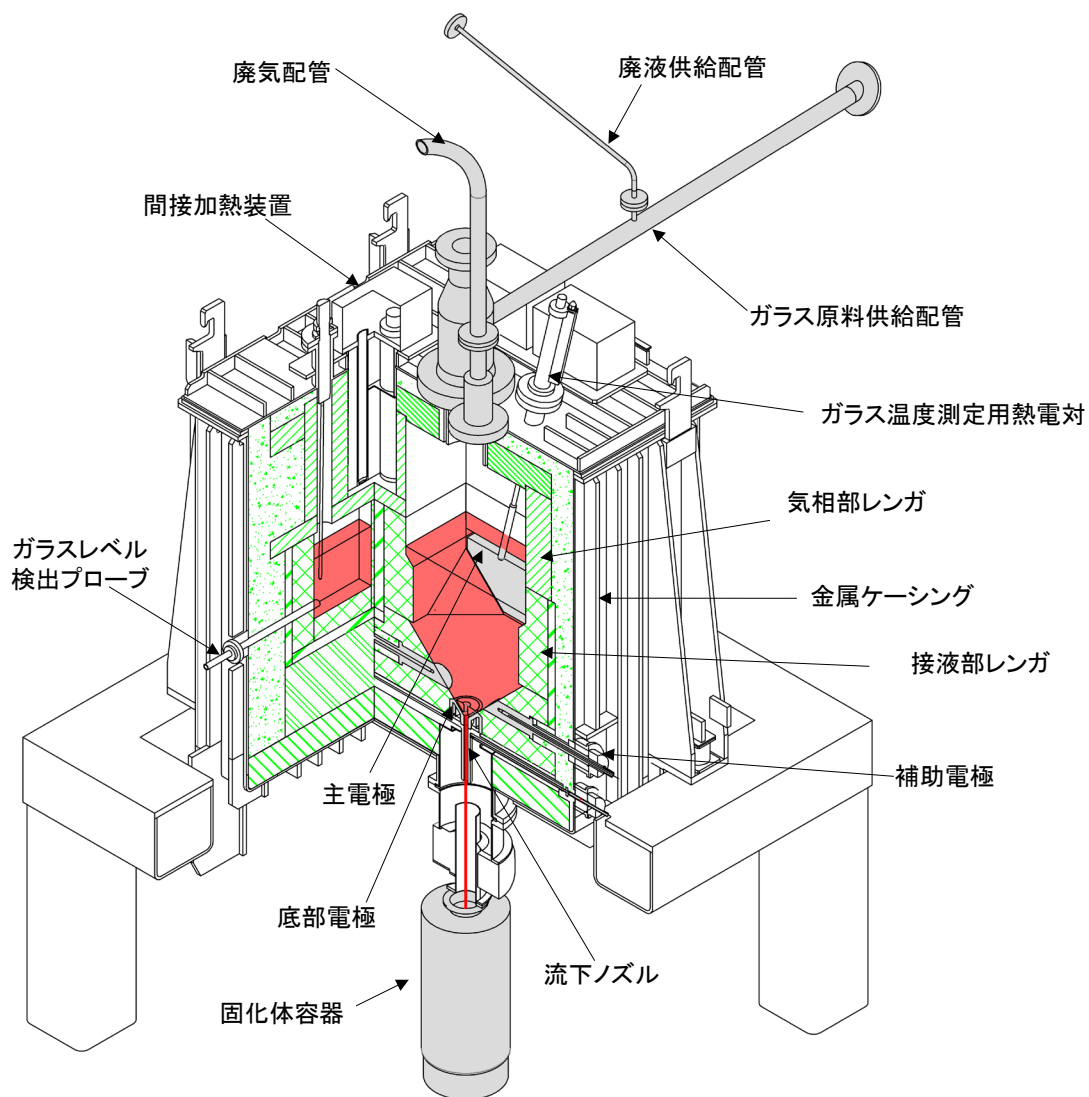


図-5 炉内観察結果



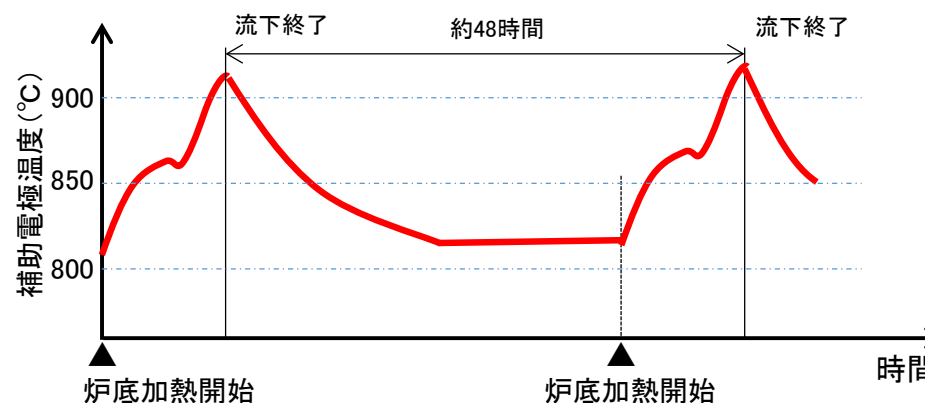
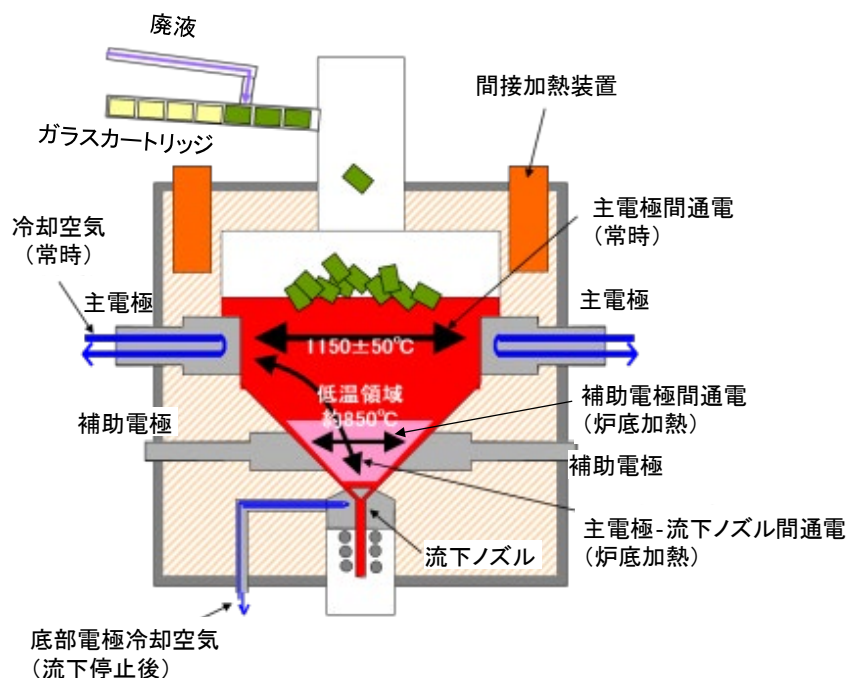
3号溶融炉の鳥瞰図

令和4年2月28日第64回東海再処理施設  
安全監視チーム会合資料一部改訂

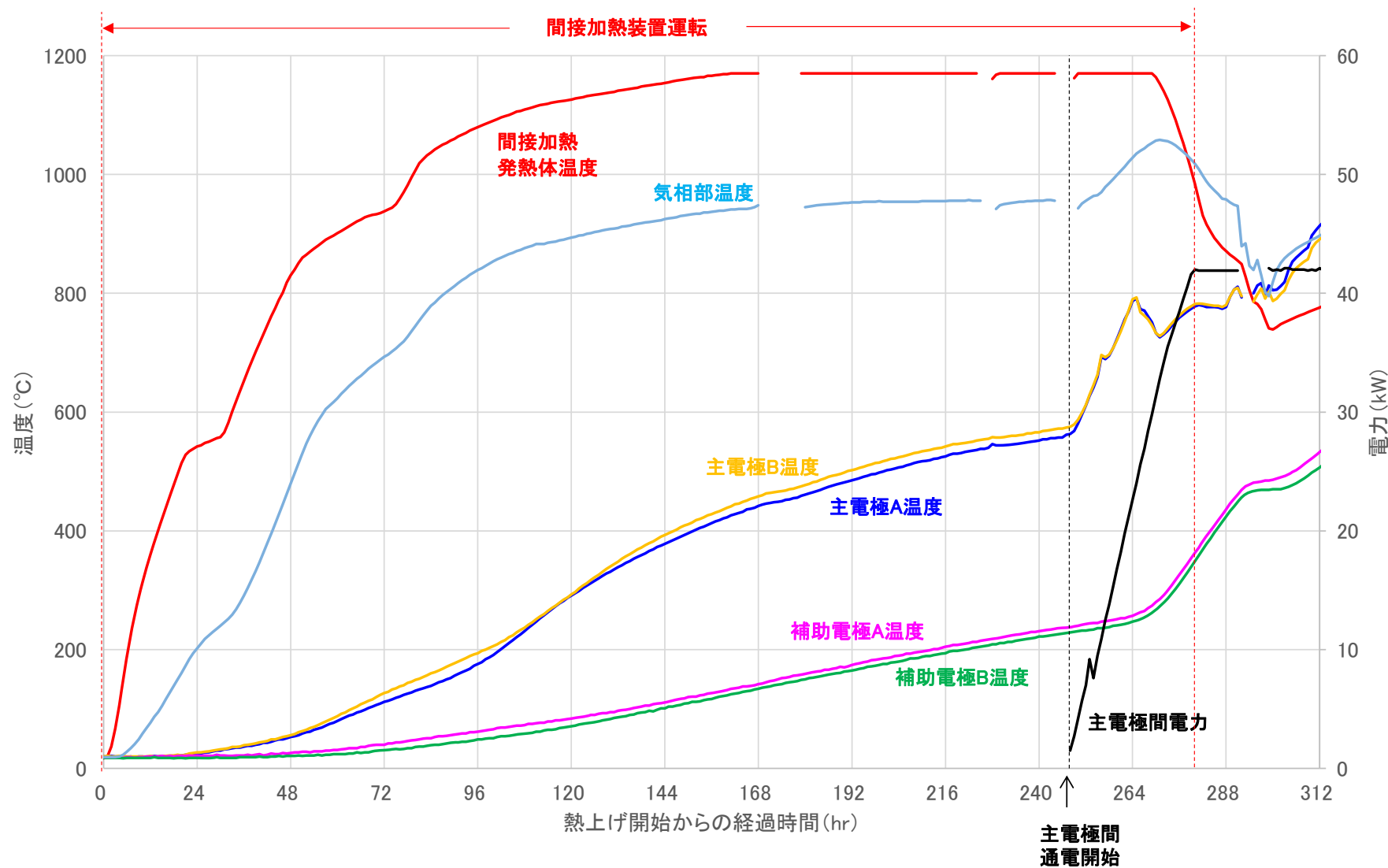
- 溶融炉底部のガラス温度を低温に維持することで、ガラスの粘性を増加させ、白金族元素粒子の沈降を抑制する(炉底低温運転)

## 運転管理及び操作

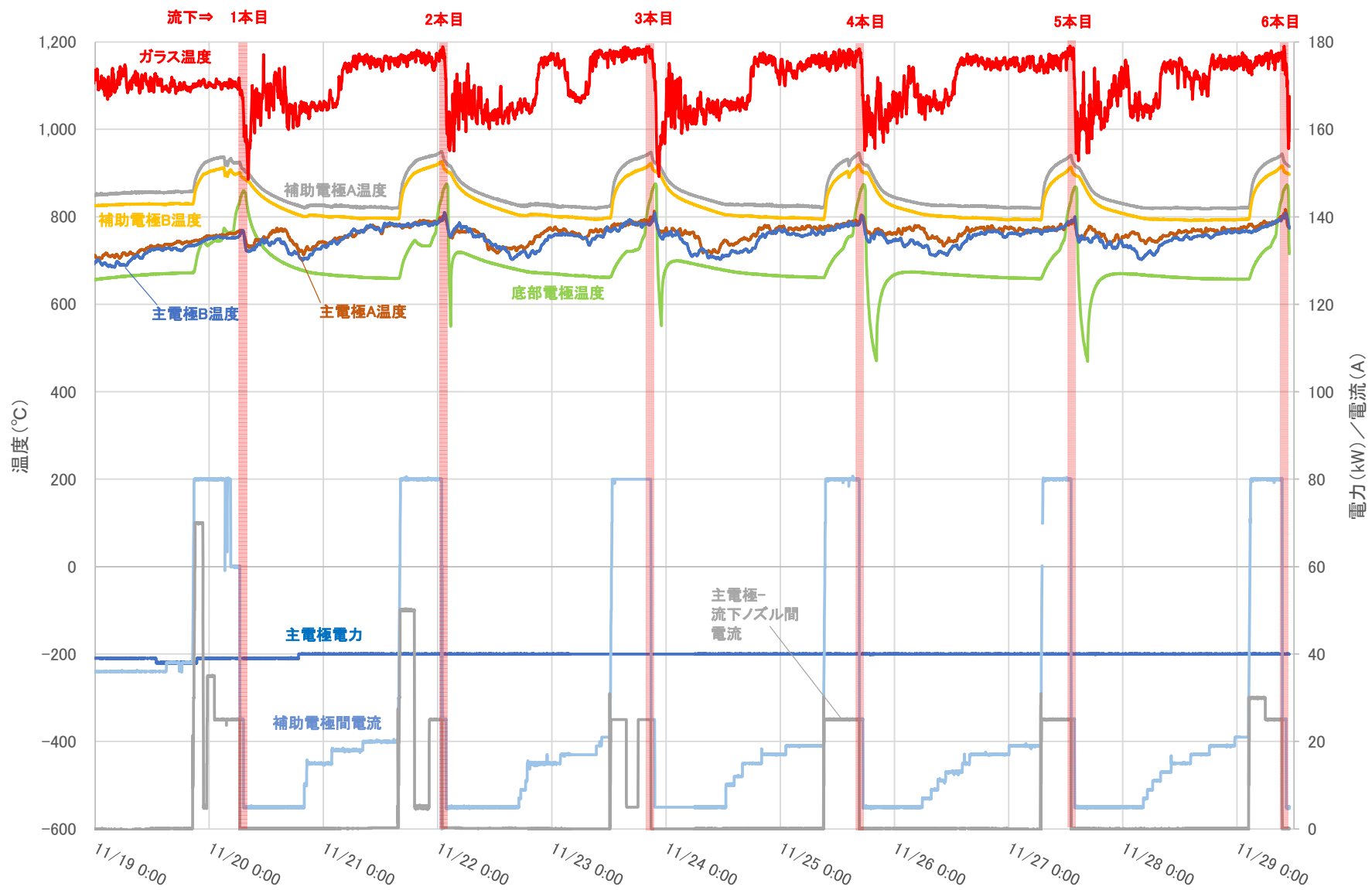
- 主電極通電によりガラス温度 $1150^{\circ}\text{C} \pm 50^{\circ}\text{C}$ に保ち、同時に補助電極間電流を調節することで、炉底部のガラス温度を約 $850^{\circ}\text{C}$ とするために、補助電極温度を約 $820^{\circ}\text{C}$ に管理する。
- 流下にあたり、炉底加熱により炉底部の温度を上げる必要がある。また、流下中は、高温のガラスが炉底部に流れ込み温度が高くなる。
- 流下終了後、速やかに炉底低温状態に移行させるために、主電極-流下ノズル間の通電を止めるとともに、底部電極に冷却空気を流して、炉底部の温度を下げる運転操作を行う。



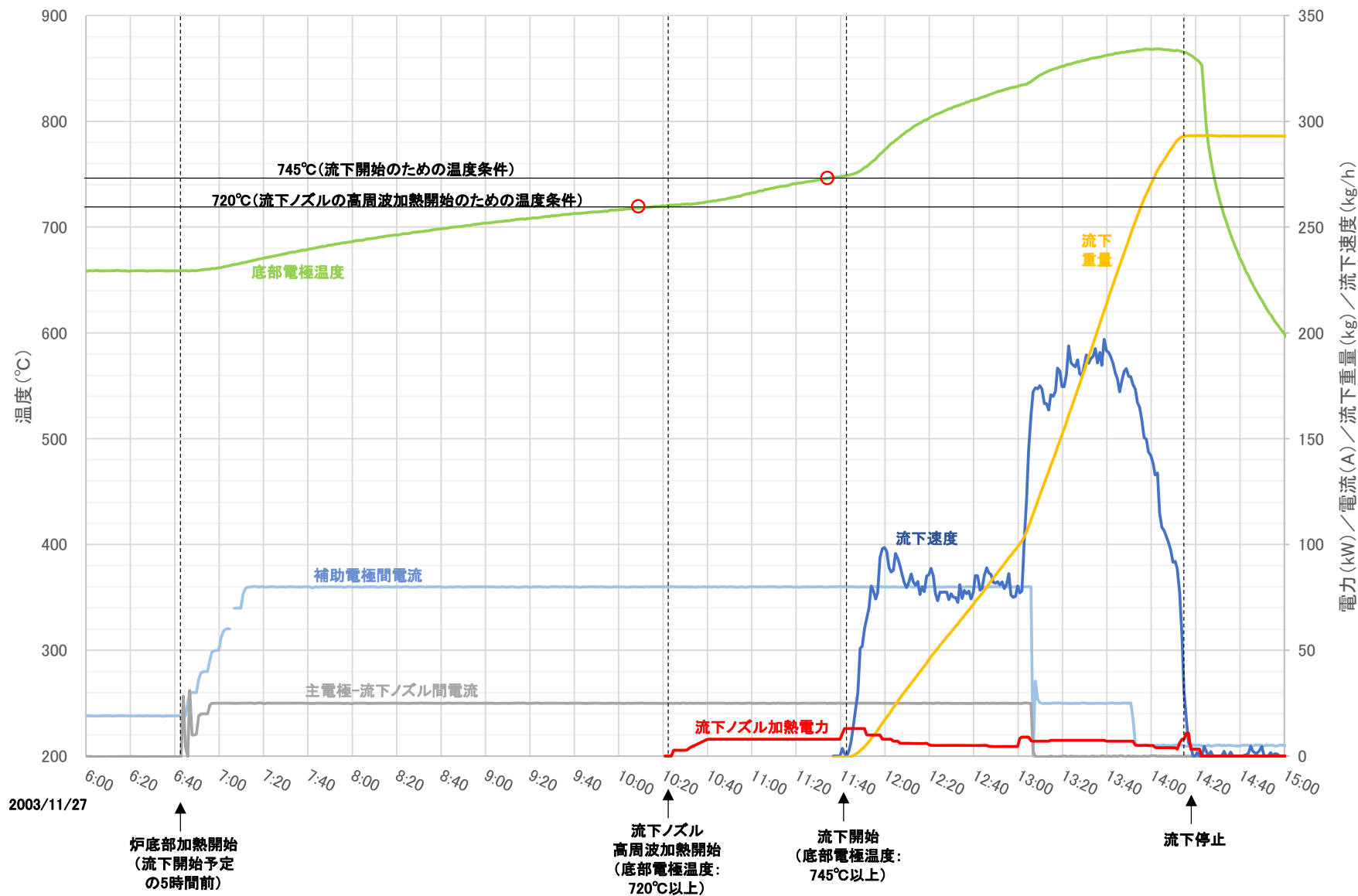
溶融炉運転時の溶融炉底部の温度変化(イメージ)



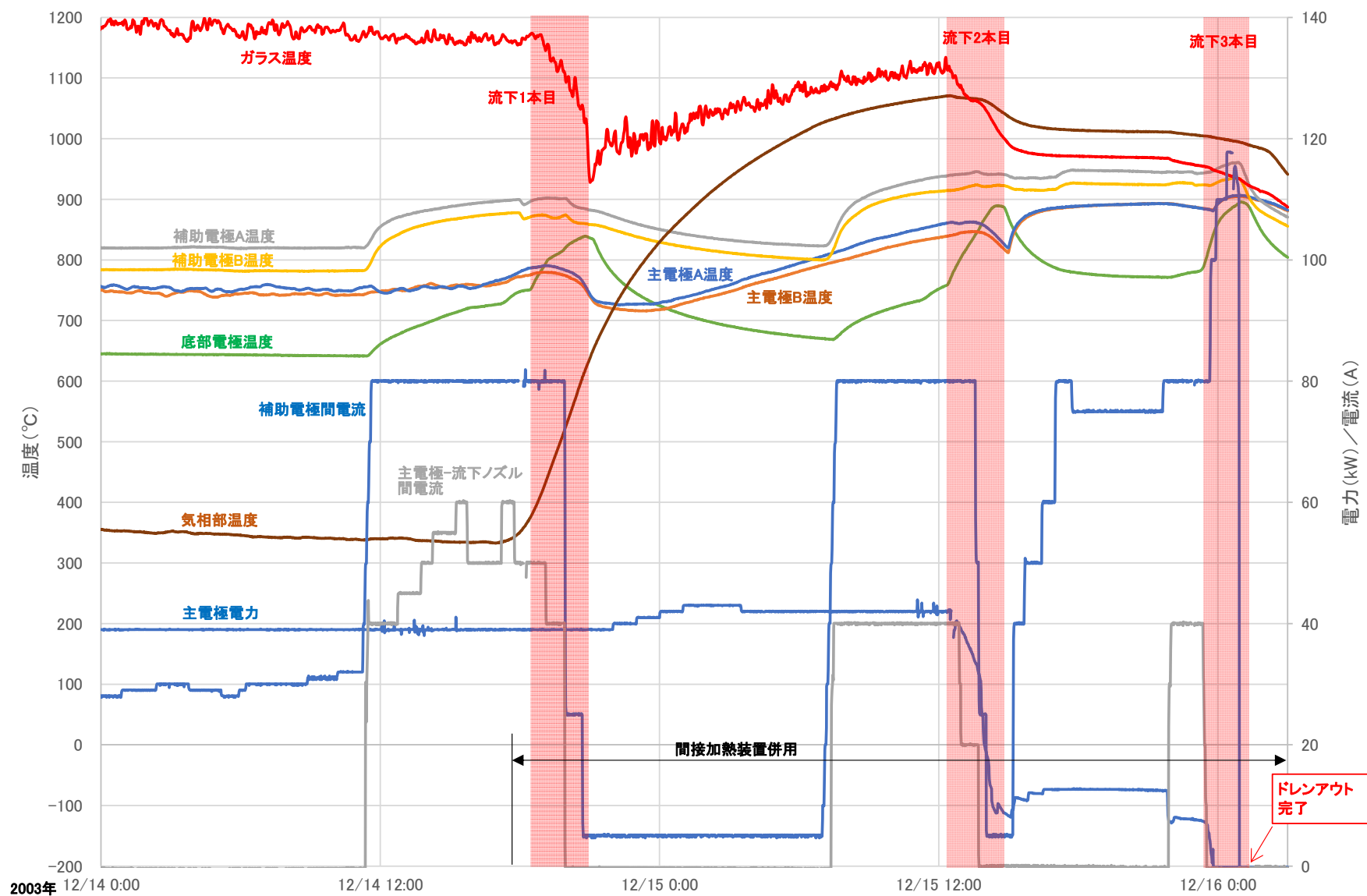
現行溶融炉(2号溶融炉)の築炉後の最初の熱上げ時(平成15年5月)における温度等の変化



模擬廃液を用いた現行溶融炉(2号溶融炉)の作動試験時(平成15年11~12月)における温度等の変化



模擬廃液を用いた現行溶融炉(2号溶融炉)の作動試験時(平成15年11~12月)における流下の実績



模擬廃液を用いた現行溶融炉(2号溶融炉)の作動試験時(平成15年11~12月)におけるドレンアウトの実績



低放射性廃棄物処理技術開発施設(LWTF)  
硝酸根分解設備に係る実証プラント規模試験に向けた取り組み状況について

【概要】

- 硝酸根分解設備に係る実証プラント規模試験については、令和4年度に試験装置の製作と設置工事を行い、令和5年度より試験を開始する計画で進めてきた。
- しかし、近年のエネルギー価格や物価の高騰の影響により、高放射性廃液によるリスク低減の観点から最優先で進めているガラス固化や新規規制基準を踏まえた安全対策へリソースを再配分する必要があったことから、実証プラント規模試験装置の製作に遅れが生じた。
- 令和4年度については、実証プラント規模試験の実施に向けて、試験装置の設置予定場所における装置配置の検討や必要なユーティリティの確保に向けた検討を進め、現在は、リソースを確保し、実証プラント規模試験装置の製作/設置の準備を進めており、令和6年度内の試験着手を目指す。

令和 5年 6月 ●日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

## 低放射性廃棄物処理技術開発施設(LWTF)

### 硝酸根分解設備に係る実証プラント規模試験に向けた取り組み状況について

令和5年6月●日

再処理廃止措置技術開発センター

#### 1. はじめに

低放射性廃棄物処理技術開発施設(LWTF)については、硝酸根分解設備の導入にむけて、同設備の実証プラント規模試験装置の製作/設置を進め、令和6年度より試験を開始することで、LWTFの液体系の運転開始時期に影響を与えないよう対応を進めていく。

実証プラント規模試験について、これまでの経緯と現在の取り組み状況、今後の対応等を報告する。

#### 2. これまでの経緯と現在の取り組み状況

硝酸根分解設備に係る実証プラント規模試験については、令和4年度に試験装置の製作と設置工事を行い、令和5年度より試験を開始する計画で進めてきた。しかし、近年のエネルギー価格や物価の高騰の影響により、高放射性廃液によるリスク低減の観点から最優先で進めているガラス固化や新規制基準を踏まえた安全対策へリソースを再配分する必要があったことから、実証プラント規模試験装置の製作に遅れが生じた。このため、令和4年度については、実証プラント規模試験の実施に向けて、試験装置の設置予定場所における装置配置の検討や必要なユーティリティの確保に向けた検討を進め、現在は、リソースを確保し、実証プラント規模試験装置の製作/設置の準備を進めている。

#### 3. 実証プラント規模試験装置の基本仕様及び試験内容

実証プラント規模試験は、実機大で硝酸根が分解できることの検証を目的とするため、硝酸根分解を行う分解槽の容量、形状、周囲の配管形状等は、実設備を模擬した構造としている。本装置を用いて実証プラント規模試験を行うことにより、実設備と同スケールで槽内の均一性、温度制御性等の試験データを取得でき、実設備の技術的成立性を実機大で確認することができる。

#### 4. 試験装置の製作/設置等に要する期間(表-1参照)

実証プラント規模試験装置の製作/設置については、装置製作メーカーとの調整を進め、約1.5年で製作及び設置工事が完了する見込みである〔内訳:装置製作(約13か月)、現地工事(約3か月)、試運転(約1か月)〕。また、硝酸根分解用の触媒製作についても、約1.5年で製作を完了する見込みである。製作開始後は、製作メーカーにおける材料手配から製作/設置までの工程に遅延が発生しないよう工程管理に努め、試験装置の製作/設置及び触媒製作を約1.5年で完了させた上で、令和6年度内の試験着手を目指す。

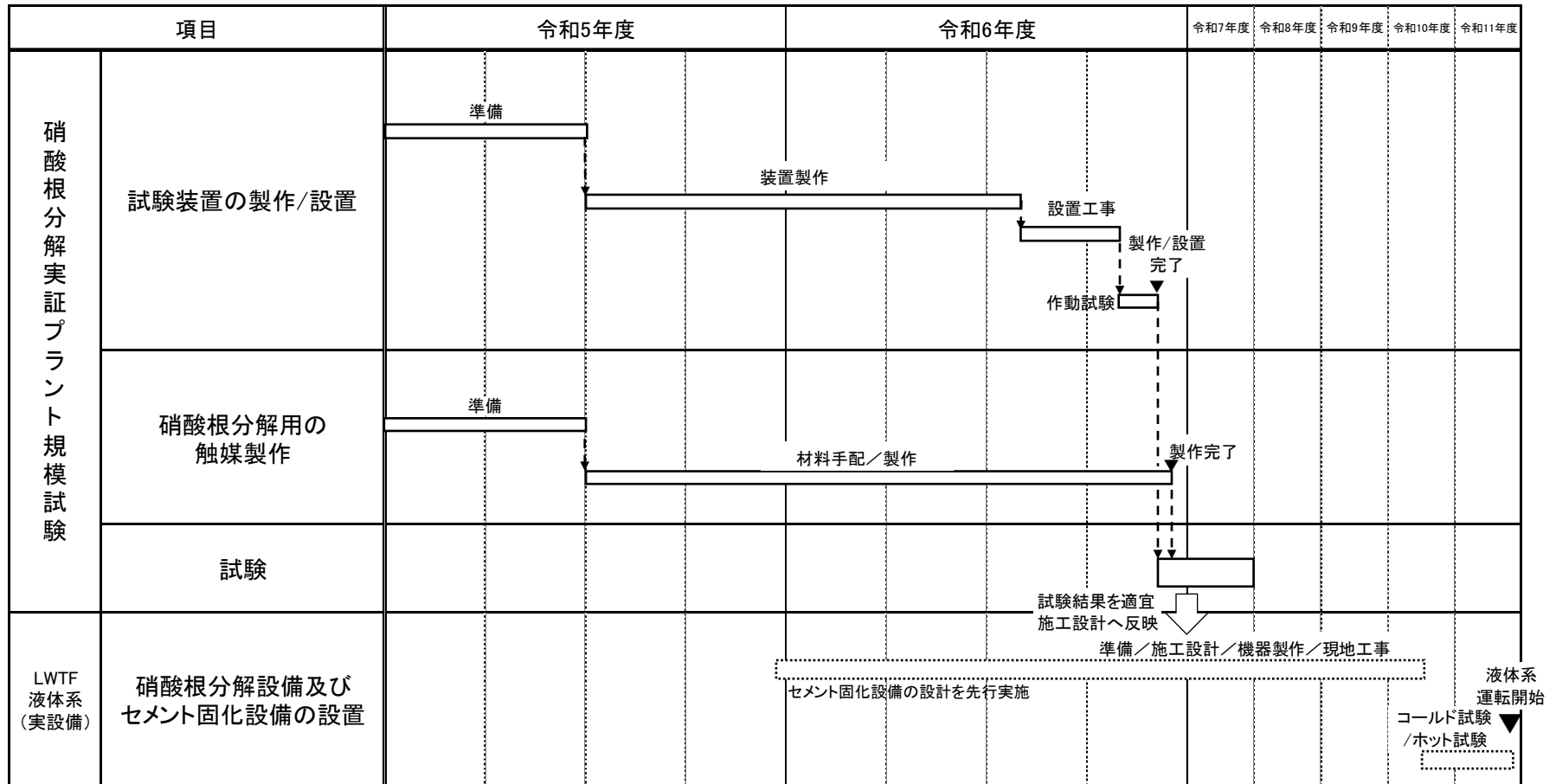
#### 5. 今後の対応(表-1参照)

今後は、実証プラント規模試験装置の製作/設置及び硝酸根分解用の触媒製作を進め、試験準備が整い次第、実証プラント規模試験を開始する。実証プラント規模試験では、3.に示した試験データについて順次確認することとしており、令和7年度中に必要なデータの取得を終了する計画である。なお、万一、想定外の試験結果が得られた場合には、実証プラント規模試験の結果とこれまでのビーカー規模及び工学規模試験の結果も踏まえて、処理条件や試験装置の内部構造(攪拌翼等)を見直した上で再度試験を行い、所定の結果を得た上で実設備へ順次反映する。

実証プラント規模試験で得られた結果については、硝酸根分解設備の設置に係る廃止措置計画変更申請時に技術的成立性を説明する根拠として整理するとともに、試験と並行して実施予定の硝酸根分解設備の施工設計にも反映する。実証プラント規模試験結果の反映先は、分解槽の内部構造等、硝酸根分解設備の一部と想定されることから、本施工設計は実証プラント規模試験結果の影響を受けないセメント固化設備と分解槽を除く硝酸根分解設備の設計を先行して進め、LWTFの液体系の運転開始時期(令和11年度)に影響を与えないよう進める。

以 上

表-1 硝酸根分解実証プラント規模試験を踏まえたLWTF液体系運転開始に向けた概略スケジュール



➤ 「硝酸根分解設備及びセメント固化設備の設置」に係る具体的なスケジュールについては、今後見通しが得られた段階で報告する。

高放射性廃液を扱わない「高放射性廃液貯蔵場(HAW)及び  
ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟以外の施設」  
(その他の施設)の火災防護対策に関する  
プラントウォークダウンの結果について

## 【概要】

- その他の施設における既設の消火設備等が性能維持施設として妥当であることを確認するために、対象となる 25 施設<sup>※1</sup>においてプラントウォークダウンを令和 5 年 1 月～3 月にかけて実施し、当該施設における火災防護対策の状態を確認した。
  - ※1 廃止措置への移行により施設の本来用途としての供用を終えた 4 施設、低放射性廃液・廃溶媒・放射性固体廃棄物の処理・貯蔵を行う 21 施設
- 第一の観点として、その他の施設において保管・貯蔵している放射性物質の閉じ込めが火災により影響を受けて有意な放出に至らないか、という点から現場状況の確認を行った。
  - その他の施設で防護対象となる放射性廃液、放射性固体廃棄物を保管している約 140 箇所の確認を行った。
  - 確認においては、防護対象を設置している場所の状況(可燃物等の有無、人の出入りの可否、電気機器等の有無)から火災の可能性を判断した。
  - 火災の可能性がある場合には設置されている火災感知の方法及び初期消火の方法を確認した上で、火災防護対策は妥当であると判断した。
  - 以上の結果より、火災によって有意な放射性物質の流出は生じないことを確認した。
- 第二の観点として、廃止措置は約 70 年という長期間にわたる事業であることから、作業員による各種作業が今後も継続して行われる管理区域内における可燃物(仕掛品<sup>※2</sup>)・危険物の管理状況・消火設備を確認した。
  - その他の施設の管理区域内で仕掛品及び危険物を保管している約 270 箇所について確認を行った。
  - 確認においては、仕掛品等の保管状態、保管場所の状況(可燃物等の有無、人の出入りの可否、電気機器等の有無)、火災感知器の有無及び初期消火の方法に基づき、火災防護対策は妥当であると判断した。
  - 以上の結果より、管理区域内に保管している仕掛品及び危険物に対する火災防護対策が有効であることを確認した。
  - ※2 廃棄施設に搬出するまで現場にて一時的に保管している、汚染の可能性のある放射性廃棄物で、現場の作業に使用したウエスや紙類などの可燃物を含んでいる。

令和5年6月〇日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

## 火災防護に係るウォークダウン結果の評価について

### 1. はじめに

廃止措置段階にある再処理施設においてはリスクが特定の施設に集中しており、特に高放射性廃液を貯蔵あるいはガラス固化処理を行う高放射性廃液貯蔵場(HAW)とガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟にリスクが集中している。そのため、両施設においては新規制基準を踏まえた安全対策を最優先で講じることとし、高放射性廃液の蒸発乾固を防止するための重要な安全機能(閉じ込め機能及び崩壊熱除去機能)を維持するための対策<sup>※1</sup>を進めているところである。

※1 これまでに、安全対策の検討に用いる廃止措置計画用設計地震動、廃止措置計画用設計津波、廃止措置計画用設計竜巻及び廃止措置計画用火山事象の申請を平成30年11月9日(令和元年9月26日一部補正、令和2年2月10日認可)に行い、その後高放射性廃液貯蔵場(HAW)及びガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟の外部事象対策(地震・津波・竜巻・外部火災・火山事象対策)、内部火災対策、内部溢水対策及び事故対処について、令和2年5月29日から令和3年12月1日まで順次申請し、認可を受けて対策工事を進めている。

高放射性廃液を扱わない「高放射性廃液貯蔵場(HAW)、ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟以外で放射性物質を貯蔵・保管する分離精製工場(MP)等の施設」(以下「その他の施設」という。)は、高放射性廃液貯蔵場(HAW)及びガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟に比べて取り扱う放射性物質の量は少量であり、崩壊熱量も微小であることから<sup>※2</sup>高放射性廃液に対して必要となる重要な安全機能に該当する安全機能は不要である。そのため、その他の施設においては既往の許認可における管理を継続すると共に、地震・津波等の外部事象に対しては施設の持つリスクに応じた対策として、これらの外部事象に対しても有意に放射性物質を建家外に流出・放出させないこと<sup>※3</sup>を基本した対策を講じている。(令和3年6月29日申請)

※2 高放射性廃液貯蔵場(HAW)で貯蔵している高放射性廃液の放射能濃度は約 $9.4 \times 10^{15}$  Bq/m<sup>3</sup>、崩壊熱による発熱密度は最大で約1 kW/m<sup>3</sup>以下である。(令和3年2月10日申請)

一方、その他の施設で扱う低放射性廃液の放射能濃度は $\sim 10^{10}$  Bq/m<sup>3</sup>のオーダー、廃溶媒の放射能濃度は $\sim 10^8$  Bq/m<sup>3</sup>のオーダーであって、高放射性廃液の十万分の1( $1/10^5$ )以下である。(令和3年6月29日申請)

※3 「有意に放射性物質を建家外に流出・放出させないこと」とは、その他の施設の貯槽や貯蔵容器等に貯蔵・保管している放射性物質(廃止措置計画変更認可申請書 別添 6-1-3-4「高放射性廃液貯蔵場(HAW)、ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟及びそれらに関連する施設以外の分離精製工場(MP)等の施設の外部事象に対する安全対策に関する説明書」の表 3-1「その他の施設における放射性物質の貯蔵・保管の状況(令和2年6月末時点)」に示したもの。(後述する表2))について、それらを保持している貯槽や貯蔵容器から漏えいさせない、または放射性物質を含む溶液であればそれらを保持している貯槽から漏えいしたとしてもセル・部屋等に保持して建家外へ流出しないようにする、固体状の放射性物質であれば容器が建家外へ放出しないようにする、ということである。

その他の施設の火災防護対策についてはプラントワークダウンを実施して施設の現状と既設の防消火設備の状況を確認し、火災防護審査基準等を参考にしつつその他の施設のリスクに応じた対策として妥当性を判断したうえで、必要な防消火設備を廃止措置段階における性能維持施設として位置づけ、必要な期間その機能を維持することを基本的な考え方として進める。

## 2. その他の施設の火災防護対策に係る性能維持施設の選定の経緯について

再処理施設の廃止措置計画における性能維持施設は、初回の廃止措置計画認可申請書（平成29年6月30日申請、平成30年2月28日・平成30年6月5日一部補正、平成30年6月13日認可）において、当時の再処理施設の状態に鑑みて、再処理運転時に施設定期自主検査の対象としていた設備及び緊急安全対策等として整備した設備を引き続き維持すべきものとして性能維持施設に位置づけた。その際、防消火設備については消防法等に基づいて検査が義務づけられた設備であり、元々より原子炉等規制法に基づく施設定期自主検査対象外としていた関係から、上記の選定の考え方に基づき性能維持施設には含めなかった<sup>※4</sup>。

一方、実用発電用原子炉の廃止措置計画においては、既設の防消火設備（消火器、消火栓、自動火災感知器等）についても性能維持施設として位置づけている<sup>※5</sup>。また、機構内の他の廃止施設（JRR-2、JRR-4、TCA、DCA 等の試験研究炉）においても性能維持施設として記載にばらつきのあった防消火設備を統一的に性能維持施設として位置づけることとした<sup>※6</sup> ことなどから、再処理施設の既設の防消火設備についても性能維持施設に位置づける方向で検討を進めている<sup>※7</sup>。

※4 再処理施設特有の火災の発生防止等の設備として原子炉等規制法に基づき設置した設備（例えば後述する温度記録上限緊急操作装置や温度警報装置）は再処理運転時の施設定期自主検査対象設備であり、従って現在の性能維持施設にも含まれている。

※5 「発電用原子炉施設及び試験研究用等原子炉施設の廃止措置計画の審査基準」（制定：平成 25 年 11 月 27 日、改正：令和 2 年 12 月 9 日）においては、「3. 申請書に添付する書類の記載事項に対する審査基準」のなかの「(7)性能維持施設及びその性能並びにその性能を維持すべき期間に関する説明書」において「放射線障害防止の観点から、火災の防護設備については適切に維持管理すること。また、可燃性物質が保管される場所にあつては、火災が生ずることのないよう適切な防護措置を講じること。」と具体的に火災の防護設備を性能維持施設とすることを求めている。

なお、上記の記載は当該審査基準が参考にした「原子炉施設の解体に係る安全確保の基本的考え方—JPDR の解体に当たって—」（昭和 60 年 12 月 19 日原子力安全委員会決定、平成 13 年 8 月 6 日「原子炉施設の解体に係る安全確保の基本的考え方」として一部改訂）において示されている通りである。

※6 令和 3(2021)年 4 月 20 日、第 23 回核燃料施設等の廃止措置計画に係る審査会合、「資料 2 JAEA（JRR-2 等の）廃止措置計画変更認可申請の補正について」

※7 高放射性廃液貯蔵場（HAW）とガラス固化技術開発施設（TVF）ガラス固化技術開発棟で、新規規制基準を踏まえた安全対策として追加した火災防護対策設備と既設の防消火設備を、当該設備の設計及び工事の計画に関する認可に合わせて性能維持施設として申請した。（令和 4 年 6 月 30 日申請、令和 4 年 12 月 22 日認可）

### 3. その他の施設の状況とその他の施設の火災防護対策に係る対象施設の考え方

#### 3.1 施設の状況

表 1 及び図 1 に再処理施設における主要な施設を示す。再処理施設の中で高放射性廃液を扱う高放射性廃液貯蔵場(HAW)とガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟がリスクの集中する施設であることから、前述したように新規規制基準を踏まえた安全対策を講じるとともに、高放射性廃液の安定化に向けたガラス固化処理を最優先で進めている。

高放射性廃液貯蔵場(HAW)とガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟以外の施設では、リスクの高い高放射性廃液は扱わないものの放射性物質を扱う 25 施設(廃止措置への移行により施設の本来用途としての供用を終えた 4 施設、低放射性廃液・廃溶媒・放射性固体廃棄物の処理・貯蔵を行う 21 施設)と、放射性物質を扱わず管理区域を持たない 6 施設が存在する。

放射性物質を扱う 25 施設の中の分離精製工場(MP)、ウラン脱硝施設(DN)、プルトニウム転換技術開発施設(PCDF)は再処理施設の主要施設で再処理運転中においてはリスクの高い使用済燃料の溶解液や分離した Pu 溶液、高放射性廃液を扱っていたが、廃止措置に移行し再処理運転を行わないこととしたため、既にそれらのリスクの高い放射性物質は施設内にほとんど残されておらず、現在進めている工程洗浄が完了すれば工程内に残されていた少量の回収可能核燃料物質もすべて払い出された状態になる。また火災防護の観点からの大きな状況の変化として、分離精製工場(MP)で再処理運転時に使用していた有機溶媒(使用済燃料の溶解液中から U と Pu を抽出分離するために使用するリン酸トリブチルと n-ドデカン)の混合溶媒)は廃止措置への移行により使用しなくなったことから、試薬としての未使用の溶媒及び使用済の廃溶媒は分離精製工場(MP)から取り出し済みである。なお、分離精製工場(MP)には新型転換炉「ふげん」の使用済燃料集合体が水中保管されているが、これらの燃料は既に十分な期間冷却されて崩壊熱による発熱量も少なくリスクは低減している。クリプトン回収技術開発施設(Kr)については令和 4 年度に貯蔵していた気体状の放射性クリプトンの管理放出を完了し、放射性クリプトンガスの保管に伴うリスクは無くなっている。よって、これらの 4 施設については工程洗浄が完了する令和 5 年度以降には先行して本格的な廃止措置(除染及び解体)に進むことになる。

一方、放射性物質を扱う 25 施設のうち、上記の先行 4 施設を除く 21 施設については、再処理運転に伴い回収したウランや発生した放射性固体廃棄物及び放射性液体廃棄物の貯蔵を継続するとともに、放射性液体廃棄物の処理を今後長期にわたって継続する。ただし、これらの施設で扱う廃液は高放射性廃液に比較して十分低い放射能濃度の廃液であり、特別な安全設備がなくとも蒸発乾固や水素爆発といった重大な事故のおそれはない<sup>※8</sup>。したがって貯蔵・保管している放射性物質に対する閉じ込め機能が安全の確保のために重要である。表 2 にその他の施設で貯蔵・保管している放射性物質の状況を示す<sup>※9</sup>。

※8 前述(※2)した通り、その他の施設で貯蔵・保管している低放射性廃液の放射能濃度は高放射性廃液貯蔵場(HAW)で貯蔵している高放射性廃液の十万分の 1(1/10<sup>5</sup>)以下の濃度である。崩壊熱や放射線分



解水素についても相対的に同程度になると考えれば、崩壊熱は約  $1 \text{ kW/m}^3$  の十万分の一以下で自然空冷により徐熱できる程度である。また、放射線分解水素については高放射性廃液貯蔵場(HAW)で貯蔵している高放射性廃液においても換気(水素掃気)が停止した際に爆発限界に至るまで約 2 年を要すると評価している(廃止措置計画変更認可申請書「添別紙 1-1-40 事故として選定した蒸発乾固以外の事象への対応」)よりため、その十万分の 1 程度と推定すると爆発限界に至る可能性は十分低い。

※9 分離精製工場(MP)には工程洗浄完了時においても高放射性廃液になる前の未濃縮の廃液や高放射性廃液を移送し終わった後の貯槽に構造上残ってしまう少量の液を希釈した希釈廃液が存在している。これらは高放射性廃液に比較すればリスクは小さいものの、さらなるリスク低減の観点から十分な安全対策を講じた高放射性廃液貯蔵場(HAW)へ移送する計画としている。

以上に示したその他の施設の状況より、火災防護対策に係る設備としては、地震・津波等の外部事象に対する場合と同じく、その他の施設の持つリスクに応じた対策として、火災により有意に放射性物質を建家外に流出・放出させないための対策として必要な防消火設備が第一に重要である(第一の観点)。

第二に、再処理施設の廃止措置は約 70 年という長期間にわたって継続する事業であり、保管・貯蔵されている種々の放射性廃棄物の処理安定化を進めつつ、運転を終えた施設についても除染・解体に取り組んでいくため、施設全体での活動が今後も活発に続けられるという観点から、従事者の作業環境における防消火設備や保安体制の維持も必要である<sup>※10</sup>(第二の観点)。

以上より、本プラントウォークダウンでは、第一の観点を主目的として実施しつつ、第二の観点を加えて幅広く現場の状況を確認することとした。

※10 設備の解体作業等における火災防護対策については、設備の解体方法の具体化に合わせて、別途必要な設備・対策を講じる。

### 3.2 その他の施設の火災防護対策に係るプラントウォークダウンの対象施設

対象施設については 3.1 に記載した再処理施設の状況を踏まえて以下の通りとした。

- ・ 再処理運転を終了したことに伴い、分離精製工場(MP)、ウラン脱硝施設(DN)、プルトニウム転換技術開発施設(PCDF)では再処理運転時と比較して大幅にリスクが低減された。クリプトン回収技術開発施設(Kr)についても令和 4 年度に貯蔵していたクリプトンガスの管理放出を完了しクリプトンガスの保管に伴うリスクが低減された。以上に加えて、現在実施中の工程洗浄において工程内の回収可能核燃料物質の取り出しが進められていることから更なるリスクの低減が見込まれるものの、現時点においては使用済燃料の保管や、一部の工程において廃液・廃棄物を保管していることに鑑み、分離精製工場(MP)、ウラン脱硝施設(DN)、プルトニウム転換技術開発施設(PCDF)、クリプトン回収技術開発施設(Kr)はプラントウォークダウンの対象とした。
- ・ 三酸化ウランの貯蔵施設(UO<sub>3</sub>、2UO<sub>3</sub>、3UO<sub>3</sub>)、固体廃棄物の貯蔵施設(HASWS、2HASWS、AS1、AS2、1LASWS、2LASWS)、低放射性的の廃液・廃溶媒の貯蔵施設(LW、LW2、WS、LWSF)については今後も貯蔵を継続することから、プラントウォークダウンの対象とした。

- ・低放射性廃液、廃溶媒及び可燃性固体廃棄物の処理及び貯蔵を行う施設(AAF、E、Z、C、ST、IF、ASP<sup>※10</sup>)については、今後本格化する系統除染や解体等の廃止措置作業において生じる低放射性廃液等の処理も含めて運転の継続が必要な施設であり、また施設内で低放射性廃液等を保管していることからプラントウォークダウンの対象とした。

また分析所についても、工程洗浄完了後も再処理施設の保全や計量管理、系統除染等で必要な分析等を継続することからプラントウォークダウンの対象とした。

※11 アスファルト固化処理施設(ASP)について、平成9年3月の火災爆発事故以降はアスファルト固化処理を停止したが、低放射性廃液の貯蔵を行う設備(貯槽)は使用している。

- ・一般施設として各施設に電源や各種ユーティリティを供給する施設については、火災によってそれらの供給機能(電源、冷却水の補給水)が喪失したとしても、高放射性廃液貯蔵場(HAW)、ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟で取り扱う高放射性廃液が沸騰するまでには十分な時間余裕があり、安全対策として導入した可搬型の事故対処設備により事故の発生を防止できる<sup>※11</sup>。

また高放射性廃液貯蔵場(HAW)、ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟以外で放射性物質を貯蔵・保管する施設においても、有意な放射性物質の流出防止のために速やかな作動が求められる動的機能(動力源として上記の一般施設に依存するもの)はない。したがって、これらの一般施設は今回のプラントウォークダウンの対象外とした。なお、これらの一般施設では消防法等に基づく火災防護対策が講じられ、維持されている。

※12 廃止措置計画変更認可申請書(令和3年2月10日申請)添四別紙1-1「事故対処の有効性評価」

- ・以上より、その他の施設のうち放射性物質を扱う25施設をプラントウォークダウンの対象施設とした。

### 3.3 その他の施設の火災防護対策に係るプラントウォークダウンの観点

3.1において示した通り、対象施設において貯蔵・保管している放射性物質(表2に示すもの)について、火災により有意に放射性物質を建家外に流出・放出させないことを第一の観点とした。そのためには、貯蔵・保管している放射性物質の静的な閉じ込めを担う貯槽及び容器が火災により影響を受けない(静的な閉じ込めの機能を喪失しない)ことが重要である。ただし、放射性物質自体が可燃性物質である場合、貯槽及び容器が健全であっても内部の放射性物質自体が火災に至らないようにすることが重要である。一方で、動的な閉じ込め機能を担う槽類換気系設備やセル・建家換気系設備の動的機能(排風機、送風機等の機器及びそれらの動作に必要な盤類及びケーブル類)が火災により機能を喪失したとしても、そのことだけでは貯槽及び容器内の放射性物質が建家外へ流出・放出される要因とはならない。よって、第一の観点に基づく防護対象を貯蔵・保管している放射性物質の静的な閉じ込めを担う貯槽及び容器とした。

3. 1において示した第二の観点に対しては、今後も長期間にわたって施設内での各種活動を継続する上で管理区域内の作業環境における火災防護の状態を確認するという点から、対象施設内の管理区域において保管されている仕掛品(廃棄施設に搬出するまで現場にて一時的に保管している、汚染の可能性のある放射性廃棄物で、現場の作業に使用したウエスや紙類などの可燃物を含んでいる。)、少量未満危険物(保守作業等で使用する潤滑油や塗料などであるが消防法上の届出の対象となる少量危険物に満たない危険物)及び指定可燃物の管理状況を確認する。

#### 4. 再処理施設の特徴に基づくプラントウォークダウンの結果

プラントウォークダウンにおいては、前述した第一及び第二の観点に対してそれぞれ以下の状態に着目して調査を実施した。

① 第一の観点に対して:

放射性物質を貯蔵・保管している設備の周辺の状況(設置状況・周囲の状況)やその火災防護設備(近傍の火災感知器・消火設備、制御室の受信盤)

② 第二の観点に対して:

仕掛品、少量未満危険物及び指定可燃物の管理状況(設置状況・周囲の状況)並びにその火災防護対策(近傍の火災感知器・消火設備、制御室の受信盤)

プラントウォークダウンの対象とした25施設、約400箇所の調査結果については、防護対象等の設置状況より以下のとおり3つの分類・類型化を図り、火災防護対策の妥当性を確認した。

プラントウォークダウンの結果は、約400箇所の調査場所毎に1件1様の状況調査シートで記録するとともに火災防護の観点から要点を一覧表(表3~5)に整理した。一覧表では、左側に対象の場所に関する情報を記載し、その右側に下記の類型ごとの特徴に応じて火災発生防止の観点から確認した状況について記載した。備考欄には廃止措置の進捗に依存して火災防護の観点から考慮すべき事項や各項目につけた注釈の内容を記載した。

##### (1)-1 第一の観点に基づくセル内の防護対象のプラントウォークダウンの結果

セルの基本的な特徴を図2に示す。基本的にセルはコンクリートや金属の不燃性材料で造られており、高線量区域であって、内部に入域する開口部もなく、セル内への人の立入はできない(金属製扉等の開口部のある一部のセルについては開口部が施錠管理されている。)。また、セル内には照明等の電気機器もないため発火源もなく、防護対象(金属製の機器)は接地され、可燃物を取り扱わないため火災発生の可能性はなく、火災感知設備及び消火設備を設置していない。

一方で、処理プロセス上、可燃物を扱う必要のある特殊なセルの特徴を図3に示す。例えば、分離精製工場(MP)において再処理運転時に可燃物である溶媒(TBP(リン酸トリブチル)やドデカン)を取り扱うセルにおいては、セル内部に設置された金属製の機器は接地して火災の発生防止対策を講じている。それらセルにはセル内の廃気を換気するダクト(セル

換気系ダクト)に設置した熱電対により廃気温度を測定して火災を感知する温度警報装置(FDT)が設置され、セル内の火災の感知が可能である。再処理運転時に指定数量を超える溶媒を取り扱っていたセルには水噴霧消火設備が設置されており、必要に応じて手動にて起動してセル内に消火用水を供給して消火が行える。指定数量未満の溶媒を取り扱うセルは、セルの給気側のダクトに設置する金属製のダンパを手動により閉止して火災の影響を軽減する。なお、廃止措置段階に移行後は分離精製工場(MP)では溶媒を保持又は取扱いをしないこととした。したがって現状ではセル内に可燃物がないため火災の発生はなく、火災による放射性物質の放出は起こらない。

分離精製工場(MP)以外で溶媒を扱うスラッジ貯蔵場(LW)、廃溶媒貯蔵場(WS)、廃棄物処理場(AAF)及び廃溶媒処理技術開発施設(ST)においても同様の火災防護対策が講じられており、溶媒を貯蔵する防護対象(金属製の機器)は接地して火災の発生防止対策を講じ、それら機器内の廃気を換気する配管(槽類換気系配管)に設置した熱電対により、廃気温度を常時測定して火災を感知する温度記録上限緊急操作装置(TRP+)が設置され、火災発生を感知した場合には自動で炭酸ガス消火設備により炭酸ガスを機器内に供給して消火を行えるような設備が設けられている。炭酸ガス消火設備は手動操作にて炭酸ガスの追加供給も可能である。それらの機器を設置するセルに対しても、セル内の火災の感知が可能なように温度警報装置(FDT)を設置しており、セル内に設置された水噴霧消火設備により、必要に応じて手動にて起動して、セル内に消火用水を供給して消火を行うことができる(図4)。なお、溶媒がセル内に漏えいした場合においても、セル内に設置された漏えい検知装置(LW+)により直ちに検知でき、蒸気を用いた送液装置(スチームジェット)により速やかに回収し、他の溶媒を取り扱う機器へ送液して回収できる。(これらの火災感知設備と消火設備の具体的な動作については補足資料1に示す。)

セル内で扱う有機溶媒以外の可燃物としては、廃棄したポリエチレンやアスファルト固化体、プラスチック固化体といった固体の可燃性物質がある。高放射性固体廃棄物貯蔵庫(HASWS)の可燃物である防護対象(分析廃ジャグ等(分析試料の採取に用いたポリエチレン製の容器等))を取り扱うセル(予備貯蔵庫及び汚染機器貯蔵庫)に対しては温度検知装置を設置し、セル内の火災の感知が可能である。予備貯蔵庫にはセル内散水装置を設置し、汚染機器貯蔵庫には専用の消火器具を施設内に配備しており、火災を感知した際には手動にてそれらのセル内に消火用水を供給して消火を行うことが可能である。なお、高放射性固体廃棄物貯蔵庫(HASWS)及び第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設(2HASWS)には再処理の際に2~3 cm程度の長さのせん断した使用済燃料被覆管(固体廃棄物)も貯蔵しているが、被覆管の材料であるジルカロイは微粉状では空気との反応性が高く火災源となるおそれがあることから、これらのせん断した被覆管(ハル)は水を封入した金属容器内に密封したうえで、水中にて保管している。

アスファルト固化体貯蔵施設(AS1)及び第二アスファルト固化体貯蔵施設(AS2)の防護対象(アスファルト固化体、プラスチック固化体及び雑固体廃棄物)は金属製容器内に密封した状態で保管している。それらを取り扱うセルに対しては、分布型感知器を設置し、更に

セル換気系ダクトに温度警報装置(FDT)を設置し(アスファルト固化体貯蔵施設は煙感知器(FDS)を合わせて設置している。)、セル内の火災の感知を可能にするるとともに、セル内には水噴霧消火設備が設置され、自動でセル内に消火用水を供給して消火を行う。水噴霧消火設備は手動操作にて消火用水の供給も可能である。

また、これらの可燃物を扱う機器及びセルに設置された火災感知の設備(温度記録上限緊急操作装置(TRP+)、温度警報装置(FDT)、分布型感知器)からの信号は、夜間休日を含めて常時運転員が駐在する制御室にて監視することができ、警報発報時には常駐している運転員が速やかに初期消火の対応を行う体制としている。

セル内の防護対象のプラントウォークダウンの結果について整理表(表 3)にまとめた。整理表では、火災防護上の特徴となる以下の項目について整理した。表では防護対象とその設置されているセル等の場所を示し、その右側の列に火災の可能性を判断する観点から以下の4項目についてまとめて示した。

「人の立入り」

可燃物を持ち込む可能性のある人の立ち入りの可能性の有無

「セル内装・設置機器」

セル内に設置された機器(防護対象の放射性物質を閉じ込めている貯槽や容器を含む)・配管やセルの内装に可燃性材料が用いられているか否か

「可燃物の取扱」

セル内で取り扱う物質(保管・貯蔵している放射性物質)として可燃物を取扱うか否か

「電気機器等の発火源」

セル内に発火源となりうる電気機器(ケーブルを含む)等の有無

これらのうち火災源となる項目が一つでもある場合、次の「火災感知の方法」及び「初期消火の方法」として対策を講じられているかを確認して内容を示した。

以上の結果から、セル内の防護対象に対する火災防護対策は妥当であると考える。

(1)-2 第一の観点に基づくセル外の防護対象のプラントウォークダウンの結果

セル外で人の立ち入りが可能な部屋はコンクリート、金属等の不燃性材料等により構成されている。また、基本的に防護対象の機器は金属製であり不燃性材料で造られている。一部の防護対象においてはFRP製の難燃性材料で造られた容器や可燃性のアクリル製パネルを用いたグローブボックスがある。これら防護対象を設置する部屋には、照明等の電気機器が設置されているため発火源が存在する。火災発生時には、当該部屋又は隣接する部屋の火災感知器により火災を感知し、人が寄付き、当該部屋又は隣接する部屋の消火設備(消火器、屋内消火栓)を用いて消火活動を行う(図5)。

分析所(CB)の加熱機器を設置しているグローブボックスは、消火用の水をグローブボックス内に手動により供給できるようになっている。また、焼却施設(IF)においては可燃性の低放射性固体廃棄物を取り扱う部屋、金属製の容器に入れた焼却灰を保管する部屋、金

属製の回収ドデカン貯槽及び廃活性炭供給槽を設置する部屋に対して水噴霧消火設備が設置され、必要に応じて手動にて起動して、消火用水を供給して消火が行う。更に回収ドデカン貯槽や廃活性炭供給槽に対しては炭酸ガス消火設備が設置され、必要に応じて手動にて起動して、炭酸ガスをそれら貯槽の内部に供給して消火を行う(図 6)。

また、これらの火災感知器からの信号は、夜間休日を含めて常時運転員が駐在する制御室にて監視することができ、警報発報時には常駐している運転員が速やかに初期消火の対応を行う体制としている。

第三低放射性廃液蒸発処理施設(Z)及び放出廃液油分除去施設(C)の防護対象のうちにはライニング貯槽というやや特殊な貯槽が用いられている。ライニング貯槽の基本的な特徴について図 7 に示したが、ライニング貯槽はコンクリート、金属等の不燃性材料で造られた部屋そのものが貯槽となっている構造であり、内部点検用の開口部については遮蔽体により閉止されており人の立入ができない。ライニング貯槽内には照明等の電気機器もないため発火源もなく、可燃物を取り扱わないため火災発生の可能性はなく、火災感知設備及び消火設備を設置していない(図 8)。

セル外の防護対象のプラントウォークダウンの結果について整理表(表 4)にまとめた。整理表では、火災防護に係る特徴となる以下の項目について整理した。表では防護対象とその設置されている部屋等の場所を示し、その右側の列に火災の可能性を判断する観点から以下の 4 項目についてまとめて示した。

「人の立入り」

可燃物を持ち込む可能性のある人の立ち入りの可能性の有無

「防護対象の材質」

セル外に設置されている防護対象に可燃性材料が用いられているか否か

「周囲の可燃物の有無」

防護対象の周囲において、防護対象の静的閉じ込め機能に影響を与えうるほどの火災延焼を生じうる可燃物の有無

「電気機器等の発火源」

セル外に設置されている防護対象の周囲において、発火源となりうる電気機器等の有無

これらのうち火災源となる項目が一つでもある場合、次の「火災感知器の有無」及び「消火設備」が設けられているか確認して内容を示した。

以上の結果から、セル外の防護対象に対する火災防護対策は妥当であると考える。

## (2) 第二の観点に基づくセル外の管理区域内で火災源となりえるものの管理状態に関するプラントウォークダウンの結果

仕掛品(廃棄施設に搬出するまで現場にて一時的に保管している、汚染の可能性のある放射性廃棄物で、現場の作業に使用したウエスや紙類などの可燃物を含んでいる。)については再処理施設保安規定に置場又は保管場所を定めて、金属製の容器に収める、不燃

シートによる養生を行うなどにより適切に保管している(図 9)。また、消防法上の届出が必要な危険物、少量危険物及び指定可燃物は、金属製の貯槽又は容器内で適切に保管するとともに、消防法上の危険物には該当しない数量の危険物(少量未満危険物)についても機構内の規則のなかに保管場所を定めて金属製の貯槽、容器又は棚内で適切に保管している(図 10)。

上記した火災源となるものに対する管理を行うことで火災発生の可能性は低いと考える。万一の火災発生時には、当該部屋又は隣接する部屋の火災感知器により火災を感知し、人が寄付き、当該部屋又は隣接する部屋の消火設備(消火器、屋内消火栓)を用いて消火活動を行う。更に、セル外に設置された放射性物質による汚染の可能性のない危険物、少量危険物及び指定可燃物に対しても、炭酸ガス消火設備又は水噴霧消火設備が設置され、必要に応じてそれらを手動にて起動して消火を行うことができる。

また、これらの火災感知器からの信号は、夜間休日を含めて常時運転員が駐在する制御室にて監視することができ、警報発報時には常駐している運転員が速やかに初期消火の対応を行う体制としている。

セル外の管理区域内で火災源となりえるものに対するプラントウォークダウンの結果について整理表(表 5)にまとめた。整理表では、火災防護に係る特徴となる以下の項目について整理した。表では防護対象とその設置されている部屋等の場所を示し、その右側の列に火災の可能性を判断する観点から以下の 4 項目についてまとめて示した。

「人の立入り」

可燃物を持ち込む可能性のある人の立ち入りの可能性の有無

「火災防止対策の有無」

保安規定に定められた火災防止対策の適用状況

「周囲の可燃物の有無」

保管場所に保管されている仕掛品又は少量危険物及び指定可燃物の周囲において、それらに火災延焼を生じうる可燃物の有無

「電気機器等の発火源」

保管場所に保管されている仕掛品又は少量危険物及び指定可燃物の周囲において、発火源となりうる電気機器等の有無

これらのうち火災源となる項目が一つでもある場合、次の「火災感知器の有無」及び「消火設備」が設けられているか確認して内容を示した。

以上の結果から、セル外の管理区域で火災源となりえるものに対する火災防護上の管理状況は妥当であると考えられるものの、廃止措置段階において管理区域内の作業環境における火災防護の状態を向上する観点からウォークダウンでの気づき事項に基づき以下の改善を行う。

#### ①火災源の排除(使用予定のない仕掛品(置場)の撤去・集約)

分離精製工場(MP)等には、廃止措置段階では不要と考えられる仕掛品(置場)があり、これらのうち今後定常的に使用する予定ないものについては撤去を行う。

## ② より確実な火災感知(火災源の火災感知器近傍へ移動)

分離精製工場(MP)クレーンホール(G1124)の一部仕掛品(置場)においては火災感知器までの距離が長く、より早期に感知が可能となるように、それら仕掛品(置場)については火災感知器の近傍へ移動するかもしくは撤去を行う(図 11)。

また、分析所(CB)の廊下(G316)に少量未満危険物が保管されているものの、当該廊下には火災感知器がなく、火災が発生した場合には隣接する部屋の火災感知器により感知することとなる。そのため、より速やかに感知できるよう、少量未満危険物の保管場所を火災感知器の近傍へ移動するかもしくは撤去を行う(図 12)。

## ③ 初期消火の確実性の向上(火災時にアクセスが難しい区域における可燃物等の保管禁止)

廃棄物処理場(AAF)等の地下階のアクセスには上階の床ハッチから梯子(タラップ)を使って昇降する必要がある。そのような箇所では火災が発生した場合、煙等の影響により上階からのアクセスが容易でないことから初期消火が遅れる可能性がある。そのようなアクセスが難しい区域については原則として可燃物・危険物の保管を禁止するよう規則に定める。

## 4. まとめ

プラントウォークダウンによる現場状況の確認の結果、その他の施設において放射性物質を貯蔵・保管している設備に対しては、既存の消火設備等により火災防護対策が適切になされており、火災により有意な放射性物質を放出させることはないことを確認した。

また、今後も長期間にわたって廃止措置に係る各種活動を継続する上で管理区域内の作業環境における火災防護の状態は重要であるとの観点から、プラントウォークダウンにおいては確認対象を幅広にして、対象施設内の管理区域内作業で火災源となり得る仕掛品や危険物等の管理状況を確認した。その結果、これらの仕掛品や危険物等に対しては再処理施設保安規定、消防法等に従って適切に管理された状態にあり、既存消防設備等により火災の感知及び消火が可能であることを確認した。



表1 再処理施設の主要施設と廃止措置における状況(1/2)

再 処 理 施 設		再処理施設としての主な機能	廃止措置における状況	
高放射性廃液を扱う施設	高放射性廃液貯蔵場 (HAW)	分離精製工場の高放射性廃液蒸発缶により蒸発濃縮した高放射性の廃液を受け入れ、高放射性廃液貯蔵セル内の貯槽に貯蔵する施設	高放射性廃液の貯蔵を継続する。	
	ガラス固化技術開発施設 (TVF) ガラス固化技術開発棟	再処理施設から発生した高放射性廃液を受け入れ、ガラス原料と共に溶融炉にてガラス溶融を行い、溶融したガラスをステンレス鋼製の容器に注入しガラス固化体として保管セルで保管する施設	高放射性廃液のガラス固化処理を継続する。	
先行4施設	分離精製工場 (MP)	再処理施設の主工程である使用済燃料の受入れ及び貯蔵、せん断、溶解、抽出及び分離、精製、ウラン脱硝、プルトニウム製品の貯蔵、気体廃棄物の処理、高放射性の廃液及び中放射性の廃液の処理、高放射性廃液の貯蔵、濃縮ウラン溶解槽の遠隔補修技術の開発等を行う施設	再処理運転を終了。 回収可能核燃料物質の取り出し（工程洗浄）を進めている。（～R5年度末終了予定） 再処理運転時に受け入れた使用済燃料の貯蔵を継続する。	
	ウラン脱硝施設 (DN)	分離精製工場から硝酸ウラン溶液を受け入れ、硝酸を分離し、ウランを三酸化ウラン粉末として回収する施設	再処理運転を終了。 回収可能核燃料物質の取り出し（工程洗浄）を進めている。（～R5年度末終了予定）	
	プルトニウム転換技術開発施設 (PCDF)	分離精製工場から受け入れた硝酸Pu溶液と硝酸U溶液の混合転換処理を行いPu・U混合酸化物(MOX)粉末とする施設	再処理運転を終了。 回収可能核燃料物質の取り出し（工程洗浄）を進めている。（～R5年度末終了予定） 過去の再処理で回収した一部のMOX粉末等の貯蔵を継続する。	
	クリプトン回収技術開発施設 (Kr)	分離精製工場の再処理工程のせん断・溶解オフガスに含まれるクリプトンを分離・回収し、貯蔵するための技術開発を行う試験施設	再処理運転終了に伴い、クリプトンの分離・回収運転を終了し、令和4年度に貯蔵していた放射性クリプトンガスの管理放出を完了した。 クリプトンを金属中に固化した固化体の保管を継続する。	
ウラン貯蔵施設	ウラン貯蔵所 (UO3)	分離精製工場またはウラン脱硝施設で三酸化ウラン粉末を詰めた三酸化ウラン容器を貯蔵する施設	過去の再処理運転時に回収したウランを貯蔵する。また今後工程洗浄で取り出したウランを受け入れる。	
	第二ウラン貯蔵所 (2UO3)			
	第三ウラン貯蔵所 (3UO3)			
固体廃棄物貯蔵施設	高放射性固体廃棄物貯蔵庫 (HASWS)	分離精製工場から発生するハル、エンドピース、使用済みフィルタ及び分析所で発生する分析廃材等の高放射性固体廃棄物を貯蔵する施設	左記の固体廃棄物の貯蔵、受け入れを継続する。	
	第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 (2HASWS)	分離精製工場から発生するハル、エンドピース、使用済みフィルタ、ガラス固化技術開発施設及び高レベル放射性物質研究施設のセル内で発生する廃棄物等が封入された標準ドラム及び長ドラムを貯蔵する施設		
	アスファルト固化体貯蔵施設 (AS1)	アスファルト固化体処理施設で製造されたアスファルト固化体、廃溶媒処理技術開発施設で製造されたPVC固化体及びエポキシ固化体を貯蔵する施設		
	第二アスファルト固化体貯蔵施設 (AS2)	アスファルト固化体処理施設で製造されたアスファルト固化体、廃溶媒処理技術開発施設で製造されたPVC固化体及びエポキシ固化体等を貯蔵する施設		
	第一低放射性固体廃棄物貯蔵場 (1LASWS)	再処理施設内の各施設で発生する低放射性固体廃棄物が封入されたドラム缶又は低放射性固体廃棄物貯蔵容器(コンテナ)を線量率に応じて分類し、各階別に貯蔵する施設		
	第二低放射性固体廃棄物貯蔵場 (2LASWS)	再処理施設内の各施設で発生する低放射性固体廃棄物が封入されたドラム缶又は低放射性固体廃棄物貯蔵容器(コンテナ)を線量率に応じて分類し、各階別に貯蔵する施設		
廃液貯蔵施設	スラッジ貯蔵場 (LW)	分離精製工場から発生する廃溶媒、廃棄物処理場の凝集沈殿処理装置から発生する化学スラッジや廃棄物処理場のサンドフィルタからの廃砂、廃棄物処理場の低放射性廃液第一蒸発缶等から発生する低放射性濃縮廃液等を貯蔵する施設	左記の放射性廃液の貯蔵、受け入れを継続する。	
	第二スラッジ貯蔵場 (LW2)			
	廃溶媒貯蔵場 (WS)			分離精製工場から発生する廃溶媒を貯蔵する施設
	低放射性濃縮廃液貯蔵施設 (LWSF)			廃棄物処理場の低放射性廃液第一蒸発缶等から発生する低放射性濃縮廃液等を貯蔵する施設

表1 再処理施設の主要施設と廃止措置における状況(2/2)

再 処 理 施 設		再処理施設としての主な機能	廃止措置における状況
廃液・廃棄物 処理施設等	廃棄物処理場 (AAF)	再処理施設から発生する低放射性液体廃棄物の蒸発濃縮処理や化学処理等を行うとともに低放射性固体廃棄物の仕分け・封入を行う施設	再処理運転終了後においても再処理施設で発生する低放射性廃液の処理を継続する。
	第二低放射性廃液蒸発処理施設 (E)	分離精製工場等の床ドレン廃液、酸回収精留塔の凝縮液、廃棄物処理場の低放射性廃液第一蒸発缶からの凝縮液等を蒸発処理する施設	
	第三低放射性廃液蒸発処理施設 (Z)	分離精製工場の床ドレン廃液、酸回収精留塔の凝縮液、廃棄物処理場の低放射性廃液第一蒸発缶の凝縮液等を蒸発処理する施設	
	放出廃液油分除去施設 (C)	第三低放射性廃液蒸発処理施設の中和処理設備からの処理済み廃液、高レベル放射性物質研究施設のドレン廃液等に含まれる浮遊物質や油分をろ過、吸着、除去して海洋放出する施設	
	廃溶媒処理技術開発施設 (ST)	廃棄物処理場等より送られた廃溶媒、廃希釈剤の処理試験を行う施設 (廃溶媒をTBPと希釈剤(ドデカン)に分離し、ドデカンは焼却施設(IF)に送って焼却処理を行い、TBPについてはエポキシ固化処理を行う)	建設中の低放射性廃棄物処理技術開発施設(LWTF)運転開始後に再処理施設で保管されている廃溶媒の処理を行う計画である。
	焼却施設 (IF)	分離精製工場等で発生する $\beta$ ・ $\gamma$ 系の可燃性固体廃棄物及び廃溶媒処理技術開発施設の希釈剤等を焼却処理する施設	再処理運転終了後においても再処理施設で発生する可燃性固体廃棄物の焼却処理を継続する。
	アスファルト固化処理施設 (ASP)	再処理工程から発生する低放射性濃縮廃液等をアスファルト固化処理する施設	平成9年3月に発生した火災爆発事故以降アスファルト固化処理を停止しているが、低放射性濃縮廃液の貯蔵は継続する。
	分析所 (CB)	各施設から採取・移送された運転、保全及び計量管理のための放射性試料の分析、放射線管理、管理区域内作業衣(カバーオール)の洗濯等を行う施設	再処理運転終了後においても必要な分析、放射線管理等を継続する。
一般施設	ガラス固化技術開発施設 (TVF) ガラス固化技術管理棟	ガラス固化技術開発棟の電源供給施設	左記の電源・ユーティリティの供給を継続する。
	ユーティリティ施設 (UC)	再処理施設の電源・冷却水・冷水・圧縮空気等の供給施設	
	中間開閉所	再処理施設の電源供給施設	
	第二中間開閉所	再処理施設の電源供給施設	
	資材庫	再処理施設の浄水供給施設	
	中央運転管理室	再処理施設の蒸気供給施設	

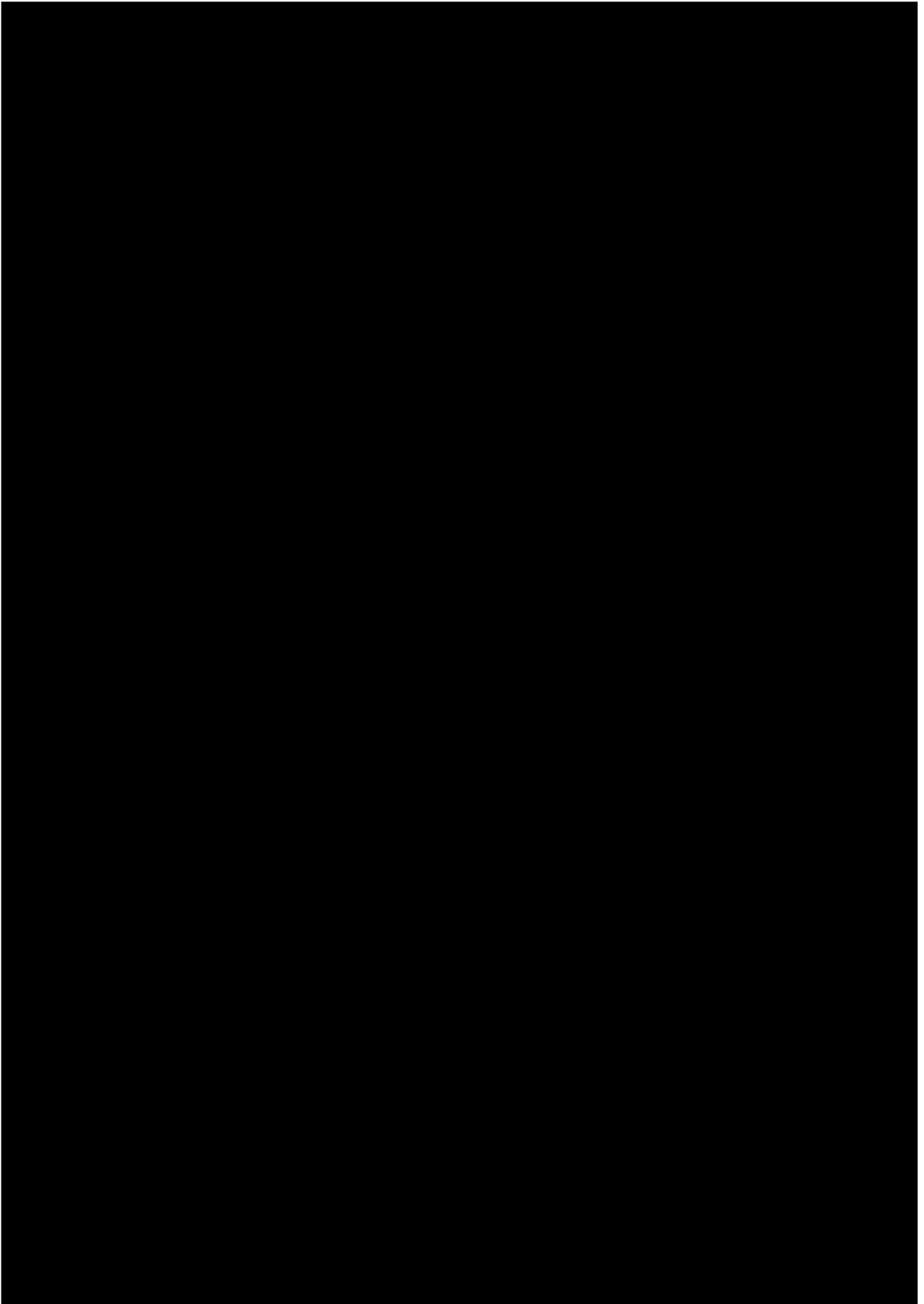


図 1 再処理施設における主要な施設の位置

表2 その他の施設における放射性物質の貯蔵・保管の状況(1/4)

施設	施設の使用目的	性状・貯蔵/保管状況等		放射能量等			
分離精製工場 (MP)	使用済燃料の貯蔵, 高放射性の廃液の貯蔵等	使用済燃料	低濃縮ウラン燃料	燃料集合体 (貯蔵プール) B1F	112体	■	FP (Cs-137等) Pu U
			MOX燃料		153体	■	FP (Cs-137等) Pu U
			せん断粉末	粉末(容器) 3FのT.P.+14.5 m 以上に保管	-	■	FP (Cs-137等) Pu U
		プール水	溶液 (貯蔵プール)	約4,200 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	FP (Cs-137等) Co	
		洗浄液 (溶解・清澄・調整工程)	溶液(貯槽等) B1F, 1F	約2 m <sup>3</sup>	■ 約1×10 <sup>13</sup> Bq	FP (Cs-137等) Pu U	
		洗浄液 (抽出工程等)	溶液(貯槽等) B1F, 1F, 2F	約10 m <sup>3</sup>	■	FP (Cs-137等) Pu U	
		洗浄液 (Pu濃縮工程)	溶液(貯槽) 1F	1 m <sup>3</sup> 未満	■	Pu U	
		Pu溶液 (Pu製品貯蔵工程)	溶液(貯槽) B1F	約1 m <sup>3</sup>	■	Pu	
		U溶液 (U溶液濃縮工程)	溶液(貯槽) B1F, 1F	約4 m <sup>3</sup>	■	U	
		三酸化ウラン粉末 (U脱硝工程)	粉末(FRP容器) 3F(T.P.+13.5 m)		■	UO <sub>3</sub>	
		U溶液(試薬調整工程)	溶液(貯槽) 5F(T.P.+20.6 m), 6F	約6 m <sup>3</sup>	■	U	
		高放射性廃液	未濃縮液(貯槽) B1F	約26 m <sup>3</sup>	約2.9×10 <sup>16</sup> Bq	FP (Cs-137等)	
			希釈廃液(貯槽) B1F	約24 m <sup>3</sup>	約4.9×10 <sup>16</sup> Bq	FP (Cs-137等)	
ヨウ素フィルタ (AgX)	保管容器に保管 4F(T.P.+16.44 m)	29基	-	FP (I-129)			
分析所 (CB)	各工程の試料の分析, 放射線管理	分析試料・標準物質(U)	溶液・固体(容器) 1F	-	分析試料 標準物質 ■	U	
		分析試料・標準物質(Pu)	溶液・固体(容器) 1F	-	分析試料 標準物質 ■	Pu	
		分析廃液	溶液(貯槽) B1F	約6m <sup>3</sup>	約3.6×10 <sup>12</sup> Bq	FP (Cs-137等)	

※「廃止措置計画変更認可申請書 別添 6-1-3-4「高放射性廃液貯蔵場(HAW)、ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟及びそれらに関連する施設以外の分離精製工場(MP)等の施設の外部事象に対する安全対策に関する説明書」の表 3-1「その他の施設における放射性物質の貯蔵・保管の状況(令和2年6月末時点)」に工程洗浄により施設から取り出されるもの・クリプトンガスの管理放出により施設からなくなったものを斜線にて示した。

表2 その他の施設における放射性物質の貯蔵・保管の状況(2/4)

施設	施設の使用目的	性状・貯蔵/保管状況等		放射能量等		
廃棄物処理場 (AAF)	低放射性の液体廃棄物の処理及び低放射性の固体廃棄物の処理	低放射性濃縮廃液	廃液(貯槽) B2F~B1F	約581 m <sup>3</sup>	~10 <sup>14</sup> Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137 等)
		低放射性廃液	廃液(貯槽, ライ ニング貯槽, 蒸発 缶) B2F~1F	約393m <sup>3</sup>	~10 <sup>12</sup> Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137 等)
		廃溶媒	廃液(貯槽) B2F	約19 m <sup>3</sup>	~10 <sup>9</sup> Bq	FP (Cs-137等)
		低放射性固体廃棄物	カートンボック ス, プラスチック 製容器, ビニル 袋, ドラム缶及び コンテナ 1F, 2F	約13 t	~10 <sup>9</sup> Bq	FP (Cs-137等)
		ヨウ素フィルタ (AgX)	保管容器に保管 1F	30基	-	FP (I-129)
		ヨウ素フィルタ (活性炭)	保管容器に保管 1F	3基	-	FP (I-129)
クリプトン回収技 術開発施設 (Kr)	クリプトンガスの貯 蔵	クリプトンガス	気体(シリンダ) B1F	4本	9.0×10 <sup>14</sup> Bq	Kr
高放射性固体廃棄 物貯蔵庫 (HASWS)	高放射性の固体廃棄 物の貯蔵	雑固体廃棄物, ハルエンドピース等	ハル缶等 (セル)	約576.8 m <sup>3</sup>	~10 <sup>15</sup> Bq (プール水は ~10 <sup>14</sup> Bq)	FP (Cs-137等)
		分析廃ジャグ等	分析廃棄物用容器 (セル)	約278.1 m <sup>3</sup>		FP (Cs-137等)
プルトニウム転換 技術開発施設 (PCDF)	MOX粉末の貯蔵	U溶液	溶液 (貯槽) B1F	約27 L	■	U
		MOX粉末	貯蔵容器 (貯蔵ホール) B1F	47基	■	Pu U
		凝集沈殿焼体	ポリビン等 (保管庫) 1F	103個	■	Pu U
		中和沈殿焼体	ポリビン等 (GB) 1F	30個	■	Pu U
		中和沈殿焼体	貯蔵容器 (貯蔵ホール) B1F	2基	■	Pu U
第二高放射性固体 廃棄物貯蔵施設 (2HASWS)	高放射性の固体廃棄 物の貯蔵	雑固体廃棄物, ハルエンドピース等	ドラム容器 (貯蔵ラック10段 積) B2F~B1F	約1458本	~10 <sup>15</sup> Bq (プール水は ~10 <sup>13</sup> Bq)	FP (Cs-137等)
アスファルト固化 処理施設 (ASP)	低放射性の液体廃棄 物の貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液(貯槽) B2F	約93 m <sup>3</sup>	~10 <sup>13</sup> Bq	FP (Cs-137等)

※「廃止措置計画変更認可申請書 別添 6-1-3-4「高放射性廃液貯蔵場(HAW)、ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟及びそれらに関連する施設以外に分離精製工場(MP)等の施設の外部事象に対する安全対策に関する説明書」の表 3-1「その他の施設における放射性物質の貯蔵・保管の状況(令和2年6月末時点)」に工程洗浄により施設から取り出されるもの・クリプトンガスの管理放出により施設からなくなったものを斜線にて示した。

表2 その他の施設における放射性物質の貯蔵・保管の状況(3/4)

施設	施設の使用目的	性状・貯蔵/保管状況等		放射能量等		
アスファルト固化体貯蔵施設 (AS1)	アスファルト固化体等の貯蔵	アスファルト固化体	ドラム缶 (4本/フレーム 収納6段積) B1F~1F	13,754本	~10 <sup>14</sup> Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137 等)
		プラスチック固化体		828本		FP (Cs-137等)
スラッジ貯蔵場 (LW)	スラッジ等の貯蔵	廃溶媒	廃液 (貯槽) 1F	約34 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	FP (Cs-137等)
		スラッジ	廃液 (貯槽) 1F	約285 m <sup>3</sup>	~10 <sup>8</sup> Bq	FP (Cs-137等)
第三低放射性廃液蒸発処理施設 (Z)	低放射性の液体廃棄物の処理	低放射性濃縮廃液	廃液 (ライニング貯槽)	約849 m <sup>3</sup>	~10 <sup>12</sup> Bq	FP (Cs-137等)
		低放射性廃液	廃液 (貯槽, 蒸発缶) B2F, 1F~3F	約371 m <sup>3</sup>	~10 <sup>9</sup> Bq	FP (Cs-137等)
第二スラッジ貯蔵場 (LW2)	スラッジ等の貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液 (ライニング貯槽)	約561 m <sup>3</sup>	~10 <sup>12</sup> Bq	FP (137Cs等)
		スラッジ	廃液 (ライニング貯槽)	約874 m <sup>3</sup>	~10 <sup>9</sup> Bq	FP (137Cs等)
第二低放射性廃液蒸発処理施設 (E)	低放射性の液体廃棄物の処理	低放射性廃液 (運転時)	廃液 (蒸発缶) B1F~3F	約5 m <sup>3</sup>	~10 <sup>5</sup> Bq	FP (Cs-137等)
廃溶媒貯蔵場 (WS)	廃溶媒の貯蔵	廃溶媒	廃液 (貯槽) B1F	約55 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	FP (Cs-137等)
放出廃液油分除去施設 (C)	低放射性の液体廃棄物の処理及び放出	低放射性廃液	廃液 (貯槽) B1F	約788 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	H-3
		スラッジ	廃液 (貯槽) B1F	約3 m <sup>3</sup>	~10 <sup>5</sup> Bq	FP (Cs-137等)
		廃活性炭	廃液 (貯槽) B1F	約88 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	FP (Cs-137等)
第二アスファルト固化体貯蔵施設 (AS2)	アスファルト固化体等の貯蔵	アスファルト固化体	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) B1F~2F	16,213本	~10 <sup>14</sup> Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137 等)
		プラスチック固化体		984本		FP (Cs-137等)
		雑固体廃棄物		19本		FP (Cs-137等)
ウラン脱硝施設 (DN)	ウランの脱硝	U溶液	溶液 (貯槽) B1F	約8.1 m <sup>3</sup>	■	U

※「廃止措置計画変更認可申請書 別添 6-1-3-4「高放射性廃液貯蔵場(HAW)、ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟及びそれらに関連する施設以外の分離精製工場(MP)等の施設の外部事象に対する安全対策に関する説明書」の表 3-1「その他の施設における放射性物質の貯蔵・保管の状況(令和2年6月末時点)」に工程洗浄により施設から取り出されるもの・クリプトンガスの管理放出により施設からなくなったものを斜線で示した。

表2 その他の施設における放射性物質の貯蔵・保管の状況(4/4)

施設	施設の使用目的	性状・貯蔵/保管状況等		放射能量等		
低放射性濃縮廃液貯蔵施設 (LWSF)	低放射性の廃液などの貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液 (貯槽・ライニング貯槽) B2F~B1F	約1,054 m <sup>3</sup>	~10 <sup>13</sup> Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137 等)
		リン酸廃液	廃液 (貯槽) B2F~B1F	約16 m <sup>3</sup>	~10 <sup>11</sup> Bq	FP (Cs-137等)
廃溶媒処理技術開発施設 (ST)	廃溶媒, 廃希釈剤の処理	廃溶媒	廃液 (貯槽) B2F	約6 m <sup>3</sup>	~10 <sup>9</sup> Bq	FP (Cs-137等)
ウラン貯蔵所 (UO3)	ウラン製品の貯蔵	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)	三酸化ウラン容器 (パードケージ)	238本	■	UO <sub>3</sub>
焼却施設 (IF)	低放射性の可燃性固体廃棄物等の焼却処理	低放射性固体廃棄物 (可燃)	カートンボックス, プラスチック製容器及びビニル袋 B1F~3F	約740 kg	~10 <sup>7</sup> Bq	FP (Cs-137等)
		焼却灰	ドラム缶 B1F	約690 kg	~10 <sup>9</sup> Bq	
		希釈剤 (回収ドデカン)	貯槽内 B1F	約200 L	~10 <sup>8</sup> Bq	
		廃活性炭	貯槽内 3F	約150 kg	~10 <sup>8</sup> Bq	
第二低放射性固体廃棄物貯蔵場 (2LASWS)	低放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) コンテナ (3段積) B1F~2F	約11,615 本	~10 <sup>12</sup> Bq	FP (Cs-137等) Pu U
第二ウラン貯蔵所 (2UO3)	ウラン製品の貯蔵	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)	三酸化ウラン容器 (パードケージ) 1F	1,828本	■	UO <sub>3</sub>
第一低放射性固体廃棄物貯蔵場 (1LASWS)	低放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) コンテナ (3段積) B1F~5F	約33,323 本	~10 <sup>13</sup> Bq	FP (Cs-137等) Pu U
第三ウラン貯蔵所 (3UO3)	ウラン製品の貯蔵	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)	三酸化ウラン容器 (コンクリートピット) 1F	585本	■	UO <sub>3</sub>

表3 セル内に設置する防護対象設備等(防護対象及び可燃物)に対する火災防護対策の類型化

施設	防護対象等			防護対象等を設置しているセル等		人の 立入り	セル内装・ 設置機器	可燃物 の取扱	電気機器等 の発火源	火災感知 の方法	初期消火 の方法	備考
	No.	名称	機器番号	部屋名	部屋番号							
分離精製工場	MP-06	使用済燃料※1	—	予備貯蔵プール 濃縮ウラン貯蔵プール	R0101 R0107	無し	不燃材	無し	有り※2	無し	無し	※1 防護対象は水中で金属製コンテナ内に保管されており火災の影響は受けない。 ※2 水中照明等を設置している
	MP-07	洗浄液受槽 溶解槽溶液受槽 調整槽 給液槽 高放射性廃液中間貯槽 高放射性廃液中間貯槽	242V13 243V10 251V10 251V11 252V13 252V14	給液調整セル	R006	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	MP-08	パルスフィルタ	243F16A	放射性配管分岐室	R026	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	MP-09	プルトニウム溶液受槽	276V20	リワークセル	R008	無し	不燃材	有り※1	無し	温度警報装置(FDT)	水噴霧消火(手動)	※1 再処理運転時には抽出溶媒を扱うセルであるが、廃止措置段階の現状において溶媒の取出しを終了しており、セル内に可燃物はなく火災の発生はなく、有意な放射性物質の放出に至ることはない。
	MP-10	プルトニウム製品貯槽	267V13～V16	プルトニウム製品貯蔵セル	R041	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	MP-11	プルトニウム製品貯槽	267V10～V12	プルトニウム製品貯蔵セル	R023	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	MP-12 MP-37	希釈槽 中間貯槽	266V13 266V12	プルトニウム精製セル	R015	無し	不燃材	有り※1	有り※2	温度警報装置(FDT)	無し※3	※1 再処理運転時には抽出溶媒を扱うセルであるが、廃止措置段階の現状において溶媒の取出しを終了しており、セル内に可燃物はなく火災の発生はなく、有意な放射性物質の放出に至ることはない。 ※2 セル内に攪拌機(防爆仕様)を設置している。 ※3 再処理運転時の溶媒使用量(800L)が指定数量(2000L)未満であることから水噴霧消火設備が設置していない。仮に火災が発生した場合にはセル入気ダンパを手動にて閉じることで窒息消火が行える。
	MP-17	濃縮液受槽	273V50	酸回収セル	R020	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	MP-18	高放射性廃液蒸発缶	271E20	高放射性廃液濃縮セル	R018	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	MP-34	パルスフィルタ	243F16	分離第1セル	R107A	無し	不燃材	有り※1	有り※2	温度警報装置(FDT)	無し※3	※1 再処理運転時には抽出溶媒を扱うセルであるが、廃止措置段階の現状において溶媒の取出しを終了しており、セル内に可燃物はなく火災の発生はなく、有意な放射性物質の放出に至ることはない。 ※2 セル内に攪拌機(防爆仕様)を設置している。 ※3 再処理運転時の溶媒使用量(1000L)が指定数量(2000L)未満であることから水噴霧消火設備を設置しておらず、仮に火災が発生した場合にはセル入気ダンパを手動にて閉じることで窒息消火が行える。
	MP-35	中間貯槽	255V12	分離第3セル	R109B	無し	不燃材	有り※1	有り※2	温度警報装置(FDT)	水噴霧消火(手動)	※1 再処理運転時には抽出溶媒を扱うセルであるが、廃止措置段階の現状において溶媒の取出しを終了しており、セル内に可燃物はなく火災の発生はなく、有意な放射性物質の放出に至ることはない。 ※2 セル内に攪拌機(防爆仕様)を設置している。



表3 セル内に設置する防護対象設備等(防護対象及び可燃物)に対する火災防護対策の類型化

施設	防護対象等			防護対象等を設置しているセル等		人の 立入り	セル内装・ 設置機器	可燃物 の取扱	電気機器等 の発火源	火災感知 の方法	初期消火 の方法	備考
	No.	名称	機器番号	部屋名	部屋番号							
分離精製工場	MP-36	中間貯槽	261V12	ウラン精製セル	R114	無し	不燃材	有り※1	有り※2	温度警報装置(FDT)	水噴霧消火(手動)	※1 再処理運転時には抽出溶媒を扱うセルであるが、廃止措置段階の現状において溶媒の取出しを終了しており、セル内に可燃物はなく火災の発生はなく、有意な放射性物質の放出に至ることはない。 ※2 セル内に攪拌機(防爆仕様)を設置している。
	MP-42	高放射性廃液貯槽	272V12, V14	高放射性廃液貯蔵セル	R017	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	MP-43	高放射性廃液貯槽	272V16	高放射性廃液貯蔵セル	R016	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	MP-53	せん断粉末※1	—	除染保守セル	R333	無し	不燃材	無し	有り※2	温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火(手動)	※1 工程洗浄により取り出し済み。 ※2 セル内クレーン等の電気機器
ウラン脱硝施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル内の防護対象設備はない
プルトニウム転換 技術開発施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル内の防護対象設備はない
クリプトン回収 技術開発施設	Kr-01	クリプトン貯蔵シリンダー	K21V109~V122	クリプトン貯蔵セル	R003A	無し	不燃材	無し	無し	温度上限注意(TIW+)	無し	
	Kr-02	クリプトン固化体	—	固定化試験セル	R008B	無し	不燃材※1	無し	有り※2	無し※3	無し	※1 クリプトン固化体は鉛遮蔽体により囲われており、火災が発生しても、有意な放射性物質の放出に至ることはない。 ※2 試験用監視カメラ等を設置している。 ※3 試験用監視カメラの映像をMP中央制御室(G549)のPC端末にて監視
ウラン貯蔵所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル内の防護対象設備はない
第二ウラン貯蔵所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル内の防護対象設備はない
第三ウラン貯蔵所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル内の防護対象設備はない
高放射性 固体廃棄物貯蔵庫	HASWS-01	分析廃ジャグ等	—	予備貯蔵庫	R030	無し	不燃材	有り※1	無し	温度検知装置	セル内散水装置(手動)	※1 防護対象そのものが可燃物(ポリエチレン)
	HASWS-02	雑固体廃棄物 (ハルエンドピース等)	—	ハル貯蔵庫	R031	無し	不燃材	無し	無し	温度警報装置(FDT)	無し※1	※1 燃料被覆管(ジルカロイ)を水とともに封入した金属容器を水中貯蔵していることから、火災の発生の恐れはないため、消火設備を設置していない。
	HASWS-03	雑固体廃棄物 (ハルエンドピース等)	—	ハル貯蔵庫	R032	無し	不燃材	無し	無し	温度警報装置(FDT)	無し※1	
	HASWS-04	分析廃ジャグ等	—	汚染機器類貯蔵庫	R040	無し	不燃材	有り※1	無し	温度検知装置	消火器具(手動) CO2消火器(手動)	※1 防護対象そのものが可燃物(ポリエチレン)
	HASWS-05	分析廃ジャグ等	—	汚染機器類貯蔵庫	R041	無し	不燃材	有り※1	無し	温度検知装置	消火器具(手動) CO2消火器(手動)	
	HASWS-06	分析廃ジャグ等	—	汚染機器類貯蔵庫	R042	無し	不燃材	有り※1	無し	温度検知装置	消火器具(手動) CO2消火器(手動)	
	HASWS-07	分析廃ジャグ等	—	汚染機器類貯蔵庫	R043	無し	不燃材	有り※1	無し	温度検知装置	消火器具(手動) CO2消火器(手動)	
	HASWS-08	分析廃ジャグ等	—	汚染機器類貯蔵庫	R044	無し	不燃材	有り※1	無し	温度検知装置	消火器具(手動) CO2消火器(手動)	
	HASWS-09	分析廃ジャグ等	—	汚染機器類貯蔵庫	R045	無し	不燃材	有り※1	無し	温度検知装置	消火器具(手動) CO2消火器(手動)	
	HASWS-10	分析廃ジャグ等	—	汚染機器類貯蔵庫	R046	無し	不燃材	有り※1	無し	温度検知装置	消火器具(手動) CO2消火器(手動)	

表3 セル内に設置する防護対象設備等(防護対象及び可燃物)に対する火災防護対策の類型化

施設	防護対象等			防護対象等を設置しているセル等		人の 立入り	セル内装・ 設置機器	可燃物 の取扱	電気機器等 の発火源	火災感知 の方法	初期消火 の方法	備考
	No.	名称	機器番号	部屋名	部屋番号							
第二高放射性 固体廃棄物貯蔵施設	2HASWS-01	雑固体廃棄物 (ハルエンドピース等)	—	乾式貯蔵セル	R002	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	2HASWS-02	雑固体廃棄物 (ハルエンドピース等)	—	湿式貯蔵セル	R003	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し※1	※1 燃料被覆管(ジルカロイ)を水とともに封入した金属 容器を水中貯蔵していることから、火災の発生の恐れ はないため、消火設備を設置していない。
	2HASWS-03	雑固体廃棄物 (ハルエンドピース等)	—	湿式貯蔵セル	R004	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し※1	
アスファルト固化体 貯蔵施設	AS1-01	アスファルト固化体 プラスチック固化体	—	貯蔵セル	R051	無し	不燃材	有り※1	有り※2	分布型感知器 温度警報装置(FDT) 煙感知器(FDS)	水噴霧消火(自動・手動)	
	AS1-02	アスファルト固化体 プラスチック固化体	—	貯蔵セル	R052	無し	不燃材	有り※1	有り※2	分布型感知器 温度警報装置(FDT) 煙感知器(FDS)	水噴霧消火(自動・手動)	※1 防護対象そのものが可燃物 ※2 セル内照明等
	AS1-04	アスファルト固化体 プラスチック固化体	—	貯蔵セル	R151	無し	不燃材	有り※1	有り※2	分布型感知器 温度警報装置(FDT) 煙感知器(FDS)	水噴霧消火(自動・手動)	※1 防護対象そのものが可燃物 ※2 セル内照明等
	AS1-05	アスファルト固化体 プラスチック固化体	—	貯蔵セル	R152	無し	不燃材	有り※1	有り※2	分布型感知器 温度警報装置(FDT) 煙感知器(FDS)	水噴霧消火(自動・手動)	※1 防護対象そのものが可燃物 ※2 セル内照明等
第二アスファルト固化体 貯蔵施設	AS2-01	雑固体廃棄物	—	貯蔵セル	R051	無し	不燃材	有り※1	有り※2	分布型感知器 温度警報装置(FDT)	水噴霧消火(自動・手動)	※1 防護対象そのものが可燃物 ※2 セル内照明等
	AS2-10	アスファルト固化体 プラスチック固化体	—	貯蔵セル	R151	無し	不燃材	有り※1	有り※2	分布型感知器 温度警報装置(FDT)	水噴霧消火(自動・手動)	※1 防護対象そのものが可燃物 ※2 セル内照明等
	AS2-11	アスファルト固化体 プラスチック固化体	—	貯蔵セル	R251	無し	不燃材	有り※1	有り※2	分布型感知器 温度警報装置(FDT)	水噴霧消火(自動・手動)	※1 防護対象そのものが可燃物 ※2 セル内照明等
第一低放射性 固体廃棄物貯蔵場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル内の防護対象設備はない
第二低放射性 固体廃棄物貯蔵場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル内の防護対象設備はない
スラッジ貯蔵場	LW-01	廃溶媒貯槽	333V10	廃溶媒貯蔵セル	R031	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 防護対象内のTBP、ドデカン
	LW-02	廃溶媒貯槽	333V11	廃溶媒貯蔵セル	R032	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 防護対象内のTBP、ドデカン
	LW-03	スラッジ貯槽	332V10, V11	スラッジ貯蔵セル	R030	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
第二スラッジ貯蔵場	LW2-01	スラッジ貯槽	332V20	スラッジ貯蔵セル	R001	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	LW2-02	濃縮液貯槽	332V21	濃縮液貯蔵セル	R002	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
廃溶媒貯蔵場	WS-01	廃溶媒貯槽	333V20	廃溶媒貯蔵セル	R020	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 防護対象内のTBP、ドデカン
	WS-02	廃溶媒貯槽	333V21	廃溶媒貯蔵セル	R021	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 防護対象内のTBP、ドデカン
	WS-03	廃溶媒貯槽	333V22	廃溶媒貯蔵セル	R022	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 防護対象内のTBP、ドデカン
	WS-04	廃溶媒貯槽	333V23	廃溶媒貯蔵セル	R023	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 防護対象内のTBP、ドデカン
低放射性濃縮廃液 貯蔵施設	LWSF-01	濃縮液貯槽	S21V30	第1濃縮廃液貯蔵セル	R001	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	LWSF-02	低放射性濃縮廃液貯槽	S21V10, V11, V20	第2濃縮廃液貯蔵セル	R002	無し	不燃材	無し	無し	分布型感知器	連結散水設備(手動)	
	LWSF-03	廃液貯槽	S21V40	廃液貯蔵セル	R004	無し	不燃材	無し	無し	分布型感知器	連結散水設備(手動)	

表3 セル内に設置する防護対象設備等(防護対象及び可燃物)に対する火災防護対策の類型化

施設	防護対象等			防護対象等を設置しているセル等		人の 立入り	セル内装・ 設置機器	可燃物 の取扱	電気機器等 の発火源	火災感知 の方法	初期消火 の方法	備考
	No.	名称	機器番号	部屋名	部屋番号							
廃棄物処理場	AAF-01	低放射性廃液貯槽	313V10	低放射性廃液貯槽	R010	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-02	低放射性廃液貯槽	313V11	低放射性廃液貯槽	R011	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-03	低放射性廃液貯槽	314V12	低放射性廃液貯槽	R012	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-04	低放射性廃液貯槽	314V13	低放射性廃液貯槽	R013	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-05	低放射性廃液貯槽	314V14	低放射性廃液貯槽	R014	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-06	放出廃液貯槽	316V10	放出廃液貯槽	R015	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-07	放出廃液貯槽	316V11	放出廃液貯槽	R016	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-08	放出廃液貯槽	316V12	放出廃液貯槽	R017	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-09	中間受槽	312V10～V12	放射性配管分岐室	R018	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-10	廃希釈剤貯槽	318V10	廃溶媒貯蔵セル	R022	無し	不燃材	有り※1	有り※2	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 防護対象内のTBP、ドデカン ※2 配線
	AAF-11	廃溶媒・廃希釈剤貯槽	318V11	廃溶媒貯蔵セル	R023	無し	不燃材	有り※1	有り※2	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 防護対象内のTBP、ドデカン ※2 配線
	AAF-12	低放射性濃縮廃液貯槽	331V10	低放射性濃縮廃液貯蔵セル	R050	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-13	低放射性濃縮廃液貯槽	331V11	低放射性濃縮廃液貯蔵セル	R051	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	AAF-14	低放射性濃縮廃液貯槽	331V12	低放射性濃縮廃液貯蔵セル	R052	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
第二低放射性廃液 蒸発処理施設	E-01	低放射性廃液第二蒸発缶	322E12、V11	蒸発缶セル	R-1	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
第三低放射性廃液 蒸発処理施設	Z-01	廃液受入貯槽	326V01	廃液受入貯槽	R001	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	Z-02	廃液受入貯槽	326V02	廃液受入貯槽	R002	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	Z-03	濃縮液貯槽	326V50A	濃縮液貯槽	R020A	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	Z-04	濃縮液貯槽	326V50B	濃縮液貯槽	R020B	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	Z-05	濃縮液貯槽	326V51A	濃縮液貯槽	R021A	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	Z-06	濃縮液貯槽	326V51B	濃縮液貯槽	R021B	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	Z-07	ドレン受槽	326V70	濃縮液貯槽	R006	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	Z-16	低放射性廃液第三蒸発缶	326E10、V11	蒸発缶セル	R120	無し	不燃材	無し	無し	温度警報装置(TA+)	無し	
放出廃液油分除去施設	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	セル内の防護対象設備はない

表3 セル内に設置する防護対象設備等(防護対象及び可燃物)に対する火災防護対策の類型化

施設	防護対象等			防護対象等を設置しているセル等		人の立入り	セル内装・設置機器	可燃物の取扱	電気機器等の発火源	火災感知の方法	初期消火の方法	備考
	No.	名称	機器番号	部屋名	部屋番号							
廃溶媒処理技術開発施設	ST-01	受入貯槽	328V10、V11	廃溶媒受入セル	R006	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 防護対象内のTBP、ドデカン
	ST-02	洗浄槽 希釈剤受槽 希釈剤洗浄槽	328V20 328V24 328V47	廃溶媒洗浄セル	R001	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 貯槽内のTBP、ドデカン
	ST-03	第1抽出槽 第2抽出槽 第3抽出槽	328V21 328V22 328V23	希釈剤分離セル	R002	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 貯槽内のTBP、ドデカン
	ST-04	廃液洗浄槽	328V40	廃液中和セル	R003	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 貯槽内のドデカン
	ST-05	TBP貯槽	328V31	TBP貯蔵セル	R005	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 貯槽内のTBP
	ST-06	廃シリカゲル貯槽	328V32	廃シリカゲル貯蔵セル	R007	無し	不燃材	有り※1	無し	温度記録上限緊急操作装置(TRP+) 温度警報装置(FDT)	炭酸ガス消火設備(自動) 水噴霧消火(手動)	※1 貯槽内のドデカン
焼却施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル内の防護対象設備等はない
アスファルト固化処理施設	ASP-01	廃液受入貯槽	A12V21	廃液受入貯蔵セル	R051	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	ASP-02	廃液受入貯槽	A12V20	廃液受入貯蔵セル	R052	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
分析所	CB-01	中間貯槽※1	108V10、V11	廃液貯蔵セル	R027	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	※1 当該貯槽内の分析試料等は工程洗浄により取出し済み
	CB-02	中間貯槽	108V20、V21	廃液貯蔵セル	R026	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	
	CB-03	中間貯槽	108V30、V31	廃液貯蔵セル	R025	無し	不燃材	無し	無し	無し	無し	

表4 セル外に設置する防護対象に対する火災防護対策の類型化

施設	防護対象等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	防護対象の材質	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	名称	機器番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
分離精製工場	MP-16	中間貯槽	263V10	ウラン濃縮脱硝室	A022	有り	不燃材	無し	有り	有り※1	有り	有り	無し	工程洗浄により取出し予定 ※1 隣接する部屋に感知器あり
	MP-41	一時貯槽	263V55～V57	分岐室	A147	有り	不燃材	無し	有り	有り	有り	有り	無し	工程洗浄により取出し予定
	MP-61	三酸化ウラン粉末	—	ウラン濃縮脱硝室	A322	有り	難燃材※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	工程洗浄により取出し予定 ※1 容器:FRP製
	MP-69	A <sub>g</sub> Xフィルタ	—	排気フィルタ室	A464	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 容器:金属製
	MP-75	受流槽※1	201V75	ウラン試薬調整室	G544	有り	難燃材※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 ウラン溶液は一時貯槽に集約済 ※2 受流槽:FRP製
	MP-76	貯槽※1	201V77～V79	ウラン試薬調整室	G644	有り	不燃材※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 ウラン溶液は一時貯槽に集約済 ※2 容器:金属製
ウラン脱硝施設	DN-01	UNH貯槽	263V32	UNH貯蔵室	A012	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 容器:金属製 工程洗浄により取出し予定
	DN-02	UNH貯槽	263V33	UNH貯蔵室	A014	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 容器:金属製 工程洗浄により取出し予定
プルトニウム転換技術開発施設	PCDF-01	硝酸ウラン貯槽	P11V14	受入室	A027	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 容器:金属製 工程洗浄により取出し予定
	PCDF-05	粉末缶貯蔵容器	—	粉末貯蔵室	A025	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 容器:金属製
	PCDF-18	中和沈殿焙焼体GB	P72B04	廃液一次処理室	A129	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 グローブボックス(G.B)の缶体は金属製、 パネルはアクリル製
	PCDF-20	凝集沈殿焙焼体	—	固体廃棄物置場	A123	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 容器:金属製
クリプトン回収技術開発施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
ウラン貯蔵所	UO3-01	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)	—	貯蔵室	—	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 容器:金属製
第二ウラン貯蔵所	2UO3-01	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)	—	貯蔵室	A103	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 容器:金属製
第三ウラン貯蔵所	3UO3-01	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)	—	貯蔵室	A113	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 容器:金属製
高放射性 固体廃棄物貯蔵庫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
第二高放射性 固体廃棄物貯蔵施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
アスファルト固化体 貯蔵施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
第二アスファルト固化体 貯蔵施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し

表4 セル外に設置する防護対象に対する火災防護対策の類型化

施設	防護対象等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	防護対象の材質	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	名称	機器番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
第一低放射性 固体廃棄物貯蔵場	1LASWS-01	雑固体廃棄物	—	貯蔵室	A001	有り	不燃材※1	無し	有り	無し	有り	無し	無し	※1 雑固体廃棄物は、金属製の容器に保管されており、火災が発生しても有意な放射性物質の放出に至ることはない。
	1LASWS-02	雑固体廃棄物	—	貯蔵室	A101	有り	不燃材※1	無し	有り	無し	有り	無し	無し	※1 雑固体廃棄物は、金属製の容器に保管されており、火災が発生しても有意な放射性物質の放出に至ることはない。
	1LASWS-04	雑固体廃棄物	—	貯蔵室	A201	有り	不燃材※1	無し	有り	無し	有り	無し	無し	※1 雑固体廃棄物は、金属製の容器に保管されており、火災が発生しても有意な放射性物質の放出に至ることはない。
	1LASWS-05	雑固体廃棄物	—	貯蔵室	G301	有り	不燃材※1	無し	有り	無し	有り	無し	無し	※1 雑固体廃棄物は、金属製の容器に保管されており、火災が発生しても有意な放射性物質の放出に至ることはない。
	1LASWS-06	雑固体廃棄物	—	貯蔵室	G401	有り	不燃材※1	無し	有り	無し	有り	無し	無し	※1 雑固体廃棄物は、金属製の容器に保管されており、火災が発生しても有意な放射性物質の放出に至ることはない。
	1LASWS-07	雑固体廃棄物	—	貯蔵室	G501	有り	不燃材※1	無し	有り	無し	有り	無し	無し	※1 雑固体廃棄物は、金属製の容器に保管されており、火災が発生しても有意な放射性物質の放出に至ることはない。
第二低放射性 固体廃棄物貯蔵場	2LASWS-01	雑固体廃棄物	—	貯蔵室	A001	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 容器:金属製
	2LASWS-04	雑固体廃棄物	—	貯蔵室	A101	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 容器:金属製
	2LASWS-05	雑固体廃棄物	—	貯蔵室	G201	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 容器:金属製
スラッジ貯蔵場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
第二スラッジ貯蔵場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
廃溶媒貯蔵場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
低放射性濃縮廃液 貯蔵施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
廃棄物処理場	AAF-26	ヨウ素フィルタ (AgX、活性炭)	—	排気フィルタ室	A102	有り	不燃材※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 容器:金属製
第二低放射性廃液 蒸発処理施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
第三低放射性廃液 蒸発処理施設	Z-08	粗調整槽	327V60	粗調整槽	A003	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
	Z-09	中和反応槽	327V61	中和処理室	A004	有り	不燃材	無し	有り	有り	有り	有り	無し	
	Z-10	中間貯槽	327V62	中和処理室	A004	有り	不燃材	無し	有り	有り	有り	有り	無し	

表4 セル外に設置する防護対象に対する火災防護対策の類型化

施設	防護対象等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	防護対象の材質	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	名称	機器番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
放出廃液油分除去施設	C-01	廃液受入貯槽	350V10	廃液受入貯槽	A001	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
	C-02	廃液受入貯槽	350V11	廃液受入貯槽	A002	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
	C-03	廃液受入貯槽	350V12	廃液受入貯槽	A003	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
	C-04	放出廃液貯槽	350V20	放出廃液貯槽	A004	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
	C-05	放出廃液貯槽	350V21	放出廃液貯槽	A005	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
	C-06	放出廃液貯槽	350V22	放出廃液貯槽	A006	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
	C-07	放出廃液貯槽	350V23	放出廃液貯槽	A007	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
	C-08	廃炭貯槽	350V31	廃炭貯槽	A008	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
	C-09	スラッジ貯槽	350V32	スラッジ貯槽	A009	無し	不燃材※1	無し	無し	無し	無し	無し	無し	※1 ライニング貯槽
廃溶媒処理技術開発施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
焼却施設	IF-01	一時貯蔵ラック	342M151,M152	カートン貯蔵室	A001	有り	可燃物※1	無し	有り	有り	有り	有り	水噴霧消火設備(手動)	※1 一時貯蔵ラック内で低放射性固体廃棄物を貯蔵
	IF-03	回収ドデカン貯槽	342V21	オフガス処理室	A005	有り	不燃物	無し	有り	有り※1	有り	有り	炭酸ガス消火設備(手動) 水噴霧消火設備(手動)	※1 炭酸ガス消火設備用の熱電対により槽内温度を測定
	IF-05	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物	—	オフガス処理室	A005	有り	不燃物※1	無し	有り	有り	有り	有り	水噴霧消火設備(手動)	※1 低放射性固体廃棄物を不燃シートにより養生
	IF-06	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物	—	焼却灰ドラム保管室	A006	有り	不燃物※1	無し	有り	有り	有り	有り	水噴霧消火設備(手動)	※1 容器:金属製
	IF-08	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物	—	予備室	A102	有り	不燃物※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 低放射性固体廃棄物を不燃シートにより養生
	IF-14	廃活性炭供給槽	342V25	廃活性炭供給室	A308	有り	不燃物	無し	有り	有り※1	有り	有り	炭酸ガス消火設備(手動) 水噴霧消火設備(手動)	※1 炭酸ガス消火設備用の熱電対により槽内温度を測定
アスファルト固化処理施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	セル外に設置する防護対象は無し
分析所	CB-18	分析試料	G.B II-1	低放射性分析室	G116	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 G.Bパネル:アクリル製 ※2 周囲にグローブボックス有り
	CB-20	分析試料	G.B I-1	低放射性分析室	G115	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 G.Bパネル:アクリル製 ※2 周囲にグローブボックス有り

表4 セル外に設置する防護対象に対する火災防護対策の類型化

施設	防護対象等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	防護対象の材質	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	名称	機器番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
分析所	CB-21	分析試料	G.B I-3	低放射性分析室	G115	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	有り※2	有り※3	有り	有り	有り	G.B内の消火用バルブ(手動)※3	※1 G.Bパネル:アクリル製 ※2 周囲にグローブボックス有り ※3 G.B内に加熱機器があることからG.B内に消火用の水を供給するシステムを設置
	CB-22	分析試料	G.B I-4	低放射性分析室	G115	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	有り※2	有り※3	有り	有り	有り	G.B内の消火用バルブ(手動)※3	※1 G.Bパネル:アクリル製 ※2 周囲にグローブボックス有り ※3 G.B内に加熱機器があることからG.B内に消火用の水を供給するシステムを設置
	CB-23	分析試料	G.B II-3	低放射性分析室	G115	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	有り※2	有り※3	有り	有り	有り	G.B内の消火用バルブ(手動)※3	※1 G.Bパネル:アクリル製 ※2 周囲にグローブボックス有り ※3 G.B内に加熱機器があることからG.B内に消火用の水を供給するシステムを設置
	CB-24	分析試料	G.B II-5	低放射性分析室	G115	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 G.Bパネル:アクリル製 ※2 周囲にグローブボックス有り
	CB-29	分析試料	G.B No.4	機器分析準備室	G124	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	有り※2	有り※3	有り	有り	有り	G.B内の消火用バルブ(手動)※3	※1 G.Bパネル:アクリル製 ※2 周囲にグローブボックス有り ※3 G.B内に加熱機器があることからG.B内に消火用の水を供給するシステムを設置
	CB-30	分析試料	G.B No.5	機器分析準備室	G124	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	有り※2	有り※3	有り	有り	有り	G.B内の消火用バルブ(手動)※3	※1 G.Bパネル:アクリル製 ※2 周囲にグローブボックス有り ※3 G.B内に加熱機器があることからG.B内に消火用の水を供給するシステムを設置
	CB-31	分析試料	G.B No.7	機器分析準備室	G124	有り	不燃材 (一部可燃材)※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 G.Bパネル:アクリル製 ※2 周囲にグローブボックス有り
	CB-36	標準物質 (置場)	-	ガラス細工室	G014	有り	不燃材	無し	有り	有り	有り	有り	無し	



表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
分離精製工場	MP-01	仕掛品(置場)	—	カスク除染室	A0110	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器及び不燃シートにより養生
	MP-02	仕掛品(置場)	—	階段室	A0115	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-03	仕掛品(置場)	—	更衣室	A0117	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-04	少量未満危険物※1	—	更衣室	A0117	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 PT剤等 ※2 金属製容器
	MP-05	仕掛品(置場) (休止措置中)	—	濃縮ウラン溶解セルの地下	A046	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-13	仕掛品(置場)	—	凝縮液貯蔵室	A042	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器及び不燃シートにより養生
	MP-14	仕掛品(置場)	—	地下中央保守区域	A043	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-15	仕掛品(置場)	—	プルトニウムセル操作区域	A024	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-19	少量未満危険物※1	—	トラックエアロック	W1120	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 ギヤー油等 ※2 金属製容器
	MP-20	少量未満危険物※1	—	クレーンホール	G1124	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 ギヤー油等 ※2 金属製容器
	MP-21	仕掛品(置場)※1	—	クレーンホール (W1120側)	G1124	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 休止措置中 ※2 金属製容器
	MP-22	仕掛品(置場)※1	—	クレーンホール (R0102側)	G1124	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 休止措置中 ※2 金属製容器
	MP-23	仕掛品(置場)	—	クレーンホール (R0103-R0104間)	G1124	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-24	仕掛品(置場)※1	—	クレーンホール (R0103側)	G1124	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 休止措置中 ※2 金属製容器
	MP-25	仕掛品(置場)	—	クレーンホール (R0104側)	G1124	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-26	仕掛品(置場)※1	—	クレーンホール (R0108側)	G1124	有り	有り※2	無し	有り	有り※3	有り	有り	無し	※1 休止措置中 ※2 金属製容器 ※3 上部に感知器なし
	MP-27	仕掛品(保管場所)	—	クレーンホール	G1124	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 不燃シート養生
	MP-28	仕掛品(置場)	—	更衣室	A1161	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-29	仕掛品(置場)	—	更衣室	A155	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-30	仕掛品(置場)	—	予備溶解槽保守区域	A156	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-31	仕掛品(置場) (R0109側)	—	濃縮ウラン溶解槽装荷セル操作区域	G146	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-32	仕掛品(置場) (A045側)	—	濃縮ウラン溶解槽装荷セル操作区域	G146	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-33	仕掛品(置場)	—	機械処理セル換気ダクト室	A157	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器及び不燃シート養生
	MP-38	仕掛品(保管場所)	—	分岐室	A147	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
分離精製工場	MP-39	仕掛品(置場)	—	分岐室	A147	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-40	少量未満危険物※1	—	分岐室	A147	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 ギヤー油等 ※2 金属製棚
	MP-44	仕掛品(置場)	—	プルトニウムセル操作区域	A124	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-45	仕掛品(置場)	—	プルトニウムセル操作区域	A024	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-46	仕掛品(置場)	—	ウラン濃縮脱硝室	A122	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-47	仕掛品(置場)	—	ユーティリティ室	G144	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-48	仕掛品(置場)	—	ウラン濃縮脱硝室	A222	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-49	仕掛品(置場) (A024側)	—	廊下	A247	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-50	仕掛品(置場) (A258側)	—	廊下	A247	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-51	少量未満危険物※1	—	廊下	A247	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 ギヤー油等 ※2 金属製棚
	MP-52	仕掛品(置場)	—	ユーティリティ室	G244	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-54	少量未満危険物※1	—	倉庫	G3154	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 ギヤー油等 ※2 金属製棚及び不燃シート養生
	MP-55	仕掛品(置場)	—	濃縮ウラン機械処理セル操作区域	G346	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-56	仕掛品(保管場所)	—	濃縮ウラン機械処理セル操作区域	G346	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	MP-57	仕掛品(置場)	—	更衣室	A355	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-58	仕掛品(置場)	—	汚染機器調整室	A356	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-59	仕掛品(置場)	—	槽類換気系室	A359	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-60	仕掛品(置場)	—	ウラン濃縮脱硝室	A322	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-62	仕掛品(置場)	—	サンプリング操作室	A343	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-63	仕掛品(置場) (G349側)	—	保守区域	A348	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
MP-64	仕掛品(置場) (A343側)	—	保守区域	A348	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
MP-65	仕掛品(置場)	—	真空ポンプ室	A358	有り	有り※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器 ※2 資材等	
MP-66	仕掛品(置場)	—	プルトニウムセル操作区域	A024	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
MP-67	仕掛品(置場)	—	分電盤室	G449	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考	
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他		
分離精製工場	MP-68	仕掛品(置場)	—	排気フィルタ室	A464	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	MP-70	仕掛品(置場)	—	エアロック	A554	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	MP-71	仕掛品(置場)	—	機械セル機器室	A568	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-72	仕掛品(置場)	—	伝送操作室	G565	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-73	少量未満危険物※1	—	伝送操作室	G565	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 洗浄剤等 ※2 金属製容器
	MP-74	仕掛品(置場)	—	弁操作試薬調整室	G543	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-77	仕掛品(置場)	—	ウラン試薬調整室	G644	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-78	少量未満危険物※1	—	廊下	G650	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油等 ※2 金属製容器
	MP-79	少量未満危険物※1	—	試薬調整区域	G643	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油等 ※2 金属製容器
	MP-80	仕掛品(置場)※1	—	試薬調整区域分析室	G643	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 休止措置中 ※2 金属製容器
	MP-81	仕掛品(置場)	—	エアロック	A681	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-82	仕掛品(置場)	—	エアロック	A683	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-83	仕掛品(置場)	—	エアロック	A685	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-84	仕掛品(置場)	—	エアロック	A687	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-85	少量未満危険物※1	—	ダクト通路	G677	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油 ※2 金属製容器
	MP-86	仕掛品(置場)	—	ダクト通路	G677	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	MP-87	危険物※1	—	モーター室	G653	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 作動油 ※2 金属製設備
	MP-88	危険物※1	—	ウラン濃縮脱硝室	A122	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 熱媒油 ※2 金属製設備
	MP-89	危険物※1	—	ウラン濃縮脱硝室	A222	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 熱媒油 ※2 金属製設備
	MP-90	危険物※1	—	ウラン濃縮脱硝室	A322	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 熱媒油 ※2 金属製設備
ウラン脱硝施設	DN-03	仕掛品(置場)※1	—	UNH受入室	A015	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 休止措置中 ※2 金属製容器	
	DN-04	仕掛品(置場)※1	—	廃液貯蔵室	A011	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 休止措置中 ※2 金属製容器	
	DN-05	少量未満危険物※1	—	廃液貯蔵室	A011	有り	無し※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 熱媒油(KSKオイル) ※2 ポリ容器	
	DN-06	仕掛品(置場)※1	—	ユーティリティ室	G021	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 休止措置中 ※2 金属製容器

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
ウラン脱硝施設	DN-07	仕掛品(保管場所)	—	エアロック	A120	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	DN-08	仕掛品(保管場所)	—	UO3抜入室	A111	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 不燃シート養生
	DN-09	仕掛品(置場)※1	—	UO3抜入室	A111	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 休止措置中 ※2 金属製容器
	DN-10	仕掛品(置場)	—	濃縮脱硝室	A211	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	DN-11	少量未満危険物※1	貯蔵タンク(264V404)	濃縮脱硝室	A211	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 熱媒油(KSKオイル) ※2 金属製設備
	DN-12	仕掛品(置場)	—	分析室	A215	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	DN-13	仕掛品(置場)	—	更衣室	A216	有り	有り※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器 ※2 衣服
	DN-14	少量未満危険物※1	—	放射線管理室	G221	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油 ※2 金属製容器
	DN-15	仕掛品(置場)	—	オフガス処理室	A311	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
プルトニウム転換技術開発施設	PCDF-02	仕掛品(置場)	—	受入室	A027	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-03	少量未満危険物※1	—	廊下	A022	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 シンナー等 ※2 金属製容器
	PCDF-04	少量未満危険物※1	—	サービスエリア	A026	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 エチルアルコール等 ※2 金属製容器
	PCDF-06	仕掛品(置場)	—	充てん室	A024	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-07	仕掛品(置場)	—	廃水タンク室	A023	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-08	仕掛品(置場)	—	廃液二次処理室	A029	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-09	少量未満危険物※1	—	廃液二次処理室	A029	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 エチルアルコール ※2 金属製容器
	PCDF-10	少量未満危険物※1	—	ユーティリティ室	W002	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 塗料等 ※2 金属製容器
	PCDF-11	仕掛品(置場)	—	液移送室	A127	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-12	仕掛品(置場)	—	基礎実験室	A128	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-13	少量未満危険物※1	—	基礎実験室	A128	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 オイル等 ※2 金属製容器
	PCDF-14	仕掛品(置場)(A126側)	—	主工程室	A126	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-15	仕掛品(置場)(A125側)	—	主工程室	A126	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-16	少量未満危険物※1	—	基礎実験室	A128	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 エチルアルコール等 ※2 金属製容器
PCDF-17	仕掛品(置場)	—	廃液一次処理室	A129	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
プルトニウム転換技術開発施設	PCDF-19	仕掛品(保管場所)	—	固体廃棄物置場	A123	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-21	仕掛品(置場)	—	機器分析室	A227	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-22	少量未満危険物※1	—	機器分析室	A227	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 エチルアルコール等 ※2 金属製容器
	PCDF-23	仕掛品(置場)	—	廃気一次処理室	A225	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-24	仕掛品(置場)	—	工程分析室	A230	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-25	少量未満危険物	—	工程分析室	A230	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-26	仕掛品(置場)	—	廃棄二次処理室	A231	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-27	仕掛品(保管場所)	—	機器調整室	A223	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-28	仕掛品(保管場所)	—	排気室	A323	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚(不燃シート養生)
	PCDF-29	仕掛品(置場)	—	排気室	A323	有り	有り※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器 ※2 少量未満危険物
	PCDF-30	少量未満危険物	—	排気室	A323	有り	有り※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器 ※2 仕掛品(置場)
	PCDF-31	仕掛品(置場)	—	真空ポンプ室	A324	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-32	少量未満危険物	—	給気室	G314	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	PCDF-33	仕掛品(置場) (北側)	—	放射線管理室	A423	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
PCDF-34	仕掛品(置場) (南側)	—	放射線管理室	A423	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
クリプトン回収技術開発施設	Kr-03	仕掛品(置場)	—	固定化試験操作室	A009B	有り	有り※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器 ※2 資材
	Kr-04	仕掛品(置場)	—	保守区域	A151	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	Kr-05	仕掛品(置場)	—	安全管理分室 (アンバー)	A202	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	Kr-06	仕掛品(置場)	—	排気室	A301	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	Kr-07	少量未満危険物※1	—	入気室	A302	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 塗料等 ※2 金属製容器
ウラン貯蔵所	UO3-02	仕掛品(置場)	—	貯蔵室	—	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製容器
	UO3-02	仕掛品(保管場所)	—	通路	—	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
第二ウラン貯蔵所	2UO3-02	仕掛品(置場)	—	トラックヤード	A101	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
第三ウラン貯蔵所	3UO3-02	仕掛品(保管場所)	—	入出庫室	A112	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考	
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他		
高放射性固体廃棄物貯蔵庫	HASWS-11	仕掛品(置場)	—	階段室	A133	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製容器	
	HASWS-12	仕掛品(保管場所)	—	20トンクレーン室	A134	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製容器	
	HASWS-13	少量未満危険物※1	—	倉庫	A230	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 オイル等 ※2 金属製容器	
	HASWS-14	仕掛品(置場)	—	クレーン室	A333	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製容器	
第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設	2HASWS-04	仕掛品(置場) (A103側)	—	クレーンホール	A102	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	2HASWS-05	仕掛品(置場) (W115側)	—	クレーンホール	A102	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	2HASWS-06	仕掛品(置場)	—	安全管理分室	A105	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	2HASWS-07	仕掛品(置場)	—	モニタ室	A106	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	2HASWS-08	仕掛品(置場)	—	モニタ室	G110	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	2HASWS-09	仕掛品(保管場所)	—	クレーンホール	A102	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	2HASWS-10	少量未満危険物※1	—	給気機械室	W201	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 オイル等 ※2 金属製容器
2HASWS-11	少量未満危険物※1	—	点検通路	A301	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油等 ※2 金属製容器	
アスファルト固化体貯蔵施設	AS1-03	少量未満危険物※1	—	階段室	A020	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油等 ※2 金属製棚及び不燃シート養生	
	AS1-06	少量未満危険物※1	—	トラックエアロック	W121	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油等 ※2 金属製棚及び不燃シート養生	
	AS1-07	仕掛品(保管場所)	—	保守区域	A119	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	AS1-08	仕掛品(置場) (A118側)	—	更衣室	A117	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	AS1-09	仕掛品(置場) (A119側)	—	更衣室	A117	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	AS1-10	仕掛品(置場)	—	更衣室	G115	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
AS1-11	仕掛品(置場)	—	排気室	A323	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
第二アスファルト固化体貯蔵施設	AS2-02	少量未満危険物※1	—	ユーティリティ室	G016	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 オイル ※2 金属製棚	
	AS2-03	少量未満危険物※1	—	予備実験室	G012	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑剤等 ※2 金属製容器	
	AS2-04	仕掛品(置場)	—	更衣室	G111	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	AS2-05	仕掛品(置場)	—	安全管理分室	G112	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
第二アスファルト固化体貯蔵施設	AS2-06	仕掛品(置場)	—	更衣室	A130	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	AS2-07	仕掛品(保管場所)	—	階段室	A040	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	AS2-08	少量未満危険物※1	—	保守室	A134	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑剤等 ※2 金属製棚
	AS2-09	少量未満危険物※1	—	トラックエアロック	W100	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑剤等 ※2 金属製棚及び不燃シート養生
	AS2-12	少量未満危険物※1	—	保守室	A232	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑剤等 ※2 金属製棚及び不燃シート養生
第一低放射性固体廃棄物貯蔵場	1LASWS-03	危険物※1	—	エレベータ機械室	W105	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 作動油 ※2 金属製設備
	1LASWS-08	仕掛品(置場)	—	貯蔵室	G501	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	1LASWS-09	仕掛品(保管場所)	—	貯蔵室	G501	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
第二低放射性固体廃棄物貯蔵場	2LASWS-02	仕掛品(置場)	—	受入室	G102	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製容器
	2LASWS-03	仕掛品(保管場所)	—	貯蔵室	A101	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	2LASWS-06	少量危険物	—	エレベータ機械室	W203	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製設備に保管
スラッジ貯蔵場	LW-04	仕掛品(保管場所)	—	保守区域	A430	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製容器
第二スラッジ貯蔵場	LW2-03	仕掛品(保管場所)	—	保守区域	A014	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 不燃シート養生
	LW2-04	少量未満危険物※1	—	トラックエアロック室	W103	有り	有り※2	有り※3	有り	有り	有り	無し	無し	※1 塗料等 ※2 金属製棚 ※3 資材
	LW2-05	仕掛品(置場)	—	エアロック室	A204	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	無し	無し	※1 金属製容器
廃溶媒貯蔵場	WS-05	仕掛品(保管場所)	—	保守区域	A026	有り	無し	無し	有り	有り	有り	有り	無し	
	WS-06	仕掛品(置場)	—	更衣室	A222	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
低放射性濃縮廃液貯蔵施設	LWSF-04	仕掛品(保管場所)	—	保守室	A021	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 不燃シート養生 ※2 連結散水設備
	LWSF-05	仕掛品(置場)	—	保守室	A021	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 金属製容器 ※2 連結散水設備
	LWSF-06	仕掛品(置場)	—	保守室	A011	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 金属製容器 ※2 連結散水設備
	LWSF-07	仕掛品(置場)	—	更衣室	A103	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	LWSF-08	仕掛品(置場)	—	更衣室	G111	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	LWSF-09	仕掛品(置場)	—	槽類換気室	A202	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
廃棄物処理場	AAF-15	仕掛品(置場)	—	廃棄物処理場制御室	G101	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	AAF-16	仕掛品(置場)	—	保守区域	G180	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	AAF-17	仕掛品(置場)	—	安全管理分室	A104	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	AAF-18	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物	—	低放射性固体廃棄物カートン保管室	A142	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器及び不燃シート養生
	AAF-19	仕掛品(置場)	—	低放射性固体廃棄物受入処理室	A143	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 金属製容器 ※2 水噴霧消火設備
	AAF-20	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物(A191側)	—	低放射性固体廃棄物受入処理室	A143	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 金属製容器及び不燃シート養生 ※2 水噴霧消火設備
	AAF-21	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物(A141側)	—	低放射性固体廃棄物受入処理室	A143	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 金属製容器及び不燃シート養生 ※2 水噴霧消火設備
	AAF-22	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物(A141-A144間)	—	低放射性固体廃棄物受入処理室	A143	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 金属製容器及び不燃シート養生 ※2 水噴霧消火設備
	AAF-23	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物(A144側)	—	低放射性固体廃棄物受入処理室	A143	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 金属製容器及び不燃シート養生 ※2 水噴霧消火設備
	AAF-24	仕掛品(置場)	—	保守区域	A191	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	AAF-25	仕掛品(置場)	—	保守区域	A191	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器及び不燃シート養生
	AAF-27	少量未満危険物※1	—	低放射性固体廃棄物カートン保管室	A142	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 塗料等 ※2 金属製容器
	AAF-28	仕掛品(置場)	—	保守区域	G280	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	AAF-29	仕掛品(置場)	—	安全管理分室	A204	有り	有り※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器 ※2 カバーオール等
	AAF-30	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物	—	予備室	A241	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器及び不燃シート養生
	AAF-31	少量未満危険物※1	—	試薬調整室	G401	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 染色浸透探傷剤等 ※2 金属製容器
	AAF-32	仕掛品(置場)	—	安全管理分室	A404	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
AAF-33	仕掛品(置場)	—	保守及びサンプリング区域	A405	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
第二低放射性廃液蒸発処理施設	E-02	仕掛品(置場)	—	凝縮器室	A-2	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
第三低放射性廃液蒸発処理施設	Z-11	少量未満危険物※1	—	中和処理室	A004	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 オイル等 ※2 金属製棚
	Z-12	仕掛品(置場)	—	バルブギャラリー	A013	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器



表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
第三低放射性廃液蒸発処理施設	Z-13	仕掛品(置場)	—	熱交換器室	G102	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	Z-14	仕掛品(保管場所)	—	保守区域	G111	有り	無し	無し	有り	有り	有り	有り	無し	
	Z-15	仕掛品(置場)	—	連絡通路	A108	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	Z-17	仕掛品(置場)	—	第2安全管理室	G204	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	Z-18	仕掛品(置場)	—	制御室	G321	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
放出廃液油分除去施設	C-10	少量未満危険物※1	—	配管分岐室	A011	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油等 ※2 金属製容器
	C-11	仕掛品(置場)	—	更衣室	A109	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	C-12	仕掛品(置場)	—	プロセスエリア	A110	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	C-13	仕掛品(保管場所)	—	エアロック	A112	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	C-14	仕掛品(置場) (西側)	—	分析室	G205	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	C-15	仕掛品(置場) (東側)	—	分析室	G205	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
廃溶媒処理技術開発施設	ST-07	少量危険物※1	希釈剤中間受槽 (328V25)	希釈剤中間受槽室	A012	有り	有り※2	無し	有り※3	有り	有り	有り	有り※4	※1 ドデカン ※2 金属製貯槽 ※3 照明等(防爆仕様) ※4 炭酸ガス消火設備
	ST-08	危険物※1	希釈剤貯槽 (328V30)	希釈剤貯槽室	A013	有り	有り※2	無し	有り※3	有り	有り	有り	有り※4	※1 ドデカン ※2 金属製貯槽 ※3 照明等(防爆仕様) ※4 炭酸ガス消火設備
	ST-09	仕掛品(置場)	—	保守区域	A010	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	ST-10	仕掛品(置場)	—	保守区域	A110	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	ST-11	仕掛品(保管場所)	—	保守区域	A110	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	ST-12	仕掛品(置場)	—	安全管理分室	A214	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	ST-13	少量未満危険物※1	—	保守区域	G102	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油等 ※2 金属製容器
	ST-14	仕掛品(置場)	—	制御室	G201	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	ST-15	指定可燃物※1	エポキシ樹脂貯槽 (328V68)	試薬調整室	G210	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 エポキシ樹脂 ※2 金属製設備
ST-16	少量未満危険物※1	硬化剤貯槽 (328V69)	試薬調整室	G210	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 硬化剤 ※2 金属製設備	

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考	
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他		
焼却施設	IF-02	仕掛品(置場)	—	焼却灰取出室	A003	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 金属製容器 ※2 水噴霧消火設備	
	IF-04	仕掛品(置場)	—	オフガス処理室	A005	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り※2	※1 金属製容器 ※2 水噴霧消火設備	
	IF-07	仕掛品(置場)	—	予備室	A102	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	IF-09	少量未満危険物※1	—	カートン投入室	A305	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 アルコール等 ※2 金属製容器	
	IF-10	仕掛品(置場)	—	カートン投入室	A305	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	IF-11	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物(A303側)	—	カートン投入室	A305	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生	
	IF-12	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物(A309側)	—	カートン投入室	A305	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生	
	IF-13	仕掛品(置場)	—	更衣室	A302	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	IF-15	仕掛品(保管場所)又は低放射性固体廃棄物	—	機材室	A309	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	IF-16	少量未満危険物※1	—	冷却用送風機室	A403	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 塗料等 ※2 金属製容器
IF-17	仕掛品(置場)	—	排風機室	A405	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
アスファルト固化処理施設	ASP-03	指定可燃物※1	アスファルト貯槽(A21V45)	アスファルト貯蔵室	G018	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り※3	※1 アスファルト原料 ※2 金属製設備 ※3 水噴霧消火設備	
	ASP-04	仕掛品(保管場所)	—	薬品貯蔵室	G113	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	ASP-05	仕掛品(置場)	—	更衣室	A236	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	ASP-06	少量未満危険物※1	—	エアロック	A314	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油等 ※2 金属製容器
分析所	CB-04	少量未満危険物※1	—	階段	A020	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 ネオゴーゼ等 ※2 金属製棚
	CB-05	仕掛品(保管場所)	—	保守区域	A021	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	CB-06	仕掛品(置場)	—	排風機及びフィルタ室	A023	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-07	少量未満危険物※1	—	試験室の地下	W040	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 オイル等 ※2 金属製容器
	CB-08	少量未満危険物※1	—	入気室	W006	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 オイル等 ※2 金属製容器
	CB-09	仕掛品(置場)(北側)	—	高放射性分析室	G104	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他	
分析所	CB-10	仕掛品(置場) (南側)	—	高放射性分析室	G104	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-11	仕掛品(置場) (東側)	—	高放射性分析室	G105	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-12	仕掛品(置場) (西側)	—	高放射性分析室	G105	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-13	仕掛品(置場)	—	中放射性分析室	G107	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-14	仕掛品(置場)	—	中放射性分析室	G108	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-15	仕掛品(置場) (東側)	—	化学準備室	G117	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-16	仕掛品(置場) (西側)	—	化学準備室	G117	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-17	少量未満危険物※1	—	化学準備室	G117	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 メチルアルコール等 ※2 金属製容器
	CB-19	仕掛品(置場)	—	低放射性分析室	G116	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-25	仕掛品(置場)	—	低放射性分析室	G115	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-26	仕掛品(置場) (東側)	—	特殊分析室	G123	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-27	仕掛品(置場) (西側)	—	特殊分析室	G123	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-28	少量未満危険物※1	—	特殊分析室	G123	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 ビリジン ※2 金属製容器
	CB-32	仕掛品(置場) (東側)	—	機器分析準備室	G124	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-33	仕掛品(置場) (東側)	—	機器分析準備室	G124	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-34	仕掛品(置場)	—	蛍光X線分析室	G125	有り	有り※1	有り※2	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器 ※2 資材
	CB-35	仕掛品(置場)	—	質量分析室	G129	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-37	仕掛品(保管場所) (北側)	—	貯蔵室	G120	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	CB-38	仕掛品(保管場所) (南側)	—	貯蔵室	G120	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生
	CB-39	少量未満危険物※1	—	貯蔵室	G120	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 酢酸エチル等 ※2 金属製容器
CB-40	仕掛品(保管場所)	—	プルトニウム精製室	G142	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
CB-41	仕掛品(置場)	—	プルトニウム精製室	G142	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	

表5 セル外に設置する廃棄物の仕掛品及び危険物等に対する火災防護対策の類型化

施設	仕掛品及び危険物等			防護対象等を設置している部屋等		人の立ち入り	火災防止対策の有無	周囲の可燃物の有無	電気機器等の発火源	火災感知器の有無	消火設備			備考	
	No.	対象	機器名称・番号	部屋名	部屋番号						消火器	屋内消火栓	その他		
分析所	CB-42	少量未満危険物※1	—	プルトニウム精製室	G142	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 潤滑油等 ※2 金属製容器	
	CB-43	仕掛品(置場)	—	試験セル操作区域	G144	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	CB-44	仕掛品(保管場所)	—	除染室	A114	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生	
	CB-45	仕掛品(置場)	—	除染室	A114	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	CB-46	少量未満危険物※1	—	除染室	A114	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 アセトン等 ※2 金属製容器	
	CB-47	仕掛品(保管場所)	—	試験セル保守区域	A146	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製棚及び不燃シート養生	
	CB-48	仕掛品(置場)	—	試験セル保守区域	A146	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器	
	CB-49	仕掛品(置場)	—	保健・物理モニタ室	G222	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-50	仕掛品(置場)	—	第1洗濯室	G313	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-51	仕掛品(保管場所)	—	裁縫室(倉庫)	G315	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 不燃シート養生
	CB-52	少量未満危険物※1	—	廊下	G316	有り	有り※2	無し	有り	有り※3	有り	有り	無し	※1 エチレンアルコール等 ※2 金属製容器 ※3 隣接する部屋に感知器あり	
	CB-53	仕掛品(置場)	—	事務室	G311	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-54	仕掛品(置場)	—	安全管理分室	G322	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-55	仕掛品(置場)	—	除染室	A323	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 金属製容器
	CB-56	少量未満危険物※1	—	除染室	A323	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 モノエタノールアミン等 ※2 金属製容器
	CB-57	仕掛品(保管場所)	—	第2洗濯室	A324	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 不燃シート養生
	CB-58	仕掛品(置場)	—	第2洗濯室	A324	有り	有り※1	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 不燃シート養生
CB-59	少量未満危険物※1	—	ユーティリティ室	W004	有り	有り※2	無し	有り	有り	有り	有り	有り	無し	※1 シリンダー油 ※2 金属製設備	

「セル」とは高い放射線量の放射性物質を扱うため、放射線の遮蔽と放射性物質の閉じ込めの観点から特別な構造を持たせた部屋であり、鉄筋コンクリート造建家の内部に設置している。

- |   |  |
|---|--|
| <p>取り扱う放射性物質からの放射線の遮蔽のため、十分な厚さ(約30 cm～約160 cm)をもつ鉄筋コンクリート壁・床・天井で囲まれている。</p>   | <p>施設供用期間中は人が入れないため、人手による保守や交換が必要な設備を内部に配置しない設計。</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>セルの内壁は汚染の染み込みを防止するためのエポキシ等の塗装仕上げ、ステンレス鋼製ライニングあるいはコンクリート打ち放し。</li> <li>溶液を扱うセルでは、貯槽等からの溶液の漏洩を想定して、漏洩液を集液・回収するためのステンレス鋼製ドリフトレイ、漏洩検知器、漏洩液回収設備を備える。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>セル内に設置する溶液移送装置には電動ポンプではなく、エアリフトやスチームジェット、重力移送(サイフォン)のように機械的・電気的な駆動部を持たないものを使用している。</li> <li>計装にも電子・電気装置は用いず、圧縮空気を用いた圧力計測から液位や圧力を測定する。<br/>ただし、温度測定には熱電対を用いるが熱電対・信号ケーブルはステンレス製シース管に密封しセル内や貯槽内に露出させない。</li> <li>プラントの運転操作に用いるバルブ類も基本的にセル外に配置して操作。(セル内に配置する場合も操作や保守はセル外から行える構造としている。)</li> <li>人が入ることがないため、セル内には照明機器は設置していない。</li> </ul> |
| <p>放射性物質の閉じ込めの観点から、貯槽内の換気のため貯槽の気相部は槽類換気系設備によって常時換気されている。<br/>セルも同様の観点から、セル・建家換気系設備によって常時換気されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セル・建家換気系設備、槽類換気系設備により、貯槽・セル・建家内の圧力を常時負圧に保ち、圧力が建家、セル、貯槽の順に気圧が低くなるように管理している。</li> </ul> | <p>高い放射線環境下で人が立ち入れないこと及び腐食性溶液(硝酸)を用いることから、貯槽・配管・ダクト・サポート等のセル内設置機器は保守が不要なようにステンレス鋼等の耐食性金属材料を使用。</p>   |

これらの特徴を火災の観点から判断すると、人が通常入ることはなく、取り扱う放射性物質は不燃性(水溶液)で、設置された機器類・建家構造材・内装も不燃性材料であり、ケーブルを含む電気設備もセル内には存在しない。低い放射能濃度の水溶液からは放射線分解水素の発生も微小である。したがって、セル内には可燃物が無い状態である。

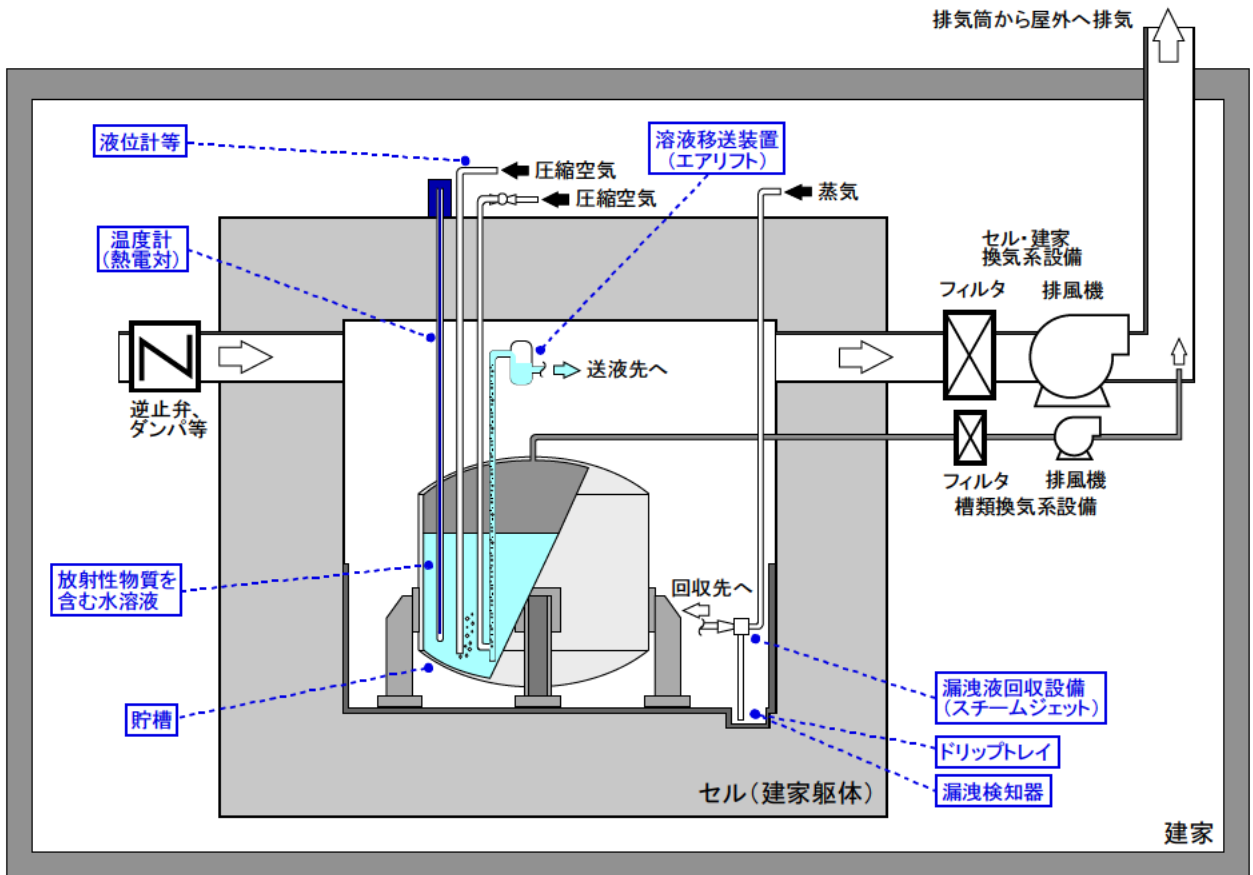


図2 セルの基本的な特徴

放射性物質を含む可燃物である有機溶媒を取り扱うセルにおいては、火災の発生防止、火災の感知、火災の消火のための設備を特別に設けている。

- 再処理施設では使用済燃料の溶解液(硝酸水溶液)中からU・Puを抽出(分離回収)するために、有機溶媒(30%TBP+n-ドデカンの混合溶媒)を使用することから、溶媒を扱うセルには溶媒火災対策を講じる設計。
- ・TBPの引火点は146℃、n-ドデカンの引火点は74℃であることから、溶媒を用いるプロセスの温度は60℃以下に制限する。
  - ・溶媒を送液するために使用しているポンプ等の電気機器は防爆構造としている。
  - ・貯槽等は接地して着火源となる静電気の発生を防止している。
  - ・貯槽内部での火災発生を検知し、炭酸ガス消火設備を自動起動する設備を設けている。
  - ・貯槽からセル内に溶媒が漏れいしたことを検知する設備を設けるとともに、漏洩した溶媒を回収する設備を設けている。
  - ・セル内での火災発生を検知するための警報装置を設けている。
  - ・セル内での火災の消火、貯槽内部での火災発生時の貯槽冷却のためにセル内に水噴霧消火設備を設けている。

施設供用期間中は人が入れないため、人手による保守や交換が必要な設備を内部に配置しない設計。

高い放射線環境下及び腐食性溶液(硝酸)を用いることから、貯槽・配管・ダクト・サポート等のセル内設置機器はステンレス鋼等の耐食性金属材料を使用。

放射性物質の閉じ込めの観点から、貯槽内の換気のため貯槽の気相部は槽類換気系設備によって常時換気されている。  
セルも同様の観点から、セル・建家換気系設備によって常時換気されている。

- ・貯槽内を常時換気するため、引火性・爆発性のガスの滞留を防止できる。
- ・セル内部で火災が発生した時にはセル換気系の入気をダンパ等で遮断することで窒息消火を行う。

これらの特徴を火災の観点から判断すると、人が通常入ることはなく、設置された機器類・建家構造材・内装も不燃性材料であり、取り扱う放射性物質が可燃性(有機溶媒)であることから、有機溶媒の火災防止、火災検知及び消火の対策を講じている。なお、溶媒の移送に電動ポンプを用いる場合には設置場所がセルの内外に関わらず※防爆構造のものを採用している。

※一部でセル内に電動のポンプ・攪拌機を配置する場所があるが、その場合はセル外からポンプを取外・取付できるような特別な構造としている。

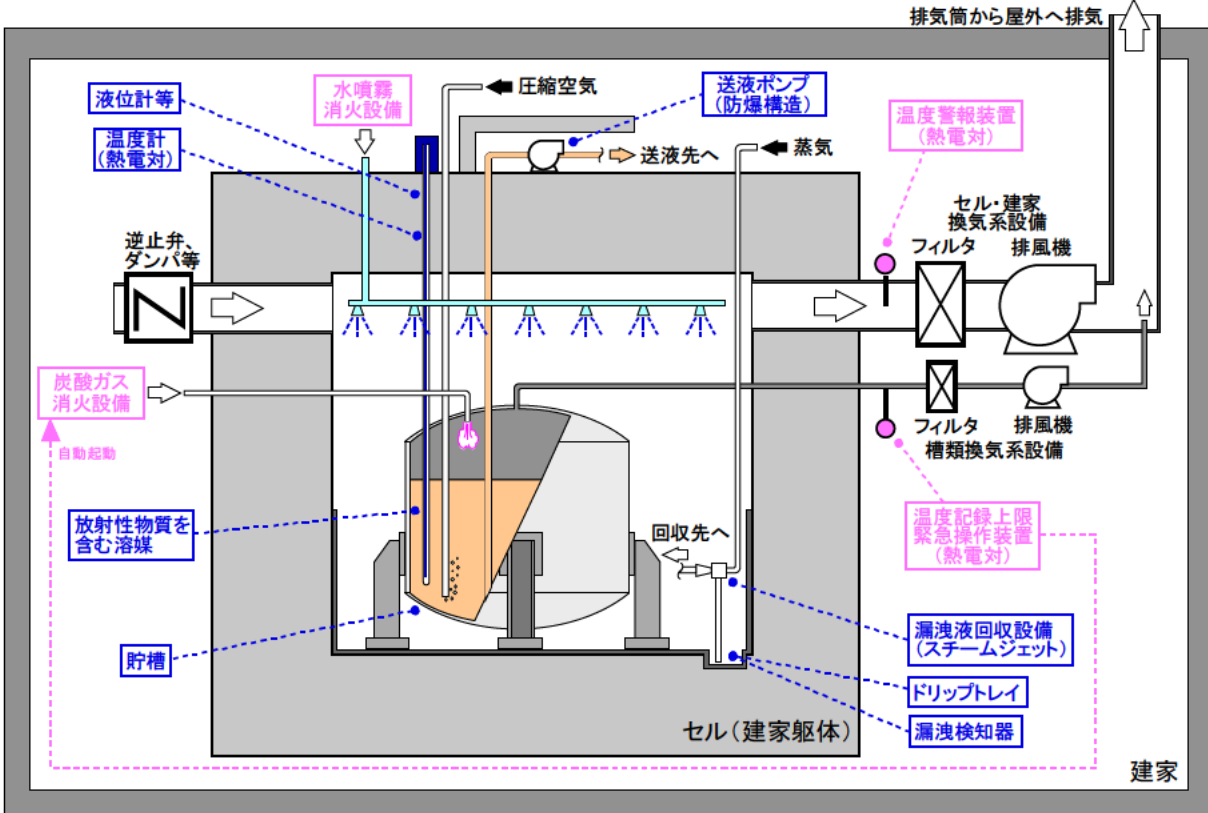


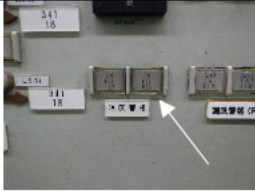
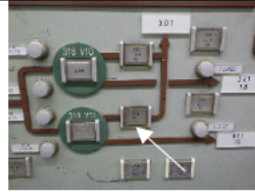


図3 可燃性の溶媒を扱うセルの特徴

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況		防護対象	・廃溶媒・廃希釈剤貯槽 (318V11) 金属製貯槽 密封構造
		設置場所 の状況	・地下1階 廃溶媒貯蔵セル (R023) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し
防護対象の 周囲の状況	 廃溶媒貯蔵セル (A090 閉止板) AAF-11-写 02	人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・槽類換気系配管に温度記録上限緊急操作装置 (318TRP+11) 及びセル換気系ダクトに温度警報装置 (318FDT023) を設置 廃棄物処理場 (AAF) 廃棄物処理場制御室 (G101) の制御盤にて感知可能。
		消火設備	・水噴霧消火設備 ・炭酸ガス消火設備

設置場所の 火災感知の 方法の状況	 熱電対	 熱電対		
	温度警報装置 (熱電対：A090) AAF-11-写 03①	温度記録上限緊急操作 装置(熱電対：A090) AAF-11-写 03②	温度警報装置制御盤 (G101) AAF-11-写 04①	温度上限緊急操作 装置制御盤 (G101) AAF-11-写 04①

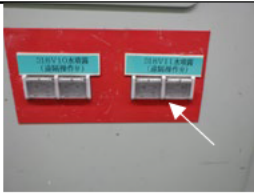

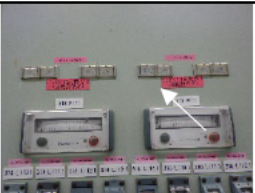

設置場所 の 消火方法 の状況				
	水噴霧消火設備 (操作盤：G101) AAF-11-写 07①	水噴霧消火設備 (制御弁：G180) AAF-11-写 07②	炭酸ガス消火設備 (操作盤：G101) AAF-11-写 07③	炭酸ガス消火設備 (制御弁：G180) AAF-11-写 07④

図4 溶媒等の可燃物を取り扱うセル内の防護対象の例

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 UNH 貯槽 (263V32) DN-01-写 01	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ UNH 貯槽 (263V32)</li> <li>金属製貯槽</li> <li>密封構造</li> </ul>	
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下 1 階 UNH 貯蔵室 (A012)</li> <li>天井：コンクリート (鋼板仕上げ)</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：SUS ライニング (ドリフトレイ)</li> <li>照明：有り</li> </ul>	
		人の立入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有り</li> </ul>	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無し</li> </ul>	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 DN-01-写 02①	火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上部付近に煙感知器有り</li> <li>ウラン脱硝施設 (DN) 制御室 (G213) に受信機、</li> <li>分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機及び</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信</li> <li>機において感知可能</li> </ul>	
		消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消火器：約 10 m</li> <li>・ 屋内消火栓：約 15 m</li> </ul>	
	 壁 DN-01-写 02②	 天井 DN-01-写 02③	 床 DN-01-写 02④	
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 DN-01-写 03	 受信機 (G213) DN-01-写 04		
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：A015) DN-01-写 05	 屋内消火栓 (G021) DN-01-写 06		

図 5 人が立ち入るため照明設備等の火災源のあるセル外の防護対象の例



火災防護上の特徴

<p>防護対象 の設置状況</p>	 <p>回収ドデカン貯槽 (342V21) IF-03-写 01</p>	<p>防護対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回収ドデカン貯槽 (342V21) 金属製貯槽 密封構造</li> </ul>				
<p>防護対象の 周囲の状況</p>	 <p>周囲 IF-03-写 02①</p>	<p>設置場所 の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下1階 オフガス処理室 (A005) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート (ステンレス仕上げ) 照明：有り</li> </ul> <p>人の立入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul> <p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul> <p>火災感知設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・槽類換気系配管に温度上限警報装置 (342TA+21.2) を設置し、上部付近に煙感知器有り。 焼却施設 (IF) 制御室 (G310) の受信機及び制御盤、分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機及び分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機において感知可能</li> </ul> <p>消火設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器 (ABC 消火器)：約 12 m</li> <li>・消火器 (車載式消火器)：約 3 m</li> <li>・屋内消火栓：約 15 m</li> <li>・水噴霧消火設備</li> <li>・炭酸ガス消火設備</li> </ul>				
	 <p>壁 IF-03-写 02②</p>	 <p>天井 IF-03-写 02③</p>	 <p>床 IF-03-写 02④</p>			
	<p>設置場所の 火災感知の 方法の状況</p>	 <p>煙感知器 IF-03-写 03①</p>	 <p>温度上限警報装置 (熱電対：A005) IF-03-写 03②</p>	 <p>煙感知器 (受信機：G310) IF-01-写 04</p>	 <p>温度上限警報装置 (制御盤：G310) IF-03-写 04</p>	
<p>設置場所の 消火方法 の状況</p>	 <p>消火器 (ABC 消火器： A005) IF-03-写 05①</p>	 <p>消火器 (車載 式消火器： A005) IF-03-写 05②</p>	 <p>屋内消火栓 (A002) IF-01-写 06</p>	 <p>水噴霧消火設備 (操作盤： A004) IF-02-写 07</p>	 <p>水噴霧消火設備 (制御弁： A005) IF-03-写 07①</p>	 <p>炭酸ガス消火 設備 (操作 盤：A005) IF-03-写 07②</p>

図6 溶媒等の可燃物を取り扱うセル外に設置された防護対象の例

「ライニング貯槽」とは建家の躯体（鉄筋コンクリート）内壁にステンレス製ライニングを設けて、その内部に直接、放射性物質を含む水溶液を貯蔵する、貯槽と建家の部屋が一体化した構造の貯槽。発生量が多いものの放射能濃度や酸濃度が比較的低い廃液の貯蔵に用いている。

取り扱う放射性物質からの放射線の遮蔽や溶液の圧力に耐えるため、十分な厚さ（約 40 cm～約120 cm）をもつ鉄筋コンクリート壁・床で囲まれている。

・内壁は汚染の染み込みを防止するためのエポキシ等の塗装仕上げ、ステンレス鋼製ライニングあるいはコンクリート打ち放し。

放射性物質の閉じ込めの観点から、貯槽内の換気のため貯槽の気相部は建家換気系設備によって常時換気されている。

施設供用期間中は人が入れないため、人手による保守や交換が必要な設備を内部に配置しない設計。

・内部の目視点検用にハッチが備えられているものもあるが、貯槽内部には照明器具等の電気機器は設置されていない。

人が立ち入れない構造であり、腐食性溶液（硝酸）を用いることから、ライニング貯槽内部に設置している装置は保守が不要のように、ステンレス鋼等の耐食性金属材料を使用。

これらの特徴を火災の観点から判断すると、人が通常入ることはなく、取り扱う放射性物質は不燃性（水溶液）で、貯槽構造材は不燃性材料であり、ケーブルを含む電気設備もセル内には存在しないため、ライニング貯槽内には可燃物が無い状態である。

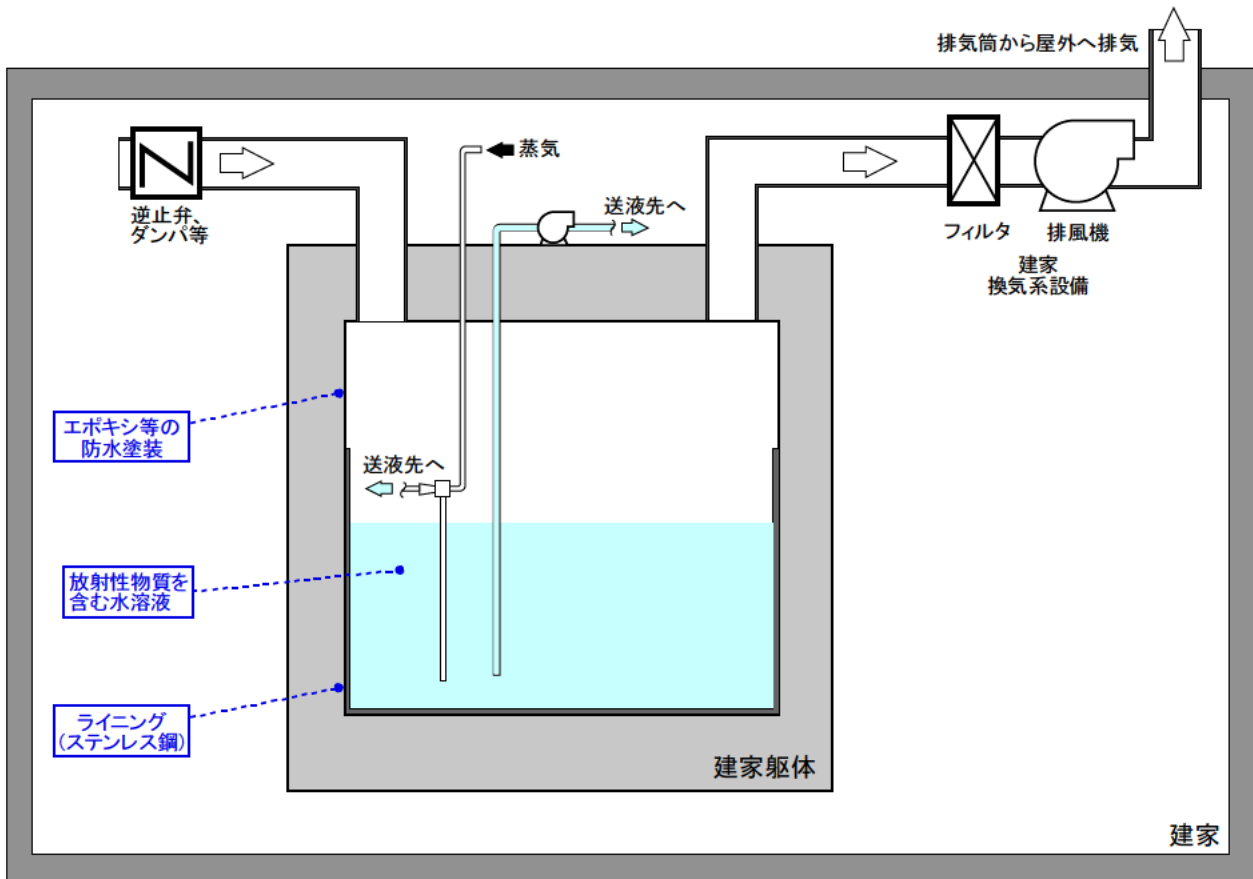


図7 ライニング貯槽の基本的な特徴


		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃液受入貯槽 (350V10)</li> <li>ライニング貯槽</li> <li>密封構造</li> </ul>
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下1階～地下中1階 廃液受入貯槽 (A001)</li> <li>天井：コンクリート (ポリクリート仕上げ)</li> <li>壁：コンクリート (ステンレス仕上げ (一部ポリクリート仕上げ))</li> <li>床：コンクリート (ステンレス仕上げ)</li> <li>照明：無し</li> </ul>
防護対象の 周囲の状況		人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
	 <p>壁 (A010 側) C-01-写 02</p>		
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
設置場所の 消火方法 の状況			

図8 立入ができない部屋 (ライニング貯槽) の防護対象の例

火災防護上の特徴

防護対象の設置状況	 <p>仕掛品 (置場) (A045 側) MP-32-写 01</p>	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品 (置場)</li> <li>・金属製容器</li> <li>・非密封構造</li> </ul>	
		設置場所の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上 1 階</li> <li>・濃縮ウラン溶解槽装荷セル操作区域 (G146)</li> <li>・天井 : コンクリート</li> <li>・壁 : コンクリート</li> <li>・床 : コンクリート</li> <li>・照明 : 有り</li> </ul>	
防護対象の周囲の状況	 <p>周囲 MP-32-写 02①</p>	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に熱感知器有り</li> <li>・分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>	
		消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器 : 約 2 m</li> <li>・屋内消火栓 : 約 2 m</li> </ul>	
	 <p>壁 MP-32-写 02②</p>	 <p>天井 MP-32-写 02③</p>	 <p>床 MP-32-写 02④</p>	
設置場所の火災感知の方法の状況	 <p>熱感知器 MP-32-写 03</p>	 <p>受信機 (G549) MP-01-写 04</p>		
設置場所の消火方法の状況	 <p>消火器 (ABC 消火器 : G146) MP-32-写 05</p>	 <p>屋内消火栓 (G146) MP-31-写 06</p>		

図 9 セル外の火災源となりえるもの (仕掛品) における防護対象の例

火災防護上の特徴




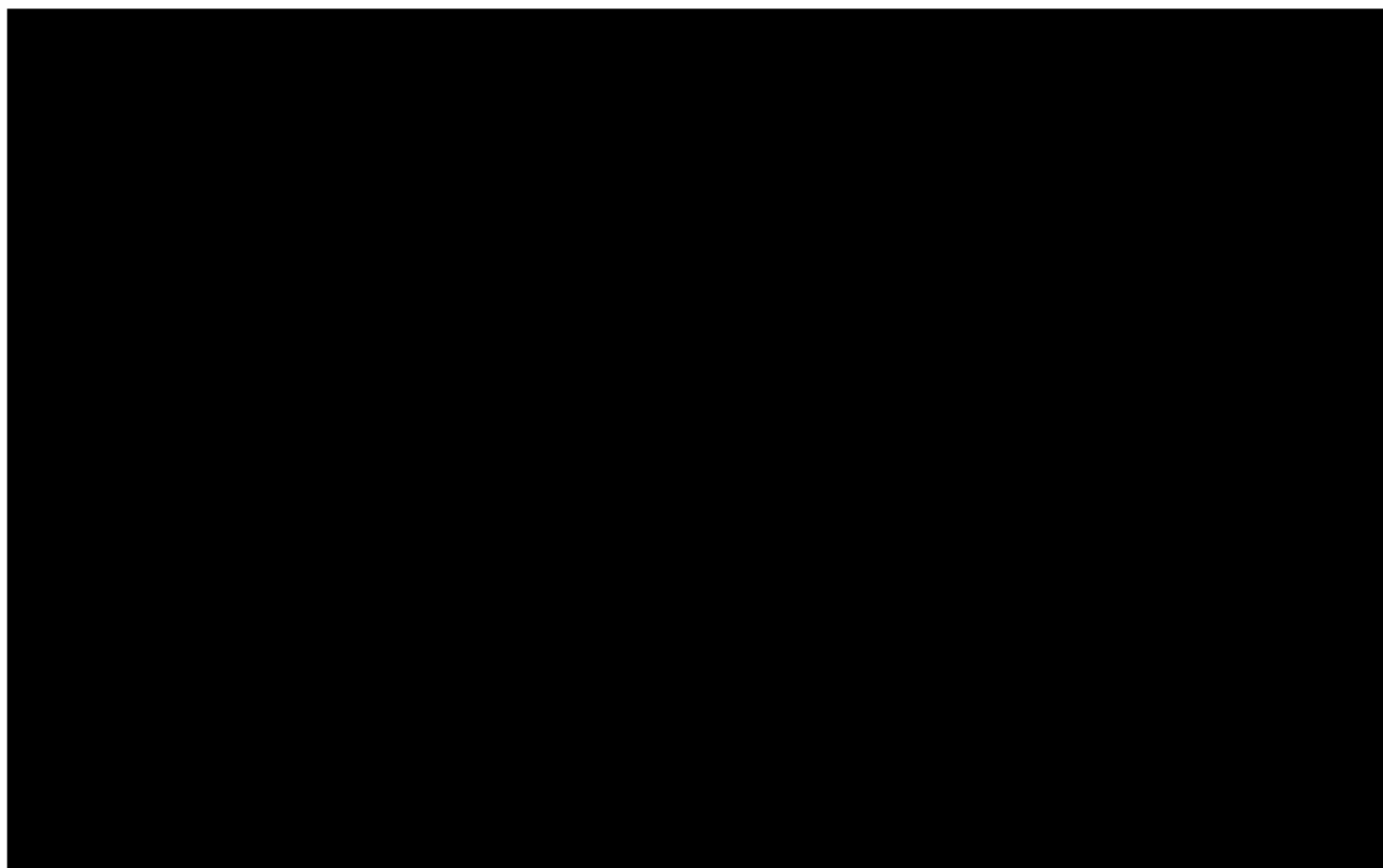
防護対象の設置状況	 少量未満危険物 MP-54-写 01	防護対象	・少量未満危険物（ギヤー油等） 金属製棚（不燃シート養生） 非密封構造	
		設置場所の状況	・地上3階 倉庫（G3154） 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の周囲の状況	 周囲 MP-54-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に熱感知器有り 分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器：約 12 m ・屋内消火栓：約 24 m	
	 壁 MP-54-写 02②	 天井 MP-54-写 02③	 床 MP-54-写 02④	
	設置場所の火災感知の方法の状況	 熱感知器 MP-54-写 03	 受信機（G549） MP-01-写 04	
	設置場所の消火方法の状況	 消火器（ABC 消火器：G3154） MP-54-写 05	 屋内消火栓（G346） MP-54-写 06	

図 10 セル外の火災源となりえるもの（少量未満危険物）における防護対象の例



MP 地上1階

MP 地上3階











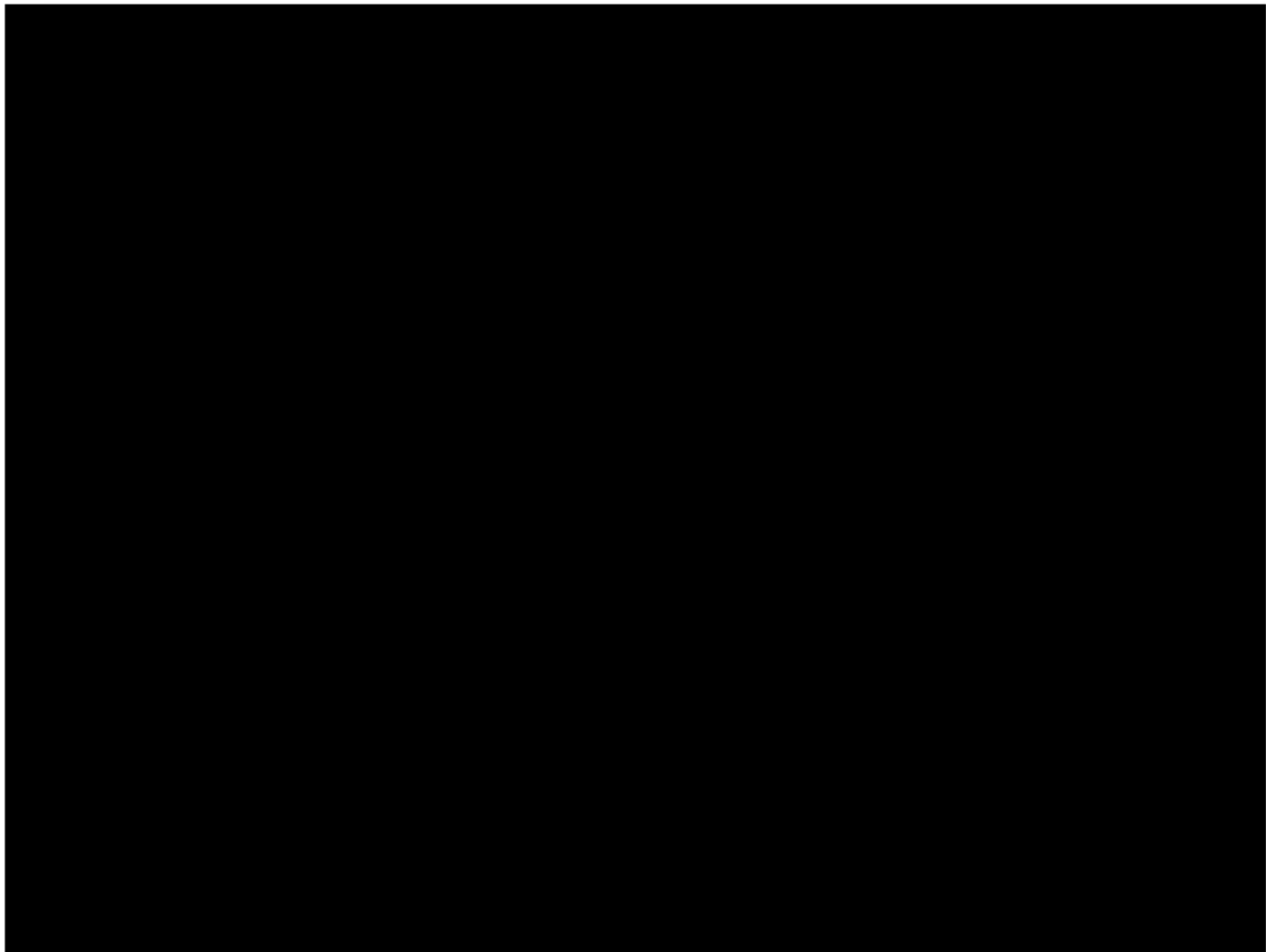
	管理区域
調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物
火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDT)
消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO2消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	遠隔送水設備送水口

図 11 分離精製工場(MP)クレーンホール(G1124)の仕掛品(置場:R0108)の移動又は撤去



















	管理区域
調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排用煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報 (FDT)
消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	遠給送水設備送水口

図 12 分析所(CB)地上 3 階 廊下(G316)の少量未満危険物の移動又は撤去

## 溶媒を取り扱うセル及び防護対象の火災感知方法、消火方法について

溶媒を貯蔵する防護対象がある施設はスラッジ貯蔵場、廃溶媒貯蔵場、廃棄物処理場及び廃溶媒処理技術開発施設の 4 施設であり、溶媒を貯蔵する防護対象の貯槽内で火災が発生した場合の火災感知方法、消火方法及び貯槽内の溶媒がセル内に漏えいし、火災が発生した場合の火災感知方法、消火方法について以下に示す。

また、補足図に溶媒を扱うセル及び防護対象の火災感知設備及び消火設備を示す。

## 【貯槽内で火災が発生した場合の火災感知方法、消火方法】

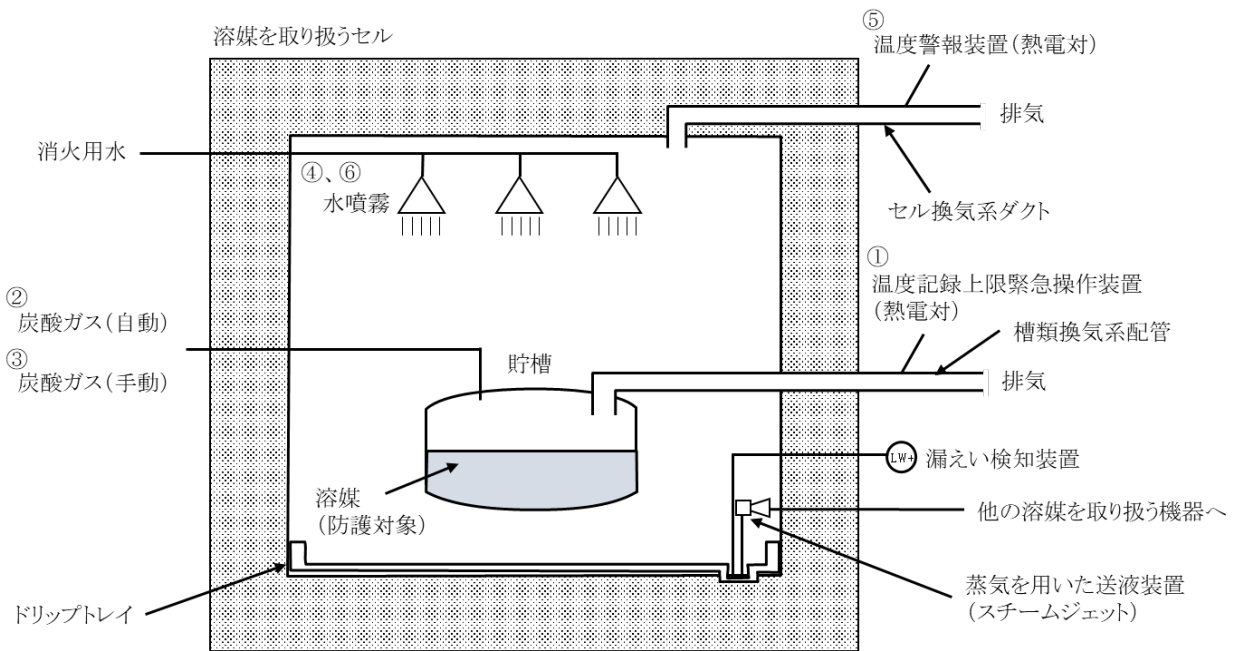
- ① 貯槽の槽類換気系配管に設置された温度記録上限緊急操作装置の熱電対が 50℃を検知すると従業員が常駐する制御室に設置された制御盤の警報が吹鳴する(従業員が常駐していない制御室に設置された制御盤の映像信号は従業員が常駐する制御室へ伝送している。)
- ② ①の検知により、炭酸ガス消火設備が自動起動し、貯槽内に炭酸ガスを供給する。
- ③ ②の炭酸ガスの供給後、温度記録上限緊急操作装置の熱電対の温度上昇が継続している場合は、従業員が制御室に設置された炭酸ガス消火設備を手動起動し、追加の炭酸ガスを供給する。
- ④ さらに火災が継続するなどし、貯槽内の温度が上昇する場合は、従業員が制御室に設置された水噴霧消火設備を手動起動し、溶媒を取り扱うセル内に消火用水を噴霧して貯槽温度を低下させる。

## 【貯槽内の溶媒がセル内に漏えいし、火災が発生した場合の火災感知方法、消火方法】

- ⑤ セル換気系ダクトに設置された温度警報装置の熱電対が 70℃を検知すると従業員が常駐する制御室に設置された制御盤の警報が吹鳴する(従業員が常駐していない制御室に設置された制御盤の映像信号は従業員が常駐する制御室へ伝送している。)
- ⑥ ⑤の検知により、従業員が制御室に設置された水噴霧消火設備を手動起動し、溶媒を取り扱うセル内に消火用水を噴霧する。

なお、漏えいした溶媒は、床に設置されているドリフトレイ(ステンレス鋼製)に集液され、漏えい検知装置(LW+)が検知すると、従業員が常駐する制御室に設置された制御盤の警報が吹鳴する(従業員が常駐していない制御室に設置された制御盤の映像信号は従業員が常駐する制御室へ伝送している。)。その後、ドリフトレイに回収された溶媒については蒸気を用いた送液装置(スチームジェット)を手動起動し、他の溶媒を取り扱う機器へ送液する。





補足図 溶媒を扱うセル及び防護対象の火災感知設備及び消火設備

プラントウォークダウン  
結果

## 目次

1. 分離精製工場(MP)
2. ウラン脱硝施設(DN)
3. プルトニウム転換技術開発施設(PCDF)
4. クリプトン回収技術開発施設(Kr)
5. ウラン貯蔵所(UO<sub>3</sub>)
6. 第二ウラン貯蔵所(2UO<sub>3</sub>)
7. 第三ウラン貯蔵所(3UO<sub>3</sub>)
8. 高放射性固体廃棄物貯蔵庫(HASWS)
9. 第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設(2HASWS)
10. アスファルト固化体貯蔵施設(AS1)
11. 第二アスファルト固化体貯蔵施設(AS2)
12. 第一低放射性固体廃棄物貯蔵場(1LASWS)
13. 第二低放射性固体廃棄物貯蔵場(2LASWS)
14. スラッジ貯蔵場(LW)
15. 第二スラッジ貯蔵場(LW2)
16. 廃溶媒貯蔵場(WS)
17. 低放射性濃縮廃液貯蔵施設(LWSF)
18. 廃棄物処理場(AAF)
19. 第二低放射性廃液蒸発処理施設(E)
20. 第三低放射性廃液蒸発処理施設(Z)
21. 放出廃液油分除去施設(C)
22. 廃溶媒処理技術開発施設(ST)
23. 焼却施設(IF)
24. アスファルト固化処理施設(ASP)
25. 分析所(CB)

## 1.分離精製工場(MP)

表 01 分離精製工場(MP)プラントウォークダウン結果まとめ (1/5)

No	階層	防護対象 <sup>※</sup>	防護対象の設置場所	防護対象の設置場所の状況		設置場所の火災感知の方法の状況		設置場所の消火方法の状況					備考	
				設置状況	周囲の状況	感知器 (基数)	受信機 (設置部屋)	最寄りの消火器 (部屋/距離 m)		最寄りの屋内消火栓 (部屋/距離 m)		その他の消火設備 (部屋/距離 m)		
01	B3F	仕掛品 (置場)	A0110	MP-01-写 01	MP-01-写 02	MP-01-写 03* (煙感知器:4基)	MP-01-写 04 (G549)	MP-01-写 05 (A0115)	約 12 m	MP-01-写 06 (A0114)	約 18 m	-	-	・吹抜け *B1Fに設置
02	B3F	仕掛品 (置場)	A0115	MP-02-写 01	MP-02-写 02	MP-02-写 03* (煙感知器:1基)	同上	同上	約 6 m	同上	約 12 m	-	-	・階段室 *B2Fに設置
03	B2F	仕掛品 (置場)	A0117	MP-03-写 01	MP-03-写 02	MP-03-写 03 (煙感知器:2基)	同上	MP-03-写 05 (A0117)	約 12 m	MP-03-写 06 (A0117)	約 1 m	-	-	
04	B2F	少量未満危険物	A0117	MP-04-写 01	MP-04-写 02	MP-04-写 03 (煙感知器:2基)	同上	同上	約 1 m	同上	約 12 m	-	-	・PT 剤等
05	B2F	仕掛品 (置場)	A046	MP-05-写 01	MP-05-写 02	MP-05-写 03* (煙感知器:2基)	同上	MP-05-写 05 (A046)	約 6 m	MP-05-写 06 (A046)	約 10 m	-	-	・休止措置中 ・吹抜け *B1Fに設置
06	B3F - B1F	使用済燃料	R0101、 R0107	MP-06-写 01	MP-06-写 02	-	-	-	-	-	-	-	-	・水中にて貯蔵
07	B1F - 2F	洗浄液受槽(242V13) 溶解槽溶液受槽 (243V10) 調整槽(251V10) 給液槽(251V11) 高放射性廃液中間貯槽 (252V13、V14)	R006	-	MP-07-写 02	-	-	-	-	-	-	-	-	・セル内機器
08	B1F	パルスフィルタ (243F16A)	R026	-	MP-08-写 02	-	-	-	-	-	-	-	-	・セル内機器
09	B1F	プルトニウム溶液受槽 (276V20)	R008	-	MP-09-写 02	MP-09-写 03 (温度警報装置: 276FDT008)	MP-09-写 04 (G549)	-	-	-	-	MP-09-写 07 (水噴霧消火設備 制御弁)	-	・セル内機器
10	B1F	プルトニウム製品貯槽 (267V13~V16)	R041	-	MP-10-写 02	-	-	-	-	-	-	-	-	・セル内機器
11	B1F	プルトニウム製品貯槽 (267V10~V12)	R023	-	MP-11-写 02	-	-	-	-	-	-	-	-	・セル内機器
12	B1F	希釈槽 (266V13)	R015	-	MP-12-写 02	MP-12-写 03 (温度警報装置: 265FDT015)	MP-09-写 04 (G549)	-	-	-	-	-	-	・セル内機器 ・入気ダンパ閉操 作による窒息消 火
13	B1F	仕掛品 (置場)	A042	MP-13-写 01	MP-13-写 02	MP-13-写 03 (煙感知器:2基)	MP-01-写 04 (G549)	MP-13-写 05 (A043)	約 18 m	MP-13-写 06 (A043)	約 18 m	-	-	

表 01 分離精製工場(MP)プラントウォークダウン結果まとめ (2/5)

No	階層	防護対象 <sup>※</sup>	防護対象の設置場所	防護対象の設置場所の状況		設置場所の火災感知の方法の状況		設置場所の消火方法の状況					備考	
				設置状況	周囲の状況	感知器 (基数)	受信機 (設置部屋)	最寄りの消火器 (部屋/距離 m)		最寄りの屋内消火栓 (部屋/距離 m)		その他の消火設備 (部屋/距離 m)		
14	B1F	仕掛品 (置場)	A043	MP-14-写 01	MP-14-写 02	MP-14-写 03 (煙感知器: 4 基)	MP-01-写 04 (G549)	MP-14-写 05 (A043)	約 6 m	MP-14-写 06 (A021)	約 6 m	-	-	
15	B1F	仕掛品 (置場)	A024	MP-15-写 01	MP-15-写 02	MP-15-写 03 (煙感知器: 1 基)	同上	MP-13-写 05 (A043)	約 15 m	MP-13-写 06 (A043)	約 15 m	-	-	・階段
16	B1F	中間貯槽 (263V10)	A022	MP-16-写 01	MP-16-写 02	MP-14-写 03 (煙感知器: 4 基)	同上	MP-14-写 05 (A043)	約 12 m	MP-14-写 06 (A021)	約 10 m	-	-	
17	B1F - 3F	濃縮液受槽 (273V50)	R020	-	MP-17-写 02	-	-	-	-	-	-	-	-	・セル内機器
18	B1F - 2F	高放射性廃液蒸発缶 (271E20)	R018	-	MP-18-写 02	-	-	-	-	-	-	-	-	・セル内機器
19	1F	少量未満危険物	W1120	MP-19-写 01	MP-19-写 02	MP-19-写 03 (熱感知器: 10 基)	MP-01-写 04 (G549)	MP-19-写 05 (W1120)	約 1 m	MP-19-写 06 (G1124)	約 24 m	-	-	・ギヤー油等
20	1F	少量未満危険物	G1124	MP-20-写 01	MP-20-写 02	MP-20-写 03 <sup>*</sup> (煙感知器: 12 基)	同上	MP-20-写 05 (G1124)	約 5 m	MP-20-写 06 (G1124)	約 5 m	-	-	・ギヤー油等 ・吹抜け *3F に設置
21	1F	仕掛品 (置場) (W1120 側)	G1124	MP-21-写 01	MP-21-写 02	MP-21-写 03 <sup>*</sup> (煙感知器: 12 基)	同上	同上	約 10 m	同上	約 5 m	-	-	・休止措置中 ・吹抜け *3F に設置
22	1F	仕掛品 (置場) (R0102 側)	G1124	MP-22-写 01	MP-22-写 02	MP-22-写 03 <sup>*</sup> (煙感知器: 12 基)	同上	同上	約 18 m	同上	約 18 m	-	-	・休止措置中 ・吹抜け *3F に設置
23	1F	仕掛品 (置場) (R0103-R0104 間)	G1124	MP-23-写 01	MP-23-写 02	MP-23-写 03 <sup>*</sup> (煙感知器: 12 基)	同上	MP-23-写 05 (G1124)	約 12 m	MP-23-写 06 (A156)	約 18 m	-	-	・吹抜け *3F に設置
24	1F	仕掛品 (置場) (R0103 側)	G1124	MP-24-写 01	MP-24-写 02	同上	同上	同上	約 12 m	同上	約 24 m	-	-	・吹抜け *3F に設置
25	1F	仕掛品 (置場) (R0104 側)	G1124	MP-25-写 01	MP-25-写 02	同上	同上	同上	約 12 m	同上	約 12 m	-	-	・吹抜け *3F に設置
26	1F	仕掛品 (置場) (R0108 側)	G1124	MP-26-写 01	MP-26-写 02	同上	同上	MP-26-写 05 (A1161)	約 12 m	MP-26-写 06 (G1124)	約 1 m	-	-	・吹抜け *3F に設置
27	1F	仕掛品 (保管場所)	G1124	MP-27-写 01	MP-27-写 02	MP-20-写 03 <sup>*</sup> (煙感知器: 12 基)	同上	MP-20-写 05 (G1124)	約 5 m	MP-20-写 06 (G1124)	約 12 m	-	-	・吹抜け *3F に設置
28	1F	仕掛品 (置場)	A1161	MP-28-写 01	MP-28-写 02	MP-28-写 03 (熱感知器: 2 基)	同上	MP-26-写 05 (A1161)	約 1 m	MP-26-写 06 (G1124)	約 12 m	-	-	
29	1F -2F	仕掛品 (置場)	A155	MP-29-写 01	MP-29-写 02	MP-29-写 03 <sup>*</sup> (熱交換器: 2 基)	同上	MP-29-写 05 (A155)	約 6 m	MP-23-写 06 (A156)	約 18 m	-	-	・吹抜け *2F に設置
30	1F -2F	仕掛品 (置場)	A156	MP-30-写 01	MP-30-写 02	MP-30-写 03 <sup>*</sup> (熱交換器: 4 基)	同上	同上	約 6 m	同上	約 6 m	-	-	・吹抜け *2F に設置
31	1F -2F	仕掛品 (置場) (R0109 側)	G146	MP-31-写 01	MP-31-写 02	MP-31-写 03 <sup>*</sup> (熱感知器: 14 基)	同上	MP-31-写 05 (G146)	約 12 m	MP-31-写 06 (G146)	約 40 m	-	-	・吹抜け *2F に設置
32	1F -2F	仕掛品 (置場) (A045 側)	G146	MP-32-写 01	MP-32-写 02	MP-32-写 03 <sup>*</sup> (熱感知器: 14 基)	同上	MP-32-写 05 (G146)	約 2 m	同上	約 2 m	-	-	・吹抜け *2F に設置
33	1F -2F	仕掛品 (保管場所)	A157	MP-33-写 01	MP-33-写 02	MP-33-写 03 <sup>*</sup> (熱感知器: 2 基)	同上	同上	約 12 m	同上	約 12 m	-	-	・吹抜け *2F に設置

表 01 分離精製工場(MP)プラントウォークダウン結果まとめ (3/5)

No	階層	防護対象 <sup>※</sup>	防護対象の設置場所	防護対象の設置場所の状況		設置場所の火災感知の方法の状況		設置場所の消火方法の状況					備考	
				設置状況	周囲の状況	感知器 (基数)	受信機 (設置部屋)	最寄りの消火器 (部屋/距離 m)	最寄りの屋内消火栓 (部屋/距離 m)	その他の消火設備 (部屋/距離 m)				
34	1F	パルスフィルタ (243F16)	R107A	-	MP-34-写 02	MP-34-写 03 (温度警報装置: 252FDT107A)	MP-01-写 04 (G549)	-	-	-	-	-	-	・セル内機器 ・設計上の溶媒 使用量が指定 数量未満 ・入気ダンパ閉操 作による窒息消 火
35	1F	中間貯槽 (255V12)	R109B	-	MP-35-写 02	MP-35-写 03 (温度警報装置: 256FDT109B)	MP-09-写 04 (G549)	-	-	-	-	MP-09-写 07 (水噴霧消火設備 制御弁)	-	・セル内機器
36	1F	中間貯槽 (261V12)	R114	-	MP-36-写 02	MP-36-写 03 (温度警報装置: 261FDT114)	同上	-	-	-	-	MP-09-写 07 (水噴霧消火設備 制御弁)	-	・セル内機器
37	1F	中間貯槽 (266V12)	R015	-	MP-37-写 02	MP-12-写 03 (温度警報装置: 265FDT015)	同上	-	-	-	-	-	-	・セル内機器 ・入気ダンパ閉操 作による窒息消 火
38	1F	仕掛品 (保管場所)	A147	MP-38-写 01	MP-38-写 02	MP-38-写 03* (煙感知器:6基)	MP-01-写 04 (G549)	MP-38-写 05 (A147)	約 12 m	MP-38-写 06 (A145)	約 30 m	-	-	・吹抜け *2Fに設置
39	1F	仕掛品 (置場)	A147	MP-39-写 01	MP-39-写 02	MP-39-写 03 (煙感知器:6基)	同上	MP-39-写 05 (A147)	約 3 m	MP-39-写 06 (A147)	約 3 m	-	-	
40	1F	少量未満危険物	A147	MP-40-写 01	MP-40-写 02	同上	同上	同上	約 1 m	同上	約 1 m	-	-	・ギヤー油等
41	1F	一時貯槽 (263V55~V57)	A147	MP-41-写 01	MP-41-写 02	MP-41-写 03 (煙感知器:6基)	同上	MP-41-写 05 (A147)	~約 10 m	MP-41-写 06 (A147)	~約 15 m	-	-	
42	B1F - 2F	高放射性廃液貯槽 (272V12、V14)	R017	-	MP-42-写 02	-	-	-	-	-	-	-	-	・セル内機器
43	B1F - 2F	高放射性廃液貯槽 (272V16)	R016	-	MP-43-写 02	-	-	-	-	-	-	-	-	・セル内機器
44	1F	仕掛品 (置場)	A124	MP-44-写 01	MP-44-写 02	MP-44-写 03* (煙感知器:2基)	MP-01-写 04 (G549)	MP-44-写 05 (A124)	約 6 m	MP-44-写 06 (A143)	約 18 m	-	-	・吹抜け *2Fに設置
45	1F	仕掛品 (置場)	A024	MP-45-写 01	MP-45-写 02	MP-45-写 03* (煙感知器:1基)	同上	同上	約 12 m	同上	約 24 m	-	-	・階段 *3Fに設置
46	1F	仕掛品 (置場)	A122	MP-46-写 01	MP-46-写 02	MP-46-写 03* (煙感知器:2基)	同上	MP-46-写 05 (A143)	約 12 m	MP-46-写 06 (A021)	約 6 m	-	-	・吹抜け *3Fに設置
47	1F	仕掛品 (置場)	G144	MP-47-写 01	MP-47-写 02	MP-47-写 03 (熱感知器:5基)	同上	MP-47-写 05 (G144)	約 6 m	MP-44-写 06 (A143)	約 12 m	-	-	・休止措置中
48	2F	仕掛品 (置場)	A222	MP-48-写 01	MP-48-写 02	MP-46-写 03* (煙感知器:2基)	同上	MP-48-写 05 (A247)	約 12 m	MP-48-写 06 (A247)	約 12 m	-	-	・吹抜け ・休止措置中 *3Fに設置
49	2F	仕掛品 (置場) (A024側)	A247	MP-49-写 01	MP-49-写 02	MP-49-写 03 (煙感知器:3基)	同上	同上	約 12 m	同上	約 12 m	-	-	
50	2F	仕掛品 (置場) (A258側)	A247	MP-50-写 01	MP-50-写 02	MP-50-写 03 (煙感知器:3基)	同上	同上	約 6 m	同上	約 12 m	-	-	

表 01 分離精製工場(MP)プラントウォークダウン結果まとめ (4/5)

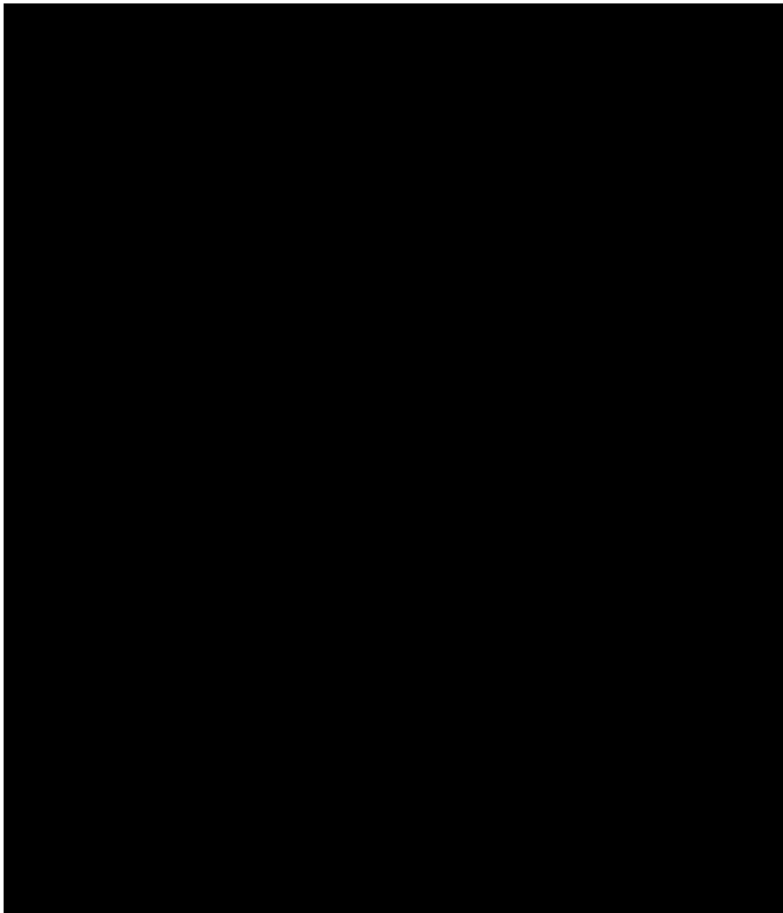
No	階層	防護対象 <sup>※</sup>	防護対象の設置場所	防護対象の設置場所の状況		設置場所の火災感知の方法の状況		設置場所の消火方法の状況					備考	
				設置状況	周囲の状況	感知器 (基数)	受信機 (設置部屋)	最寄りの消火器 (部屋/距離 m)		最寄りの屋内消火栓 (部屋/距離 m)		その他の消火設備 (部屋/距離 m)		
51	2F	少量未満危険物	A247	MP-51-写 01	MP-51-写 02	MP-51-写 03 (煙感知器:3基)	MP-01-写 04 (G549)	MP-51-写 05 (A247)	約 1 m	MP-51-写 06 (A247)	約 1 m	-	-	・ギヤー油等
52	2F	仕掛品 (置場)	G244	MP-52-写 01	MP-52-写 02	MP-52-写 03 (熱感知器:9基)	同上	MP-52-写 05 (G244)	約 12 m	MP-52-写 06 (G244)	約 12 m	-	-	
53	3F	せん断粉末	R333	MP-53-写 01	MP-53-写 02	MP-53-写 03 (温度警報装置: 230FDT333.1)	MP-53-写 04 (G346) MP-09-写 04 (G549)	-	-	-	-	MP-53-写 07 (炭酸ガス消火設 備操作盤、制御弁: G346)	-	・せん断粉末につ いては処理済み ・セル内機器
54	3F	少量未満危険物	G3154	MP-54-写 01	MP-54-写 02	MP-54-写 03 (熱感知器:2基)	MP-01-写 04 (G549)	MP-54-写 05 (G3154)	約 12 m	MP-54-写 06 (G346)	約 24 m	-	-	・ギヤー油等
55	3F	仕掛品 (置場)	G346	MP-55-写 01	MP-55-写 02	MP-55-写 03 <sup>*</sup> (熱感知器:31基)	同上	MP-55-写 05 (G346)	約 15 m	同上	約 15 m	-	-	・吹き抜け *4Fに設置
56	3F	仕掛品 (保管場所)	G346	MP-56-写 01	MP-56-写 02	MP-56-写 03 <sup>*</sup> (熱感知器:31基)	同上	MP-56-写 05 (G346)	約 6 m	MP-56-写 06 (G346)	約 12 m	-	-	・吹き抜け *4Fに設置
57	3F	仕掛品 (置場)	A355	MP-57-写 01	MP-57-写 02	MP-57-写 03 (熱感知器:4基)	同上	同上	約 18 m	MP-57-写 06 (A363)	約 12 m	-	-	
58	3F	仕掛品 (置場)	A356	MP-58-写 01	MP-58-写 02	MP-58-写 03 (熱感知器:7基)	同上	MP-58-写 05 (A343)	約 12 m	同上	約 18 m	-	-	
59	3F	仕掛品 (置場)	A359	MP-59-写 01	MP-59-写 02	MP-59-写 03 (煙感知器:7基)	同上	MP-59-写 05 (A359)	約 2 m	同上	約 18 m	-	-	
60	3F	仕掛品 (置場)	A322	MP-60-写 01	MP-60-写 02	MP-46-写 03 (煙感知器:2基)	同上	MP-60-写 05 (A322)	約 6 m	MP-60-写 06 (A347)	約 24 m	-	-	
61	3F	三酸化ウラン粉末 (三酸化ウラン循環容器)	A322	MP-61-写 01	MP-61-写 02	同上	同上	同上	約 6 m	同上	約 24 m	-	-	
62	3F	仕掛品 (置場)	A343	MP-62-写 01	MP-62-写 02	MP-62-写 03 (煙感知器:6基)	同上	MP-62-写 05 (A343)	約 6 m	MP-62-写 06 (A343)	約 30 m	-	-	
63	3F	仕掛品 (置場) (G349側)	A348	MP-63-写 01	MP-63-写 02	MP-63-写 03 (煙感知器:9基)	同上	MP-63-写 05 (A348)	約 18 m	同上	約 54 m	-	-	
64	3F	仕掛品 (置場) (A343側)	A348	MP-64-写 01	MP-64-写 02	MP-64-写 03 (煙感知器:9基)	同上	同上	約 12 m	同上	約 54 m	-	-	
65	3F	仕掛品 (置場)	A358	MP-65-写 01	MP-65-写 02	MP-65-写 03 (煙感知器:2基)	同上	MP-65-写 05 (A347)	約 12 m	MP-60-写 06 (A347)	約 18 m	-	-	
66	3F	仕掛品 (置場)	A024	MP-66-写 01	MP-66-写 02	MP-45-写 03 (煙感知器:1基)	同上	MP-66-写 05 (A024)	約 1 m	同上	約 30 m	-	-	・階段
67	4F	仕掛品 (置場)	G449	MP-67-写 01	MP-67-写 02	MP-67-写 03 (熱感知器:18基)	同上	MP-67-写 05 (G449)	約 6 m	MP-67-写 06 (G449)	約 12 m	-	-	
68	4F	仕掛品 (置場)	A464	MP-68-写 01	MP-68-写 02	MP-68-写 03 (煙感知器:8基)	同上	MP-68-写 05 (A464)	約 12 m	MP-68-写 06 (A464)	約 24 m	-	-	
69	4F	ヨウ素フィルタ	A464	MP-69-写 01	MP-69-写 02	同上	同上	同上	~約 24m	同上	~約 30 m	-	-	
70	5F	仕掛品 (置場)	A554	MP-70-写 01	MP-70-写 02	MP-70-写 03 (煙感知器:1基)	同上	MP-70-写 05 (A563)	約 6 m	MP-70-写 06 (G146)	約 6 m	-	-	
71	5F	仕掛品 (置場)	A568	MP-71-写 01	MP-71-写 02	MP-71-写 03 (熱感知器:18基)	同上	MP-71-写 05 (A568)	約 1 m	同上	約 12 m	-	-	
72	5F	仕掛品 (置場)	G565	MP-72-写 01	MP-72-写 02	MP-72-写 03 (熱感知器:25基)	同上	MP-72-写 05 (G565)	約 12 m	MP-72-写 06 (G565)	約 22 m	-	-	



表 01 分離精製工場(MP)プラントウォークダウン結果まとめ (5/5)

No	階層	防護対象 <sup>※</sup>	防護対象の設置場所	防護対象の設置場所の状況		設置場所の火災感知の方法の状況		設置場所の消火方法の状況					備考	
				設置状況	周囲の状況	感知器 (基数)	受信機 (設置部屋)	最寄りの消火器 (部屋/距離 m)		最寄りの屋内消火栓 (部屋/距離 m)		その他の消火設備 (部屋/距離 m)		
73	5F	少量未満危険物	G565	MP-73-写 01	MP-73-写 02	MP-73-写 03 (熱感知器:25 基)	MP-01-写 04 (G549)	MP-73-写 05 (G548)	約 12 m	MP-72-写 06 (G565)	約 18 m	-	-	・洗浄剤等
74	5F	仕掛品 (置場)	G543	MP-74-写 01	MP-74-写 02	MP-74-写 03 (熱感知器:18 基)	同上	MP-74-写 05 (G543)	約 12 m	MP-74-写 06 (G550)	約 30 m	-	-	
75	5F	受流槽 (201V75)	G544	MP-75-写 01	MP-75-写 02	MP-75-写 03 (熱感知器:4 基)	同上	同上	約 12 m	同上	約 42 m	-	-	・ウラン溶液については送液済
76	6F	貯槽 (201V77~V79)	G644	MP-76-写 01	MP-76-写 02	MP-76-写 03 (熱感知器:5 基)	同上	MP-76-写 05 (G644)	約 6 m	MP-76-写 06 (G050)	約 18 m	-	-	・ウラン溶液については送液済
77	6F	仕掛品 (置場)	G644	MP-77-写 01	M-P77-写 02	MP-77-写 03 (熱感知器:5 基)	同上	同上	約 1 m	同上	約 24 m	-	-	
78	6F	少量未満危険物	G650	MP-78-写 01	MP-78-写 02	MP78-写 03 (煙感知器:1 基)	同上	MP-78-写 05 (G650)	約 6 m	MP-76-写 06 (G050)	約 12 m	-	-	・潤滑油等
79	6F	少量未満危険物	G643	MP-79-写 01	MP-79-写 02	MP-79-写 03 (熱感知器:28 基)	同上	MP-79-写 05 (G643)	約 12 m	MP-79-写 06 (G643)	約 30 m	-	-	・潤滑油等
80	6F	仕掛品 (置場)	G643	MP-80-写 01	MP-80-写 02	MP-80-写 03 (熱感知器:2 基)	同上	MP-80-写 05 (G643)	約 12 m	同上	約 12 m	-	-	・休止措置中
81	6F	仕掛品 (置場)	A681	MP-81-写 01	MP-81-写 02	MP-81-写 03 (熱感知器:1 基)	同上	MP-79-写 05 (G643)	約 3 m	MP-76-写 06 (G050)	約 30 m	-	-	
82	6F	仕掛品 (置場)	A683	MP-82-写 01	MP-82-写 02	MP-82-写 03 (熱感知器:1 基)	同上	MP-80-写 05 (G643)	約 3 m	MP-79-写 06 (G643)	約 3 m	-	-	
83	6F	仕掛品 (置場)	A685	MP-83-写 01	MP-83-写 02	MP-83-写 03 (熱感知器:1 基)	同上	MP-83-写 05 (G643)	約 6 m	MP-83-写 06 (G646)	約 12 m	-	-	
84	6F	仕掛品 (置場)	A687	MP-84-写 01	MP-84-写 02	MP-84-写 03 (熱感知器:1 基)	同上	MP-84-写 05 (G643)	約 12 m	MP-84-写 06 (G646)	約 18 m	-	-	
85	6F	少量未満危険物	G677	MP-85-写 01	MP-85-写 02	MP-85-写 03 (熱感知器:3 基)	同上	MP-85-写 05 (G677)	約 12 m	MP-83-写 06 (G646)	約 18 m	-	-	・オイル
86	6F	仕掛品 (置場)	G677	MP-86-写 01	MP-86-写 02	同上	同上	同上	約 6 m	同上	約 12 m	-	-	
87	6F	危険物	G653	MP-87-写 01	MP-87-写 02	MP-87-写 03 (熱感知器:1 基)	同上	MP-87-写 05 (G646)	約 12 m	MP-84-写 06 (G646)	約 10 m	-	-	・作動油
88	1F	危険物	A122	MP-88-写 01	MP-88-写 02	MP-60-写 03* (煙感知器:2 基)	同上	MP-46-写 05 (A143)	約 12 m	MP-46-写 06 (A021)	約 6 m	-	-	・熱媒油 ・吹抜け *3Fに設置
89	2F	危険物	A222	MP-89-写 01	MP-89-写 02	同上	同上	MP-48-写 05 (A247)	約 12 m	MP-48-写 06 (A247)	約 12 m	-	-	・熱媒油 ・吹抜け *3Fに設置
90	3F	危険物	A322	MP-90-写 01	MP-90-写 02	同上	同上	MP-60-写 05 (A322)	約 6 m	MP-60-写 06 (A347)	約 24 m	-	-	・熱媒油

注 「別添 6-1-3-4 高放射性廃液貯蔵場(HAW), ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟及びそれらに関連する施設以外の分離精製工場(MP)等の施設の外部事象に対する安全対策に関する説明書」の「表 3-1 その他の施設における放射性物質の貯蔵・保管の状況(令和 2 年 6 月末時点)」に示す放射性物質等、各施設の廃棄物の仕掛品(置場及び保管場所)、危険物(少量未満危険物を含む。)



 管理区域

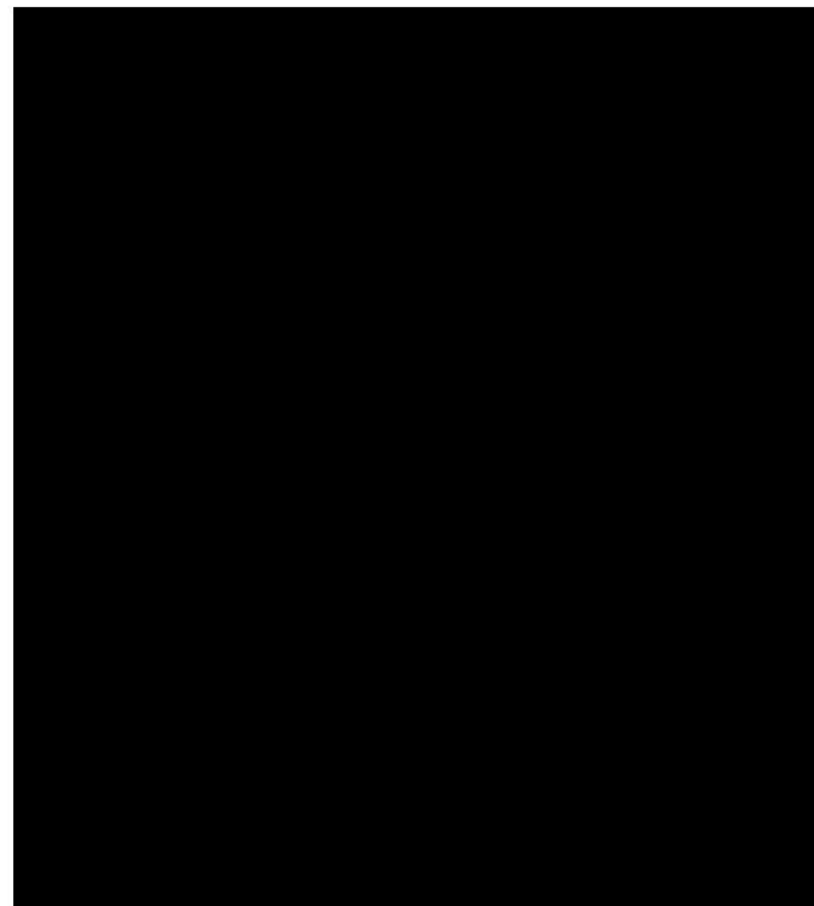
調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物

火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排用煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDT)

消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	連結送水設備送水口

図01(1)分離精製工場<sup>62</sup>(MP) 地下3階平面図

 管理区域



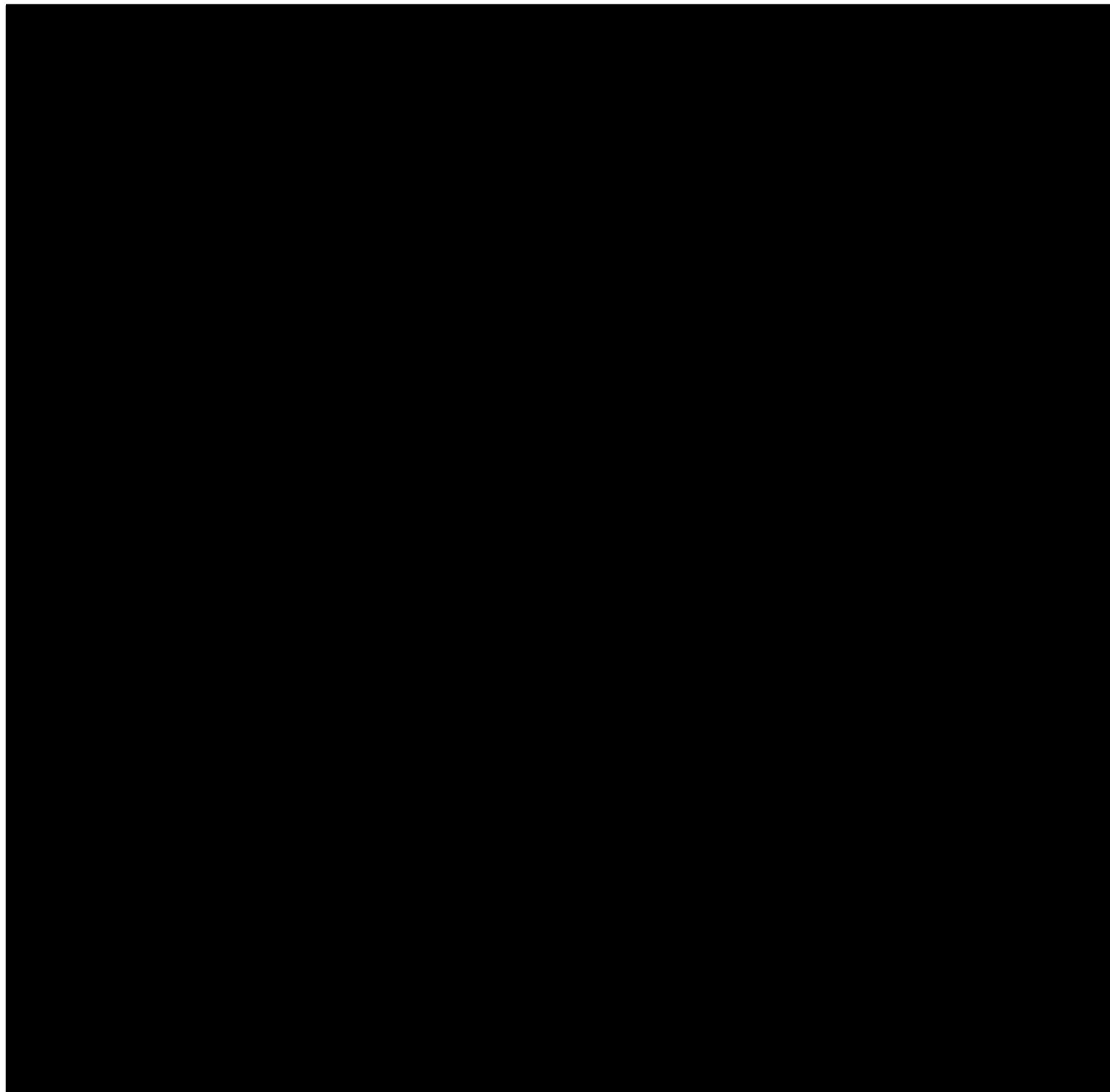
調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物

火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排用煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDI)

消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	連結送水設備送水口

図01(2)分離精製工場<sup>63</sup>(MP) 地下2階平面図




 管理区域



調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物
火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排用煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDT)
消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	連結送水設備送水口

図01(3)分離精製工場(MP) 地下1階平面図

 管理区域





調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物

火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排用煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDT)

消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	連結送水設備送水口

図01(4)分離精製工場(MP) 地上1階平面図

 管理区域

調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物

火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排用煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDI)





消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	連結送水設備送水口

図01(5)分離精製工場(MP) 地上2階平面図

	管理区域
調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物
火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排用煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDT)
消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	連結送水設備送水口

図01(6)分離精製工場(MP) 地上3階平面図

 管理区域

調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物



火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排用煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDI)

消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	連結送水設備送水口

図01(7)分離精製工場(MP) 地上4階平面図



 管理区域

調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物

火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排用煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDT)

消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	連結送水設備送水口

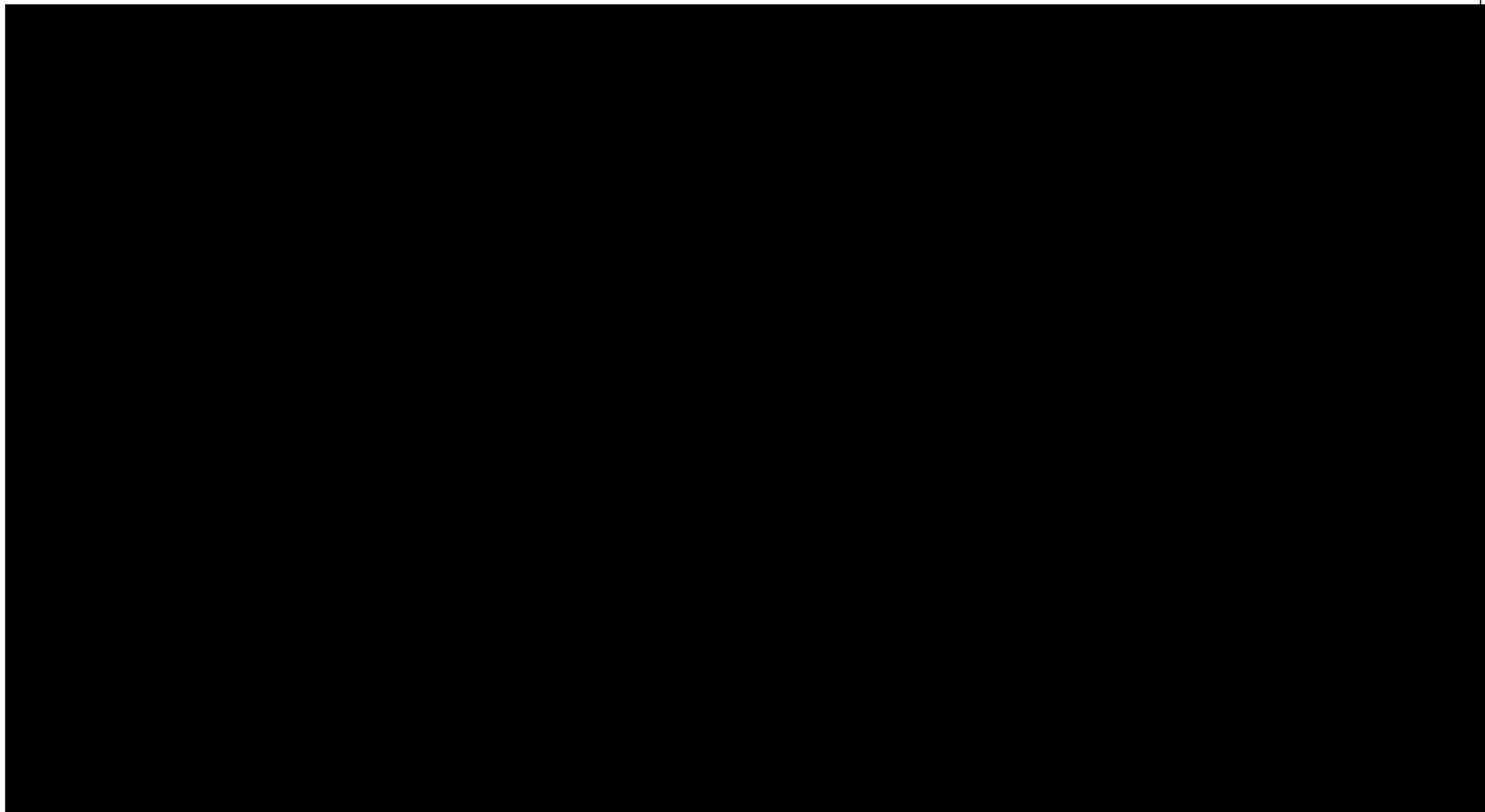



図01(8)分離精製工場(MP) 地上5階平面図

 管理区域

調査の対象	
	防護対象設備等
	廃棄物の仕掛品の保管場所
	廃棄物の仕掛品の置場
	危険物(少量未満危険物を含む。)
	指定可燃物

火災感知設備	
	熱感知器
	分布型熱感知器
	煙感知器
	防排煙感知器
	総合盤
	受信機
	セル内温度警報(FDT)

消火設備	
	屋内消火栓
	ABC消火器
	金属火災用消火器
	ハロン消火器
	CO <sub>2</sub> 消火器
	車載式消火器
	水噴霧消火設備
	粉末消火設備
	炭酸ガス消火設備
	連結送水設備送水口

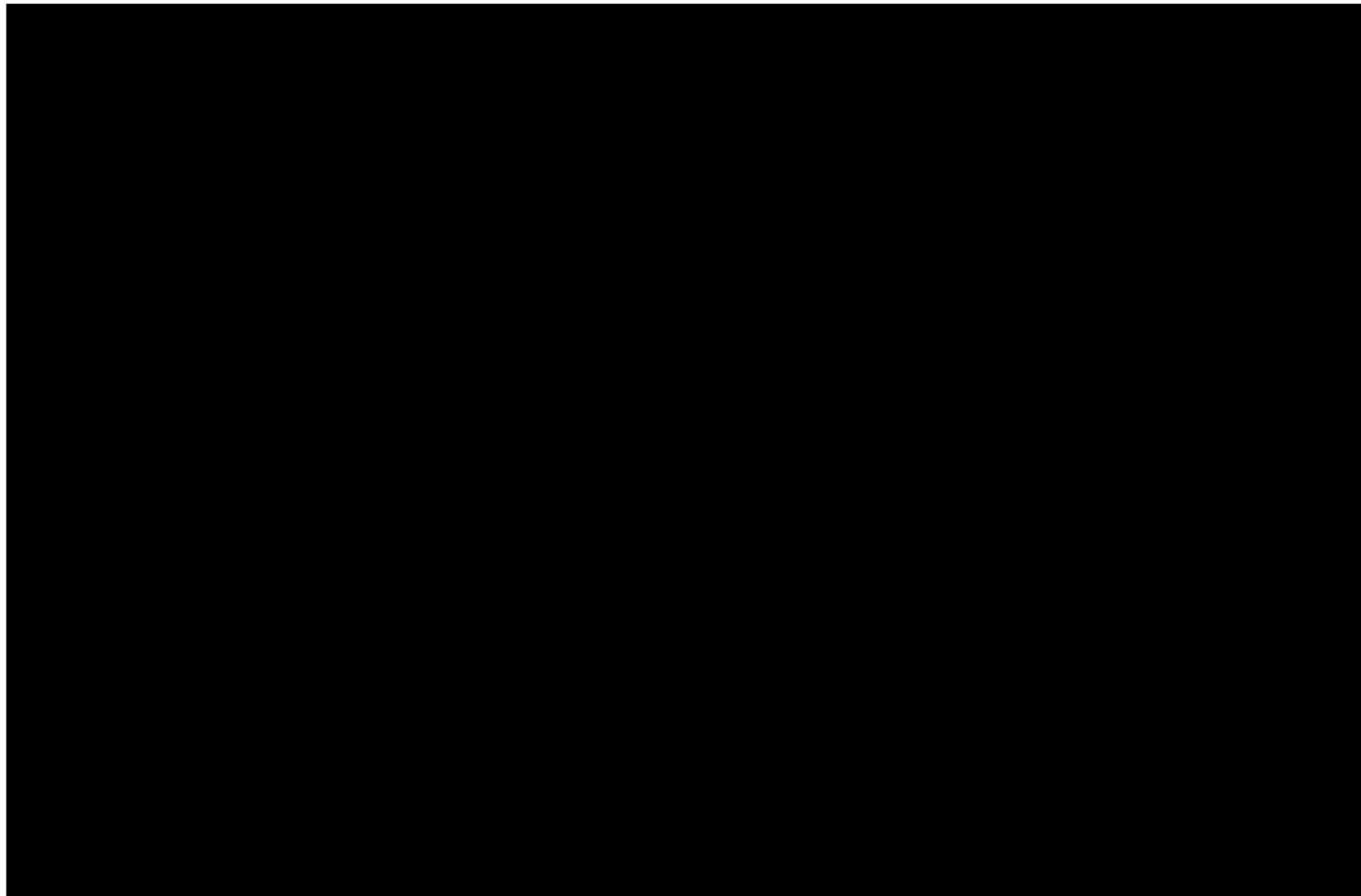


図01(9)分離精製工場(MP) 地上6階・PH平面図

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (置場) MP-01-写 01	防護対象	・仕掛品 (置場) 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地下3階 カスク除染室 (A0110) 天井：鋼板 (一部コンクリート) 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-01-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器：約 12 m ・屋内消火栓：約 18 m	
	 壁 MP-01-写 02②	 天井 MP-01-写 02③	 床 MP-01-写 02④	
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-01-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04		
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：A0115) MP-01-写 05	 屋内消火栓 (A0114) MP-01-写 06		

図 01 (1/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (置場) MP-02-写 01	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品 (置場)</li> <li>金属製容器</li> <li>非密封構造</li> </ul>
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下3階 階段室 (A0115)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：有り</li> </ul>
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-02-写 02①	人の立入	・有り
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>
		消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器：約 6 m</li> <li>・屋内消火栓：約 12 m</li> </ul>
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 壁 MP-02-写 02②	 天井 MP-02-写 02③	 床 MP-02-写 02④
	 煙感知器 MP-02-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04	
	 消火器 (ABC 消火器：A0115) MP-01-写 05	 屋内消火栓 (A0114) MP-01-写 06	

図 01 (2/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (置場) MP-03-写 01	防護対象	・仕掛品 (置場) 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地下2階 更衣室 (A0117) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-03-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
	火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能		
	消火設備	・消火器：約 12 m ・屋内消火栓：約 1 m		
	 壁 MP-03-写 02②	 天井 MP-03-写 02③	 床 MP-03-写 02④	
	設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-03-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04	
	設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：A0117) MP-03-写 05	 屋内消火栓 (A0117) MP-03-写 06	

図 01 (3/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 少量未満危険物 MP-04-写 01	防護対象	・少量未満危険物 (PT 剤等) 金属製棚 非密封構造		
		設置場所 の状況	・地下 2 階 更衣室 (A0117) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り		
		人の立入	・有り		
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し		
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-04-写 02①	火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信 機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信 機において感知可能		
		消火設備	・消火器：約 1 m ・屋内消火栓：約 12 m		
	 壁 MP-04-写 02②	 天井 MP-04-写 02③	 床 MP-04-写 02④		
	設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-04-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04		
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：A0117) MP-03-写 05	 屋内消火栓 (A0117) MP-03-写 06			

図 01 (4/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (置場) MP-05-写 01	防護対象	・仕掛品 (置場) 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地下2階 濃縮ウラン溶解セルの地下 (A046) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-05-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器：約 6 m ・屋内消火栓：約 10 m	
	 壁 MP-05-写 02②	 天井 MP-05-写 02③	 床 MP-05-写 02④	
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-05-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04		
	設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：A046) MP-05-写 05	 屋内消火栓 (A046) MP-05-写 06	

図 01 (5/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況	 使用済燃料 MP-06-写 01	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料（水中保管）</li> <li>金属製容器</li> <li>密封構造</li> </ul>
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下 3 階～地下 1 階 予備貯蔵プール（R0101）</li> <li>地下 3 階～地下 1 階 濃縮ウラン貯蔵プール（R0107）</li> <li>天井：－</li> <li>壁：コンクリート（ステンレス仕上げ）</li> <li>床：コンクリート（ステンレス仕上げ）</li> <li>照明：有り</li> </ul>
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-06-写 02	人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
設置場所の 消火方法 の状況			

図 01 (6/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



		火災防護上の特徴	
防護対象の設置状況		防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗浄液受槽 (242V13)</li> <li>・溶解槽溶液受槽 (243V10)</li> <li>・調整槽 (251V10)</li> <li>・給液槽 (251V11)</li> <li>・高放射性廃液中間貯槽 (252V13)</li> <li>・高放射性廃液中間貯槽 (252V14)</li> </ul> 金属製貯槽 密封構造
防護対象の周囲の状況		設置場所の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下1階～地上2階 給液調整セル (R006)</li> </ul> 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し
		人の立入	・無し
		防護対象近傍の危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
	 <p>閉止板 (A045側) MP-07-写 02①</p>	 <p>セル壁 (A143側) MP-07-写 02②</p>	
設置場所の火災感知の方法の状況			
設置場所の消火方法の状況			

図 01 (7/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	・パルスフィルタ (243F16A) 金属製貯槽 密封構造
		設置場所 の状況	・地下1階 放射性配管分岐室 (R026) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し
防護対象の 周囲の状況	 <p>遮蔽扉 (A043側) MP-08-写02</p>	人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
設置場所の 消火方法 の状況			

図01 (8/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



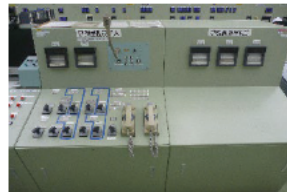

		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	・ブルトニウム溶液受槽 (276V20) 金属製貯槽 密封構造
		設置場所 の状況	・地上1階～地上1階リワークセル (R008) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し
防護対象の 周囲の状況	 閉止板 (A043側) MP-09-写02	人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・セル換気系ダクトに温度警報装置 (276FDT008) を設置 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の制 御盤監視機において感知可能
		消火設備	・水噴霧消火設備
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 温度警報装置(熱電対：A045) MP-09-写03	 制御盤監視機 (G549) MP-09-写04	
設置場所の 消火方法 の状況	 水噴霧消火設備 (制御弁：G543) MP-09-写07		

図01 (9/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果


		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	・プルトニウム製品貯槽 (267V13~16) 金属製貯槽 密封構造
		設置場所 の状況	・地下1階 プルトニウム製品貯蔵セル (R041) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し
防護対象の 周囲の状況	 <p>遮蔽プラグ (A041側) MP-10-写02</p>	人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
設置場所の 消火方法 の状況			

図01 (10/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	・プルトニウム製品貯槽 (267V10~12) 金属製貯槽 密封構造
		設置場所 の状況	・地下1階 プルトニウム製品貯蔵セル (R023) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し
		人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
防護対象の 周囲の状況		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
			
			
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
設置場所の 消火方法 の状況			

図 01 (11/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴


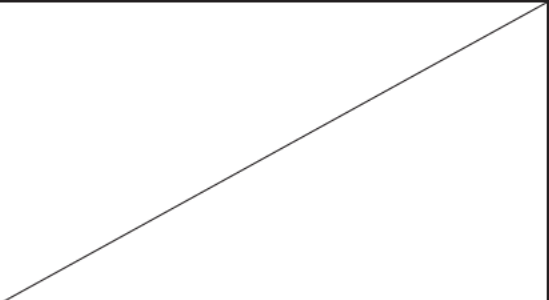
<p>防護対象 の設置状況</p>		<p>防護対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希釈槽 (266V13) 金属製貯槽 密封構造</li> </ul>	<p>設置場所 の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下1階 プルトニウム精製セル (R015) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し</li> </ul>
<p>防護対象の 周囲の状況</p>		<p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>	<p>火災感知設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セル換気系ダクトに温度警報装置 (265FDT015) を設置 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の制御盤監視機において感知可能</li> </ul>
<p>セル壁 (A043 側) MP-12-写 02</p>			
<p>設置場所の 火災感知の 方法の状況</p>	 <p>温度警報装置 (熱電対：A443) MP-12-写 03</p>	 <p>制御盤監視機 (G549) MP-09-写 04</p>	
<p>設置場所の 消火方法 の状況</p>			

図 01 (12/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

<p>防護対象 の設置状況</p>	 <p>仕掛品 (置場) MP-13-写 01</p>	<p>防護対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品 (置場)</li> <li>・金属製容器 (不燃シート養生)</li> <li>・非密封構造</li> </ul>		
<p>防護対象の 周囲の状況</p>	 <p>周囲 MP-13-写 02①</p>	<p>設置場所 の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下1階 凝縮液貯蔵室 (A042)</li> <li>・天井：コンクリート</li> <li>・壁：コンクリート</li> <li>・床：コンクリート</li> <li>・照明：有り</li> </ul>		
	 <p>壁 MP-13-写 02②</p>	 <p>天井 MP-13-写 02③</p>	 <p>床 MP-13-写 02④</p>	<p>人の立入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul>
				<p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>
				<p>火災感知設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>・分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>
<p>設置場所の 火災感知の 方法の状況</p>	 <p>煙感知器 MP-13-写 03</p>	 <p>受信機 (G549) MP-01-写 04</p>		
<p>設置場所の 消火方法 の状況</p>	 <p>消火器 (ABC 消火器：A043) MP-13-写 05</p>	 <p>屋内消火栓 (A043) MP-13-写 06</p>		

図 01 (13/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (置場) MP-14-写 01	防護対象	・仕掛品 (置場) 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地下1階 地下中央保守区域 (A043) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-14-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器：約 6 m ・屋内消火栓：約 6 m	
		 壁 MP-14-写 02②	 天井 MP-14-写 02③	 床 MP-14-写 02④
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-14-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04		
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：A043) MP-14-写 05	 屋内消火栓 (A021) MP-14-写 06		

図 01 (14/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



火災防護上の特徴

<p>防護対象 の設置状況</p>	 <p>仕掛品 (置場) MP-15-写 01</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="746 194 954 300"> <p>防護対象</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="954 194 1449 300"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品 (置場)</li> <li>金属製容器</li> <li>非密封構造</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="746 300 954 479"> <p>設置場所 の状況</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="954 300 1449 479"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下1階 プルトニウムセル操作区域 (A024)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：有り</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="746 479 954 524"> <p>人の立入</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="954 479 1449 524"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="746 524 954 607"> <p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="954 524 1449 607"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="746 607 954 748"> <p>火災感知設備</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="954 607 1449 748"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="746 748 954 824"> <p>消火設備</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="954 748 1449 824"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器：約 15 m</li> <li>・屋内消火栓：約 15 m</li> </ul> </td> </tr> </table>			<p>防護対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品 (置場)</li> <li>金属製容器</li> <li>非密封構造</li> </ul>			<p>設置場所 の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下1階 プルトニウムセル操作区域 (A024)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：有り</li> </ul>			<p>人の立入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul>			<p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>			<p>火災感知設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>			<p>消火設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器：約 15 m</li> <li>・屋内消火栓：約 15 m</li> </ul>		
<p>防護対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品 (置場)</li> <li>金属製容器</li> <li>非密封構造</li> </ul>																											
<p>設置場所 の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下1階 プルトニウムセル操作区域 (A024)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：有り</li> </ul>																											
<p>人の立入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul>																											
<p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>																											
<p>火災感知設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>																											
<p>消火設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器：約 15 m</li> <li>・屋内消火栓：約 15 m</li> </ul>																											
<p>防護対象の 周囲の状況</p>	 <p>周囲 MP-15-写 02①</p>	 <p>壁 MP-15-写 02②</p>	 <p>天井 MP-15-写 02③</p>	 <p>床 MP-15-写 02④</p>																								
<p>設置場所の 火災感知の 方法の状況</p>	 <p>煙感知器 MP-15-写 03</p>	 <p>受信機 (制御室 G549) MP-01-写 04</p>																										
<p>設置場所の 消火方法 の状況</p>	 <p>消火器 (ABC 消火器：A043) MP-13-写 05</p>	 <p>屋内消火栓 (A043) MP-13-写 06</p>																										

図 01 (15/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象の設置状況	 中間貯槽 (263V10) MP-16-写 01	防護対象	・ 中間貯槽 (263V10) 金属製容器 密封構造	
		設置場所の状況	・ 地下1階 ウラン濃縮脱硝室 (A022) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の周囲の状況	 周囲 MP-16-写 02①	人の立入	・ 有り	
		防護対象近傍の危険物・可燃物	・ 無し	
		火災感知設備	・ A043 に煙感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能	
		消火設備	・ 消火器：約 12 m ・ 屋内消火栓：約 10 m	
	 壁 MP-16-写 02②	 天井 MP-16-写 02③	 床 MP-16-写 02④	
設置場所の火災感知の方法の状況	 煙感知器 MP-14-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04		
設置場所の消火方法の状況	 消火器 (ABC 消火器：A043) MP-14-写 05	 屋内消火栓 (A021) MP-14-写 06		

図 01 (16/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	・濃縮液受槽 (273V50) 金属製貯槽 密封構造
		設置場所 の状況	・地下1階～地上3階 酸回収セル (R020) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し
防護対象の 周囲の状況		人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
			
	遮蔽扉 (A143側) MP-17-写 02①	セル壁 (A143側) MP-17-写 02②	
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
設置場所の 消火方法 の状況			

図 01 (17/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	・高放射性廃液蒸発缶 (271E20) 金属製貯槽 密封構造
		設置場所 の状況	・地下1階～地上2階 高放射性廃液濃縮セル (R018) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し
防護対象の 周囲の状況		人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
	 <p>閉止板 (A143側) MP-18-写 02①</p>	 <p>セル壁 (A143側) MP-18-写 02②</p>	
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
設置場所の 消火方法 の状況			

図 01 (18/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

		火災防護上の特徴		
防護対象 の設置状況	 少量未満危険物 MP-19-写 01	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>少量未満危険物（ギヤー油等）</li> <li>金属製棚</li> <li>非密封構造</li> </ul>	
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地上1階 トラックエアロック（W1120）</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：有り</li> </ul>	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-19-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>上部付近に熱感知器有り</li> <li>分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能</li> </ul>	
		消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火器：約 1 m</li> <li>屋内消火栓：約 24 m</li> </ul>	
	 壁 MP-19-写 02②	 天井 MP-19-写 02③	 床 MP-19-写 02④	
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 熱感知器 MP-19-写 03	 受信機（G549） MP-01-写 04		
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器（ABC 消火器：W1120） MP-19-写 05	 屋内消火栓（G1124） MP-19-写 06		

図 01 (19/90) 分離精製工場（MP）の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 少量未満危険物 MP-20-写 01	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>少量未満危険物（ギヤー油等）</li> <li>金属製棚</li> <li>非密封構造</li> </ul>	
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地上1階 クレーンホール（G1124）</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：銅板</li> <li>照明：有り</li> </ul>	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-20-写 02①	人の立入	<ul style="list-style-type: none"> <li>有り</li> </ul>	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	<ul style="list-style-type: none"> <li>無し</li> </ul>	
		火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>上部付近に煙感知器有り</li> <li>分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能</li> </ul>	
		消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火器：約 5 m</li> <li>屋内消火栓：約 15 m</li> </ul>	
		 壁 MP-20-写 02②	 天井 MP-20-写 02③	 床 MP-20-写 02④
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-20-写 03	 受信機（G549） MP-01-写 04		
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器（ABC 消火器：G1124） MP-20-写 05	 屋内消火栓（G1124） MP-20-写 06		

図 01 (20/90) 分離精製工場（MP）の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴


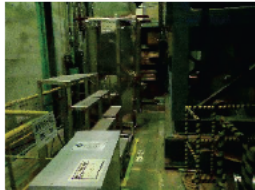


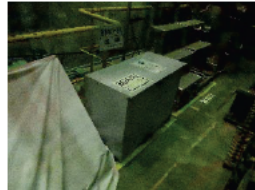
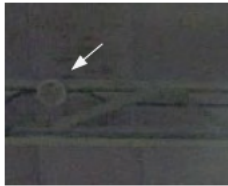



防護対象 の設置状況	 仕掛品（置場） （W1120 側） MP-21-写 01	防護対象 ・仕掛品（置場）（休止措置） 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況 ・地上1階 クレーンホール（G1124） 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：鋼板 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-21-写 02①	人の立入 ・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物 ・無し	
	火災感知設備 ・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能		
	消火設備 ・消火器：約 10 m ・屋内消火栓：約 5 m		
	 壁 MP-21-写 02②	 天井 MP-21-写 02③	 床 MP-21-写 02④
	設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-21-写 03	 受信機（G549） MP-01-写 04
	設置場所の 消火方法 の状況	 消火器（ABC 消火器：G1124） MP-20-写 05	 屋内消火栓（G1124） MP-20-写 06

図 01 (21/90) 分離精製工場（MP）の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	<p>仕掛品 (置場) (R0102 側) MP-22-写 01</p>	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品 (置場) (休止措置)</li> <li>金属製容器</li> <li>非密封構造</li> </ul>	
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上1階 クレーンホール (G1124)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：鋼板</li> <li>照明：有り</li> </ul>	
防護対象の 周囲の状況	<p>周囲 MP-22-写 02①</p>	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
	火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>		
	消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器：約 18 m</li> <li>・屋内消火栓：約 18 m</li> </ul>		
	<p>壁 MP-22-写 02②</p>	<p>天井 MP-22-写 02③</p>	<p>床 MP-22-写 02④</p>	
	設置場所の 火災感知の 方法の状況	<p>煙感知器 MP-22-写 03</p>	<p>受信機 (G549) MP-01-写 04</p>	
	設置場所の 消火方法 の状況	<p>消火器 (ABC 消火器：G1124) MP-20-写 05</p>	<p>屋内消火栓 (G1124) MP-20-写 06</p>	

図 01 (22/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



火災防護上の特徴

<p>防護対象 の設置状況</p>	 <p>仕掛品（置場） （R0103-R0104 間） MP-23-写 01</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="748 194 956 300"> <p>防護対象</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="956 194 1460 300"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品（置場）</li> <li>・金属製容器</li> <li>・非密封構造</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="748 300 956 479"> <p>設置場所 の状況</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="956 300 1460 479"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地上1階 クレーンホール（G1124）</li> <li>・天井：コンクリート</li> <li>・壁：コンクリート</li> <li>・床：コンクリート</li> <li>・照明：有り</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="748 479 956 533"> <p>人の立入</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="956 479 1460 533"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="748 533 956 607"> <p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="956 533 1460 607"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="748 607 956 748"> <p>火災感知設備</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="956 607 1460 748"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>・分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="748 748 956 824"> <p>消火設備</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="956 748 1460 824"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器：約 12 m</li> <li>・屋内消火栓：約 18 m</li> </ul> </td> </tr> </table>			<p>防護対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品（置場）</li> <li>・金属製容器</li> <li>・非密封構造</li> </ul>			<p>設置場所 の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上1階 クレーンホール（G1124）</li> <li>・天井：コンクリート</li> <li>・壁：コンクリート</li> <li>・床：コンクリート</li> <li>・照明：有り</li> </ul>			<p>人の立入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul>			<p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>			<p>火災感知設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>・分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能</li> </ul>			<p>消火設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器：約 12 m</li> <li>・屋内消火栓：約 18 m</li> </ul>		
<p>防護対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品（置場）</li> <li>・金属製容器</li> <li>・非密封構造</li> </ul>																											
<p>設置場所 の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上1階 クレーンホール（G1124）</li> <li>・天井：コンクリート</li> <li>・壁：コンクリート</li> <li>・床：コンクリート</li> <li>・照明：有り</li> </ul>																											
<p>人の立入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul>																											
<p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>																											
<p>火災感知設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>・分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能</li> </ul>																											
<p>消火設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器：約 12 m</li> <li>・屋内消火栓：約 18 m</li> </ul>																											
<p>防護対象の 周囲の状況</p>	 <p>周囲 MP-23-写 02①</p>	 <p>壁 MP-23-写 02②</p>	 <p>天井 MP-23-写 02③</p>	 <p>床 MP-23-写 02④</p>																								
<p>設置場所の 火災感知の 方法の状況</p>	 <p>煙感知器 MP-23-写 03</p>	 <p>受信機（G549） MP-01-写 04</p>																										
<p>設置場所の 消火方法 の状況</p>	 <p>消火器（ABC 消火器：G1124） MP-23-写 05</p>	 <p>屋内消火栓（A156） MP-23-写 06</p>																										

図 01 (23/90) 分離精製工場（MP）の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象の設置状況	 仕掛品（置場） （R0103 側） MP-24-写 01	防護対象	・仕掛品（置場）（休止措置） 金属製容器 非密封構造	
		設置場所の状況	・地上 1 階 クレーンホール（G1124） 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の周囲の状況	 周囲 MP-24-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器：約 12 m ・屋内消火栓：約 24 m	
	 壁 MP-24-写 02②	 天井 MP-24-写 02③	 床 MP-24-写 02④	
	設置場所の火災感知の方法の状況	 煙感知器 MP-23-写 03	 受信機（G549） MP-01-写 04	
	設置場所の消火方法の状況	 消火器（ABC 消火器：G1124） MP-23-写 05	 屋内消火栓（A156） MP-23-写 06	

図 01（24/90）分離精製工場（MP）の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品（置場） （R0104 側） MP-25-写 01	防護対象	・仕掛品（置場） 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地上1階 クレーンホール（G1124） 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-25-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器：約 12 m ・屋内消火栓：約 12 m	
	 壁 MP-25-写 02②	 天井 MP-25-写 02③	 床 MP-25-写 02④	
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-23-写 03	 受信機（G549） MP-01-写 04		
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器（ABC 消火器：G1124） MP-23-写 05	 屋内消火栓（A156） MP-23-写 06		

図 01 (25/90) 分離精製工場（MP）の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴



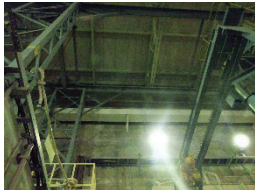

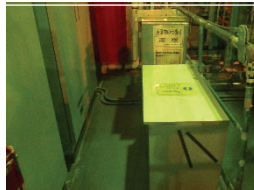


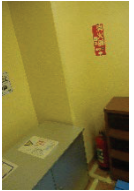

防護対象 の設置状況	 仕掛品（置場） （R0108 側） MP-26-写 01	防護対象	・仕掛品（置場）（休止措置） 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地上1階 クレーンホール（G1124） 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-26-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
	火災感知設備	・上部に煙感知器有り 分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能		
	消火設備	・消火器：約 12 m ・屋内消火栓：約 1 m		
	 壁 MP-26-写 02②	 天井 MP-26-写 02③	 床 MP-26-写 02④	
	設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-23-写 03	 受信機（G549） MP-01-写 04	
	設置場所の 消火方法 の状況	 消火器（ABC 消火器：A1161） MP-26-写 05	 屋内消火栓（G1124） MP-26-写 06	

図 01 (26/90) 分離精製工場（MP）の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



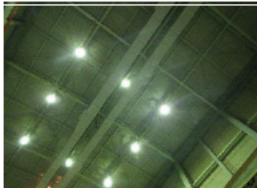




		火災防護上の特徴		
防護対象 の設置状況	 仕掛品 (保管場所) MP-27-写 01	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕掛品保管場所</li> <li>金属製棚 (不燃シート養生)</li> <li>非密封構造</li> </ul>	
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地上1階 クレーンホール (G1124)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：有り</li> </ul>	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-27-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
	火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>上部付近に煙感知器有り</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>		
	消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火器：約 5 m</li> <li>屋内消火栓：約 12 m</li> </ul>		
	 壁 MP-27-写 02②	 天井 MP-27-写 02③	 床 MP-27-写 02④	
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-20-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04		
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：G1124) MP-20-写 05	 屋内消火栓 (G1124) MP-20-写 06		

図 01 (27/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (置場) MP-28-写 01	防護対象	・仕掛品 (置場) 金属製容器 非密封構造		
		設置場所 の状況	・地上1階 更衣室 (A1161) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り		
		人の立入	・有り		
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し		
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-28-写 02①	火災感知設備	・上部付近に熱感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能		
		消火設備	・消火器：約 1 m ・屋内消火栓：約 12 m		
	壁 MP-28-写 02②	 天井 MP-28-写 02③	 床 MP-28-写 02④		
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 熱感知器 MP-28-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04			
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：A1161) MP-26-写 05	 屋内消火栓 (G1124) MP-26-写 06			

図 01 (28/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (置場) MP-29-写 01	防護対象	・仕掛品 (置場) 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地上1階 更衣室 (A155) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-29-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に熱感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器：約 6 m ・屋内消火栓：約 18 m	
	 壁 MP-29-写 02②	 天井 MP-29-写 02③	 床 MP-29-写 02④	
	設置場所の 火災感知の 方法の状況	 熱感知器 MP-29-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04	
	設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：A155) MP-29-写 05	 屋内消火栓 (A156) MP-23-写 06	

図 01 (29/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (置場) MP-30-写 01	防護対象	・仕掛品 (置場) (休止措置) 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地上1階 予備溶解槽保守区域 (A156) 天井: コンクリート 壁: コンクリート 床: コンクリート 照明: 有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-30-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に熱感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器: 約 6 m ・屋内消火栓: 約 6 m	
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 壁 MP-30-写 02②	 天井 MP-30-写 02③	 床 MP-30-写 02④	
	 熱感知器 MP-30-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04		
	 消火器 (ABC 消火器: A155) MP-29-写 05	 屋内消火栓 (A156) MP-23-写 06		

図 01 (30/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



火災防護上の特徴







防護対象の設置状況	 <p>仕掛品 (置場) (R0109 側) MP-31-写 01</p>	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品 (置場)</li> <li>金属製容器</li> <li>非密封構造</li> </ul>		
		設置場所の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上 1 階</li> <li>濃縮ウラン溶解槽装荷セル操作区域 (G146)</li> <li>天井 : コンクリート</li> <li>壁 : コンクリート</li> <li>床 : コンクリート</li> <li>照明 : 有り</li> </ul>		
		人の立入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul>		
		防護対象近傍の危険物・可燃物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>		
防護対象の周囲の状況	 <p>周囲 MP-31-写 02①</p>	火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に熱感知器有り</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>		
		消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器 : 約 12 m</li> <li>・屋内消火栓 : 約 40 m</li> </ul>		
	 <p>壁 MP-31-写 02②</p>	 <p>天井 MP-31-写 02③</p>	 <p>床 MP-31-写 02④</p>		
	設置場所の火災感知の方法の状況	 <p>熱感知器 MP-31-写 03</p>	 <p>受信機 (G549) MP-01-写 04</p>		
設置場所の消火方法の状況		 <p>消火器 (ABC 消火器 : G146) MP-31-写 05</p>	 <p>屋内消火栓 (G146) MP-31-写 06</p>		

図 01 (31/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品（置場） （A045 側） MP-32-写 01	防護対象	・仕掛品（置場） 金属製容器 非密封構造			
		設置場所 の状況	・地上 1 階 濃縮ウラン溶解槽装荷セル操作区域（G146） 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り			
		人の立入	・有り			
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し			
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-32-写 02①	火災感知設備	・上部付近に熱感知器有り 分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能			
		消火設備	・消火器：約 2 m ・屋内消火栓：約 2 m			
		壁	 MP-32-写 02②	 天井 MP-32-写 02③	 床 MP-32-写 02④	
						熱感知器
受信機（G549）	 MP-01-写 04					
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器（ABC 消火器：G146） MP-32-写 05	 屋内消火栓（G146） MP-31-写 06				

図 01（32/90）分離精製工場（MP）の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴








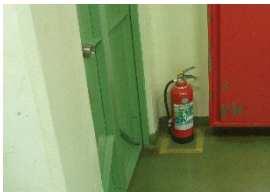

防護対象の設置状況	 仕掛品 (保管場所) MP-33-写 01	防護対象	・仕掛品 (保管場所) (現在廃棄物無し) 不燃シート養生 非密封構造		
		設置場所の状況	・地上1階 機械処理セル換気ダクト室 (A157) 天井: コンクリート 壁: コンクリート 床: コンクリート 照明: 有り		
		人の立入	・有り		
		防護対象近傍の危険物・可燃物	・無し		
防護対象の周囲の状況	 周囲 MP-33-写 02①	火災感知設備	・上部付近に熱感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能		
		消火設備	・消火器: 約 12 m ・屋内消火栓: 約 12 m		
	 壁 MP-33-写 02②	 天井 MP-33-写 02③	 床 MP-33-写 02④		
	設置場所の火災感知の方法の状況	 熱感知器 MP-33-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04		
設置場所の消火方法の状況	 消火器 (ABC 消火器: G146) MP-32-写 05	 屋内消火栓 (G146) MP-31-写 06			

図 01 (33/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントワークダウン結果



		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況	/	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>パルスフィルタ (243F16)</li> <li>金属製貯槽</li> <li>密封構造</li> </ul>
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地上1階 分離第1セル (R107A)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：無し</li> </ul>
		人の立入	<ul style="list-style-type: none"> <li>無し</li> </ul>
防護対象の 周囲の状況	/	防護対象近傍の 危険物・可燃物	<ul style="list-style-type: none"> <li>無し</li> </ul>
		火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>セル換気系ダクトに温度警報装置 (252FDT107A) を設置</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の制御盤監視機において感知可能</li> </ul>
		消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>無し</li> </ul>
	 <p>閉止板 (A143側) MP-34-写 02①</p>	 <p>セル壁 (A143側) MP-34-写 02②</p>	/
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 <p>熱電対 温度警報装置 (熱電対：A443) MP-34-写 03</p>	 <p>制御盤監視機 (G549) MP-09-写 04</p>	
設置場所の 消火方法 の状況	/		

図 01 (34/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



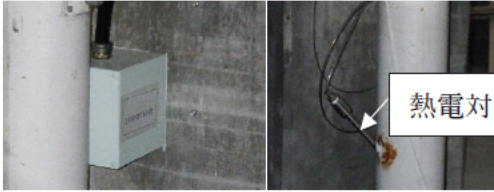


		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間貯槽 (255V12)</li> <li>金属製貯槽</li> <li>密封構造</li> </ul>
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上1階 分離第3セル (R109B)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：無し</li> </ul>
防護対象の 周囲の状況		人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セル換気系ダクトに温度警報装置 (256FDT109B) を設置</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の制御盤監視機において感知可能</li> </ul>
		消火設備	・水噴霧消火設備
			
	閉止板 (A143側) MP-35-写02①	セル壁 (A143側) MP-35-写02②	
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
	温度警報装置 (熱電対：A443) MP-35-写03	制御盤監視機 (G549) MP-09-写04	
設置場所の 消火方法 の状況			
	水噴霧消火設備 (制御弁：G543) MP-09-写07		

図01 (35/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントワークダウン結果

火災防護上の特徴

<p>防護対象 の設置状況</p>		<p>防護対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間貯槽 (261V12)</li> <li>金属製貯槽</li> <li>密封構造</li> </ul>
<p>防護対象の 周囲の状況</p>		<p>人の立入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>
<p>設置場所の 火災感知の 方法の状況</p>	<p style="text-align: center;">                   遮蔽扉 (A143側) MP-36-写 02①             </p>	<p>防護対象近傍の 危険物・可燃物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>
<p>設置場所の 消火方法 の状況</p>	<p style="text-align: center;">                   温度警報装置 (熱電対 : A443) MP-36-写 03             </p>	<p>火災感知設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セル換気系ダクトに温度警報装置 (261FDT114) を設置</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の制御盤監視機において感知可能</li> </ul>
<p>設置場所の 消火方法 の状況</p>	<p style="text-align: center;">                   水噴霧消火設備 制御弁 (G543) MP-09-写 07             </p>	<p style="text-align: center;">                   セル壁 (A143側) MP-36-写 02②             </p>	 制御盤監視機 (G549) MP-09-写 04

図 01 (36/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	/		防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間貯槽 (266V12)</li> <li>金属製貯槽</li> <li>密封構造</li> </ul>
			設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上1階 プルトニウム精製セル (R015)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：無し</li> </ul>
			人の立入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>
防護対象の 周囲の状況	/		防護対象近傍の 危険物・可燃物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>
			火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セル換気系ダクトに温度警報装置 (265FDT015) を設置</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の制御盤監視機において感知可能</li> </ul>
			消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>
	 <p>セル壁 (A143側) MP-37-写02</p>		/	
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 <p>温度警報装置 (熱電対：A443) MP-12-写03</p>		 <p>制御盤監視機 (G549) MP-09-写04</p>	
	/		/	
設置場所の 消火方法 の状況	/		/	

図01 (37/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (保管場所) MP-38-写 01	防護対象	・仕掛品 (保管場所) 金属製棚 (不燃シート養生) 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地上1階 分岐室 (A147) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-38-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
	火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能		
	消火設備	・消火器：約 12 m ・屋内消火栓：約 30 m		
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-38-写 03	 天井 MP-38-写 02③	 床 MP-38-写 02④	 受信機 (G549) MP-01-写 04
	 壁 MP-38-写 02②			
	 消火器 (ABC 消火器：A147) MP-38-写 05	 屋内消火栓 (A145) MP-38-写 06		

図 01 (38/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 仕掛品 (置場) MP-39-写 01	防護対象	・仕掛品 (置場) 金属製容器 非密封構造	
		設置場所 の状況	・地上1階 分岐室 (A147) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-39-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器：約 3 m ・屋内消火栓：約 3 m	
	 壁 MP-39-写 02②	 天井 MP-39-写 02③	 床 MP-39-写 02④	
	設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-39-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04	
	設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器：A147) MP-39-写 05	 屋内消火栓 (A147) MP-39-写 06	

図 01 (39/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象の設置状況	 少量未満危険物 MP-40-写 01	防護対象	・少量未満危険物（ギヤー油等） 金属製棚 非密封構造	
		設置場所の状況	・地上1階 分岐室（A147） 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：有り	
防護対象の周囲の状況	 周囲 MP-40-写 02①	人の立入	・有り	
		防護対象近傍の危険物・可燃物	・無し	
		火災感知設備	・上部付近に煙感知器有り 分離精製工場（MP）中央制御室（G549）の受信機及び分析所（CB）安全管理室（G220）の受信機において感知可能	
		消火設備	・消火器：約1m ・屋内消火栓：約1m	
	 壁 MP-40-写 02②	 天井 MP-40-写 02③	 床 MP-40-写 02④	
設置場所の火災感知の方法の状況	 煙感知器 MP-39-写 03	 受信機（G549） MP-01-写 04		
設置場所の消火方法の状況	 消火器（ABC 消火器：A147） MP-39-写 05	 屋内消火栓（A147） MP-39-写 06		

図 01（40/90）分離精製工場（MP）の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果


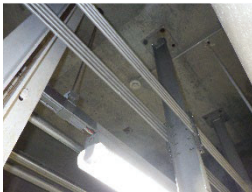


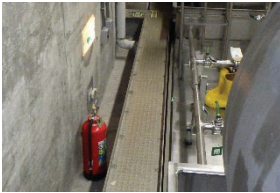

		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況	 一時貯槽 (263V55~V57) MP-41-写 01	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時貯槽 (263V55~V57)</li> <li>金属製貯槽</li> <li>密封構造</li> </ul>
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地上1階 分岐室 (A147)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：有り</li> </ul>
防護対象の 周囲の状況	 周囲 MP-41-写 02①	人の立入	<ul style="list-style-type: none"> <li>有り</li> </ul>
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	<ul style="list-style-type: none"> <li>無し</li> </ul>
		火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>上部付近に煙感知器有り</li> <li>分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>
		消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火器：約 1 m</li> <li>屋内消火栓：約 1 m</li> </ul>
	 壁 MP-41-写 02②	 天井 MP-41-写 02③	 床 MP-41-写 02④
設置場所の 火災感知の 方法の状況	 煙感知器 MP-41-写 03	 受信機 (G549) MP-01-写 04	
設置場所の 消火方法 の状況	 消火器 (ABC 消火器 : A147) MP-41-写 05	 屋内消火栓 (A147) MP-41-写 06	

図 01 (41/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果



		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>高放射性廃液貯槽 (272V12,V14)</li> <li>金属製貯槽</li> <li>密封構造</li> </ul>
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下1階～地上2階</li> <li>高放射性廃液貯蔵セル (R017)</li> <li>天井：コンクリート</li> <li>壁：コンクリート</li> <li>床：コンクリート</li> <li>照明：無し</li> </ul>
防護対象の 周囲の状況		人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
	 <p>閉止板 (A143側) MP-42-写 02①</p>	 <p>セル壁周辺 (A143側) MP-42-写 02②</p>	
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
設置場所の 消火方法 の状況			

図 01 (42/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

		火災防護上の特徴	
防護対象 の設置状況		防護対象	・高放射性廃液貯槽 (272V16) 金属製貯槽 密封構造
		設置場所 の状況	・地下1階～地上2階 高放射性廃液貯蔵セル (R016) 天井：コンクリート 壁：コンクリート 床：コンクリート 照明：無し
防護対象の 周囲の状況		人の立入	・無し
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	・無し
		火災感知設備	・無し
		消火設備	・無し
			
	閉止板 (A143側) MP-43-写02	セル壁 (A143側) MP-43-写02	
設置場所の 火災感知の 方法の状況			
設置場所の 消火方法 の状況			

図01 (43/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果

火災防護上の特徴

防護対象 の設置状況	 <p>仕掛品 (置場) MP-44-写 01</p>	防護対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛品 (置場)</li> <li>・金属製容器</li> <li>・非密封構造</li> </ul>
		設置場所 の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上1階 プルトニウムセル操作区域 (A124)</li> <li>・天井：コンクリート</li> <li>・壁：コンクリート</li> <li>・床：鋼板</li> <li>・照明：有り</li> </ul>
防護対象の 周囲の状況	 <p>周囲 MP-44-写 02①</p>	人の立入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> </ul>
		防護対象近傍の 危険物・可燃物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>
		火災感知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部付近に煙感知器有り</li> <li>・分離精製工場 (MP) 中央制御室 (G549) の受信機及び分析所 (CB) 安全管理室 (G220) の受信機において感知可能</li> </ul>
		消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火器：約 6 m</li> <li>・屋内消火栓：約 18 m</li> </ul>
	 <p>壁 MP-44-写 02②</p>	 <p>天井 MP-44-写 02③</p>	 <p>床 MP-44-写 02④</p>
	設置場所の 火災感知の 方法の状況	 <p>煙感知器 MP-44-写 03</p>	 <p>受信機 (G549) MP-01-写 04</p>
	設置場所の 消火方法 の状況	 <p>消火器 (ABC 消火器：A124) MP-44-写 05</p>	 <p>屋内消火栓 (A143) MP-44-写 06</p>

図 01 (44/90) 分離精製工場 (MP) の内部火災対策に係るプラントウォークダウン結果